

② 仮設工事	1 騒音・粉じん等の対策 ② 足場等	・防音パネル ・防音シート [2.1.3] 防音パネル等を取り付ける足場等の設置範囲 ※図示 [2.2.1][表2.2.1] 「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における2の(1)手すり設置方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行う。 外部足場 ○設置する(設置範囲 ○図示) ・設置しない 防護ネット等 ○設置する(設置範囲 ○図示) ・設置しない 内部足場 ○設置する(※脚立、足場板等 ・図示) ・設置しない 材料、撤去材等の運搬方法 種別(・A種 ・B種 ・C種 ○D種 ・E種) C種:利用可能なエレベーター(・図示 ○打合せによる) D種:利用可能な階段 (・図示 ○打合せによる)																																							
	③ 既存部分の養生	墜落制止用器具の使用は、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」(厚生労働省 H30.6.22)による。 ○フルハーネス型墜落制止用器具を用いる。 [2.3.1] 既存部分 養生の方法(※ビニルシート、合板等) 既存家具、既存設備等 養生の方法(※ビニルシート等) 既存ブラインド、カーテン等 養生の方法(○ビニルシート等) 保管場所(・図示 ・図示 ○打合せによる) 固定された備品、机、ロッカー等の移動 ・図示 ・協議による 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。 [2.3.2][表2.3.1] 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ・図示 仮設間仕切りの種別と材質等 <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>下地</th> <th>仕上げ(厚さmm)</th> <th>塗装</th> <th>充填材</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td>・木</td> <td>・せつこうボード(9.5mm)</td> <td>・無し</td> <td>・無し</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>・軽量鉄骨</td> <td>種類()</td> <td>・片面</td> <td>※有り</td> </tr> <tr> <td>※C種</td> <td>単管</td> <td>・合板(9.0mm)</td> <td>・片面</td> <td>・無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・材種()</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 充填材:グラスウール32k(厚:50mm以上) 仮設間仕切りに設ける仮設扉の材質等 <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>仕上げ</th> <th>塗装</th> <th>設置箇所</th> <th>充填材</th> </tr> <tr> <td>※木製</td> <td>※合板張り程度</td> <td>・無し</td> <td>※図示</td> <td>・無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・片面</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 充填材:グラスウール32k(厚:50mm以上)	種別	下地	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填材	・A種	・木	・せつこうボード(9.5mm)	・無し	・無し	・B種	・軽量鉄骨	種類()	・片面	※有り	※C種	単管	・合板(9.0mm)	・片面	・無し			・材種()			材質	仕上げ	塗装	設置箇所	充填材	※木製	※合板張り程度	・無し	※図示	・無し			・片面	
種別	下地	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填材																																					
・A種	・木	・せつこうボード(9.5mm)	・無し	・無し																																					
・B種	・軽量鉄骨	種類()	・片面	※有り																																					
※C種	単管	・合板(9.0mm)	・片面	・無し																																					
		・材種()																																							
材質	仕上げ	塗装	設置箇所	充填材																																					
※木製	※合板張り程度	・無し	※図示	・無し																																					
		・片面																																							
4 仮設間仕切り	[2.4.1] 規模 ・既存建物内の一部を使用 ・構内に新設 m ※設置しない(下記備品のみ用意する) 備品(名分相当) ・机 ・椅子 ・書櫃 ・黒板 ・掛時計 ・寒暖計 ・長靴 ・両合羽 ・保護帽 ・懐中電灯 ・墜落制止用器具 ・軍手 ・衣類ロッカー ・冷暖房機器 ・消火器 ・湯沸器 ・茶器 ・掃除用具 ・電話機 ・FAX ・電子メール通信機器 ・スキャナー ・プリンター ※設置する([1.1.12]による表示 ・要 ○不要) ・設置しない [2.4.1][1.1.12] 構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる ○有償 ・無償 構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる(別途施設調整を行うこと) ※図示 ※設置位置等は監督員の指示による ○図示 図示の有無に関わらず、監督員と協議の上、必要に応じ適切に配置し的確に対応すること。 必要に応じ搬入路付近に交通誘導員を配置する。 配置箇所 ※監督員の指示による ・図示 仕様 ※図示																																								
5 監督員事務所	[2.4.1] 規模 ・既存建物内の一部を使用 ・構内に新設 m ※設置しない(下記備品のみ用意する) 備品(名分相当) ・机 ・椅子 ・書櫃 ・黒板 ・掛時計 ・寒暖計 ・長靴 ・両合羽 ・保護帽 ・懐中電灯 ・墜落制止用器具 ・軍手 ・衣類ロッカー ・冷暖房機器 ・消火器 ・湯沸器 ・茶器 ・掃除用具 ・電話機 ・FAX ・電子メール通信機器 ・スキャナー ・プリンター ※設置する([1.1.12]による表示 ・要 ○不要) ・設置しない [2.4.1][1.1.12] 構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる ○有償 ・無償 構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる(別途施設調整を行うこと) ※図示 ※設置位置等は監督員の指示による ○図示 図示の有無に関わらず、監督員と協議の上、必要に応じ適切に配置し的確に対応すること。 必要に応じ搬入路付近に交通誘導員を配置する。 配置箇所 ※監督員の指示による ・図示 仕様 ※図示																																								
⑥ 現場表示板																																									
⑦ 工事用水																																									
⑧ 工事用電力																																									
⑨ 工事用搬入路																																									
⑩ 仮囲い																																									
⑪ 交通誘導員																																									
12 快適トイレ																																									
A 仮設物	仮設物の位置・仕様・車両の進入方法等、施設内の車両の通行路について、<2.3.1>施工前に必ず監督員、施設管理者と協議すること。																																								
B 火元責任者	火災防止に配慮し、火元責任者を配すること。																																								
C その他	○仮囲い等は現場の状況に合わせて適宜計画すること。 ○ゲート等の位置は監督員と協議の上、必要に応じて適切な位置に移動すること。 ○仮設材の位置・仕様・車両の通行路と進入方法等について、施工前に必ず監督員と協議すること。 ○近隣や施設の行事予定を把握し、工事車両の入場計画を立てること。																																								

① 解体施工	屋外設備等 ○樹木等	フェンス等工物の撤去 ・行う(※図示) ・行わない <3.10.> 樹木の伐採伐根及び移植 <3.11.1> ※図示 ○協議による
② 建設廃棄物の処理	① 一般事項 ② 再資源化等(再資源化及び削減)	[1.1.12] ※受注者は、「資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)」等に基づき、次の対象工事について、工事着手前に本工事に係る「再生資源利用(促進)計画書」及び「工事登録証明書」を建設副産物情報交換システム(COBRIS)により作成し、施工計画書に含む各1部提出する。 また、工事完成後速やかに計画の実施状況(実績)について、「再生資源利用(促進)実施書」及び「工事登録証明書」を同システムにより作成し、各1部提出するとともに、これらの記録を保存する。 (a) 再生資源利用計画書(実施書)の作成対象工事(下記のいずれかに該当する工事) (1) 500m ³ 以上の土砂を搬入する工事 (2) 500t以上の砕石を搬入する工事 (3) 200t以上の加熱アスファルト混合物を搬入する工事 (4) 最終工事請負金額が100万円以上の工事 (計画書については、当初工事請負金額が100万円以上の工事) (b) 再生資源利用促進計画書(実施書)の作成対象工事(下記のいずれかに該当する工事) (1) 500m ³ 以上の建設発生土を搬出する工事 (2) アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、及び建設発生木材の合計で200t以上搬出する工事 (3) 最終工事請負金額が100万円以上の工事 (計画書については、当初工事請負金額が100万円以上の工事)
3 再資源化し、現場で利用する建設廃棄物	建設廃棄物の種類 備考 ○コンクリート ・コンクリート及び鉄から成る 建設資材 ・木材 ○アスファルトコンクリート ○金風類 ・建設泥土 ・小形二次電池 ○蛍光灯及びHIDランプ ・硬質塩化ビニル管及び継手 ○ガラス ・木材(縮減)	中間処理施設又は再資源化施設の別 ・監督員と協議
4 産業廃棄物広域認定制度の活用	廃棄物の種類 数量 備考 最終処分場 ・監督員と協議	中間処理施設又は再資源化施設の別 ・監督員と協議
5 最終処分	廃棄物の種類 備考 最終処分場 ・監督員と協議	中間処理施設又は再資源化施設の別 ・監督員と協議
6 処理に注意を要する建設廃棄物	廃棄物の種類 備考 ・石綿含有せつこうボード ・ひ素・カドミウム含有せつこうボード ・上記以外のせつこうボード ・CCA処理木材	中間処理施設又は再資源化施設の別 ・監督員と協議
7 舗装版切断時に発生する濁水の処理	(濁水の処理) 中間処理施設を選定する場合には事前に監督員の承諾を得るものとする。 種類 汚泥 (共通事項) 1 受注者は、舗装版切断作業を行いつつ濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。 2 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。 3 受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。 4 受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理票(以下「マニフェスト」という。)により管理するものとする。 (提出書類等) 1 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。 2 受注者は、工事完成後速やかにマニフェストの写しを監督員に提出しなければならないものとする。 (その他) 受注者は、バキューム式以外の工法(舗装版切断時に濁水を生じない等)を使用する場合には、事前に発注者と協議するものとする。	中間処理施設又は再資源化施設の別 ・監督員と協議

① 特別管理産業廃棄物の処理	1 施工調査 ② 分析調査 3 特別管理産業廃棄物の処理 4 PCBを含む機器類 5 PCB含有シリング材 6 ダイオキシン類	※特別管理産業廃棄物の調査を次により行う。 <5.1.2> (1)特別管理産業廃棄物の使用状況について、設計図書及び目視により製造所名、製造年、型式、種類、数量等を調査する。 (2)特別管理産業廃棄物に付した、収集運搬業者、処分業者、回収業者、産業廃棄物処理施設、処分条件等を調査する。 (3)調査結果は調査にとりまとめ、監督員に提出する。 <5.1.2> 分析調査を行う特別管理産業廃棄物の種類 採取する部位・箇所数 備考 ・PCB含有シリング 部位・図示 分析調査(第一次判定) 箇所数: 箇所 ・PCB含有シリング 部位・図示 分析調査(第二次判定) 箇所数: 箇所 ・PCB含有シリング分析調査 ・監督員と協議 <5.4.1> ・PCBを含む機器の微量PCBの分析調査 <5.4.1> ・絶縁油のPCB含有量の分析調査 「特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検定方法(平成4年7月3日厚生省告示第192号)」又は「絶縁油中の微量PCBに関する簡易測定法マニュアル(環境省)」により行う。 ・ダイオキシン類のサンプリング調査 「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類暴露防止対策要綱(平成13年4月25日付基発第401号)」により行う。 <5.4.1> <5.4.1> 特別管理産業廃棄物の種類 備考 ・塵石綿等 ・PCBを含む機器類 ・PCB含有シリング材 ・廃油 ・廃酸/廃アルカリ ・ダイオキシン類 処理施設 ・監督員と協議 引渡しを要する機器類 <5.4.1> 除去処理工事 <5.4.1> 除去範囲 ※図示 撤去方法 ・「標準施工要領書(日本シリング工業事業協同組合連合会/日本シリング材工業会)」による。 廃棄物の焼却施設の解体 解体方法 処分方法 石綿含有建材の事前調査 <1.4.1> 石綿含有建材の事前調査 調査範囲 ○本工事施工範囲 ・図示) 貨と資料(石綿含有建材調査結果報告書) 設計書に記載がない場合、「みなし」として報告、施工する。 分析による石綿含有建材の調査 <1.4.1> 分析対象 アモサイト、クリソタイト、クロソライト、アクチノライト、アンソフイライト、トレモライト 分析方法 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">材 料 名</th> <th colspan="2">定性分析方法</th> <th colspan="2">定量分析方法</th> </tr> <tr> <th>JIS A 1481-1</th> <th>JIS A 1481-2</th> <th>JIS A 1481-3</th> <th>JIS A 1481-4</th> </tr> <tr> <td>・7x7x7防水(屋根)</td> <td>※ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> </table> サンプル数 1箇所あたり3サンプル 吹付け材及び保温材等は ※ 10cm ³ /箇所 ・ /箇所 とする。 成形板は ※ 100cm ² /箇所 ・ /箇所 とする。 採取箇所 ・図示 分析結果については監督員に提出すること。 「9 環境配慮改修工事」による ○近隣説明及び諸官庁への届出は受注者が行い、事前に監督員と協議をすること。	材 料 名	定性分析方法		定量分析方法		JIS A 1481-1	JIS A 1481-2	JIS A 1481-3	JIS A 1481-4	・7x7x7防水(屋根)	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所
材 料 名	定性分析方法			定量分析方法																						
	JIS A 1481-1	JIS A 1481-2	JIS A 1481-3	JIS A 1481-4																						
・7x7x7防水(屋根)	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																						
・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																						
・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																						
② 石綿含有建材の除去及び処理	2 石綿含有分析調査 ③ 石綿粉じん濃度測定 ④ その他	石綿含有建材の事前調査 <1.4.1> 石綿含有建材の事前調査 調査範囲 ○本工事施工範囲 ・図示) 貨と資料(石綿含有建材調査結果報告書) 設計書に記載がない場合、「みなし」として報告、施工する。 分析による石綿含有建材の調査 <1.4.1> 分析対象 アモサイト、クリソタイト、クロソライト、アクチノライト、アンソフイライト、トレモライト 分析方法 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">材 料 名</th> <th colspan="2">定性分析方法</th> <th colspan="2">定量分析方法</th> </tr> <tr> <th>JIS A 1481-1</th> <th>JIS A 1481-2</th> <th>JIS A 1481-3</th> <th>JIS A 1481-4</th> </tr> <tr> <td>・7x7x7防水(屋根)</td> <td>※ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> </table> サンプル数 1箇所あたり3サンプル 吹付け材及び保温材等は ※ 10cm ³ /箇所 ・ /箇所 とする。 成形板は ※ 100cm ² /箇所 ・ /箇所 とする。 採取箇所 ・図示 分析結果については監督員に提出すること。 「9 環境配慮改修工事」による ○近隣説明及び諸官庁への届出は受注者が行い、事前に監督員と協議をすること。	材 料 名	定性分析方法		定量分析方法		JIS A 1481-1	JIS A 1481-2	JIS A 1481-3	JIS A 1481-4	・7x7x7防水(屋根)	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所
材 料 名	定性分析方法			定量分析方法																						
	JIS A 1481-1	JIS A 1481-2	JIS A 1481-3	JIS A 1481-4																						
・7x7x7防水(屋根)	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																						
・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																						
・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																						

E 特殊な建設副産物の処理	1 施工調査	<7.1.3> 分析調査を行う特殊な建設副産物の種類 採取する部位・箇所数 備考 回収及び処分を行う特殊な建設副産物の種類 備考 ・フロン(冷媒) ・建材用断熱材フロン ・ハロン ・イオン化式センサー ・六フッ化硫黄(SF6)ガス ・PFOS(ペルフルオロオクタン酸) ・特定化学物質() ・その他の特殊な建設副産物()
	2 回収及び処分	回収又は処分 ・機械設備図による
豊春小学校外7校避難所空調設備設置工事(武里小学校)	豊春小学校外7校避難所空調設備設置工事(武里小学校)	共通-02

⑦ 塗装改修工事	① 材料	<p>屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放数量 ※F☆☆☆☆ [7.1.3]</p> <p>防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。(箇所：)</p> <p>塗替えR品種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※劣化部分は除去し、活膜部分は残す。・図示 [7.2.1~7]</p> <p>下地調整</p> <table border="1"> <tr> <th>下地面の種類</th> <th>下地調整の種類</th> <th>塗替え</th> <th>ひび割れ部の補修</th> </tr> <tr> <td>木部</td> <td>※不透明塗料塗りの場合はRB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>・RA種(注) ※RB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面</td> <td>・RA種(注) ※RB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面(鋼製建具)</td> <td>・RA種 ※RB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>珪砂、せっこうフラスコ面</td> <td>・RA種 ※RB種</td> <td>・行う</td> <td>・行わない</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面(DP以外)</td> <td>・RA種 ※RB種</td> <td>・行う</td> <td>・行わない</td> </tr> <tr> <td>A.L.C.パネル面</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>押出成形セメント板面</td> <td>・RA種(注)</td> <td>・行う</td> <td>・行わない</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面(DP)</td> <td>・RA種(注)</td> <td>・行う</td> <td>・行わない</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード面及びその他ボード面</td> <td>・RA種 ※RB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table> <p>(注)DP以外からDPへ塗替えの場合の下地調整は、既存塗膜の種類及び劣化状況に応じてRA種(既存塗膜全除去)又はRB種(既存塗膜一部除去)を選定すること。</p>	下地面の種類	下地調整の種類	塗替え	ひび割れ部の補修	木部	※不透明塗料塗りの場合はRB種	—	—	鉄鋼面	・RA種(注) ※RB種	—	—	亜鉛めっき面	・RA種(注) ※RB種	—	—	亜鉛めっき面(鋼製建具)	・RA種 ※RB種	—	—	珪砂、せっこうフラスコ面	・RA種 ※RB種	・行う	・行わない	コンクリート面(DP以外)	・RA種 ※RB種	・行う	・行わない	A.L.C.パネル面	—	—	—	押出成形セメント板面	・RA種(注)	・行う	・行わない	コンクリート面(DP)	・RA種(注)	・行う	・行わない	せっこうボード面及びその他ボード面	・RA種 ※RB種	—	—	⑧ 環境配慮改修工事																																
	下地面の種類	下地調整の種類	塗替え	ひび割れ部の補修																																																																											
木部	※不透明塗料塗りの場合はRB種	—	—																																																																												
鉄鋼面	・RA種(注) ※RB種	—	—																																																																												
亜鉛めっき面	・RA種(注) ※RB種	—	—																																																																												
亜鉛めっき面(鋼製建具)	・RA種 ※RB種	—	—																																																																												
珪砂、せっこうフラスコ面	・RA種 ※RB種	・行う	・行わない																																																																												
コンクリート面(DP以外)	・RA種 ※RB種	・行う	・行わない																																																																												
A.L.C.パネル面	—	—	—																																																																												
押出成形セメント板面	・RA種(注)	・行う	・行わない																																																																												
コンクリート面(DP)	・RA種(注)	・行う	・行わない																																																																												
せっこうボード面及びその他ボード面	・RA種 ※RB種	—	—																																																																												
2 下地調整	<p>下地面等</p> <table border="1"> <tr> <th>下地面等</th> <th>塗料の種類</th> <th>工程の種類</th> </tr> <tr> <td>木部</td> <td>不透明塗料塗りの場合</td> <td>※A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>透明塗料塗りの場合</td> <td>・ A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面(DP以外)</td> <td>—</td> <td>・ A種 ・ B種 ※C種</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面(DP)</td> <td>—</td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面</td> <td>—</td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>珪砂面及びせっこうフラスコ面</td> <td>—</td> <td>・ A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面(DP以外)及びALCパネル面</td> <td>—</td> <td>・ A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面(DP)</td> <td>—</td> <td>・ A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>押出成形セメント板面及びコンクリート面(DP)</td> <td>—</td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面(DPのみ)</td> <td>—</td> <td>・ A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード面及びその他ボード面</td> <td>目地：縦目処理工法</td> <td>※A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目地：縦目処理工法以外</td> <td>・ A種 ※B種</td> </tr> </table>	下地面等	塗料の種類	工程の種類	木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・ B種		透明塗料塗りの場合	・ A種 ※B種	鉄鋼面(DP以外)	—	・ A種 ・ B種 ※C種	鉄鋼面(DP)	—	・ A種 ・ B種	亜鉛めっき面	—	・ A種 ・ B種	珪砂面及びせっこうフラスコ面	—	・ A種 ※B種	コンクリート面(DP以外)及びALCパネル面	—	・ A種 ※B種	コンクリート面(DP)	—	・ A種 ※B種	押出成形セメント板面及びコンクリート面(DP)	—	・ A種 ・ B種	コンクリート面(DPのみ)	—	・ A種 ※B種	せっこうボード面及びその他ボード面	目地：縦目処理工法	※A種 ・ B種		目地：縦目処理工法以外	・ A種 ※B種																																							
下地面等	塗料の種類	工程の種類																																																																													
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・ B種																																																																													
	透明塗料塗りの場合	・ A種 ※B種																																																																													
鉄鋼面(DP以外)	—	・ A種 ・ B種 ※C種																																																																													
鉄鋼面(DP)	—	・ A種 ・ B種																																																																													
亜鉛めっき面	—	・ A種 ・ B種																																																																													
珪砂面及びせっこうフラスコ面	—	・ A種 ※B種																																																																													
コンクリート面(DP以外)及びALCパネル面	—	・ A種 ※B種																																																																													
コンクリート面(DP)	—	・ A種 ※B種																																																																													
押出成形セメント板面及びコンクリート面(DP)	—	・ A種 ・ B種																																																																													
コンクリート面(DPのみ)	—	・ A種 ※B種																																																																													
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：縦目処理工法	※A種 ・ B種																																																																													
	目地：縦目処理工法以外	・ A種 ※B種																																																																													
3 素地ごしらえ	<p>錆止め塗料塗りの種類 [7.4.2、3]</p> <table border="1"> <tr> <th>素地面</th> <th>塗料の種類</th> <th>塗料の種類</th> <th>工程の種類</th> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>SOP</td> <td>塗替え</td> <td>A種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工程の種類は [表7.4.3]</td> <td>新規見え隠れ</td> <td>A種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>EP-G</td> <td>塗替え</td> <td>A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工程の種類は [表7.4.3]</td> <td>新規見え隠れ</td> <td>A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>DP</td> <td>塗替え</td> <td>7.4.2(1)(f)(b)による</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工程の種類は [表7.4.4]</td> <td>新規</td> <td>7.4.2(1)(f)(a)による</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面</td> <td>SOP</td> <td>塗替え</td> <td>※A種 ・ B種 ※C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工程の種類は [表7.4.5]</td> <td>新規鋼製建具等</td> <td>※A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>EP-G</td> <td>塗替え</td> <td>C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工程の種類は [表7.4.5]</td> <td>新規鋼製建具等</td> <td>C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>DP</td> <td>塗替え</td> <td>B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>工程の種類は [表7.4.6]</td> <td>新規</td> <td>B種</td> </tr> </table>	素地面	塗料の種類	塗料の種類	工程の種類	鉄鋼面	SOP	塗替え	A種		工程の種類は [表7.4.3]	新規見え隠れ	A種		EP-G	塗替え	A種 ※B種		工程の種類は [表7.4.3]	新規見え隠れ	A種 ※B種		DP	塗替え	7.4.2(1)(f)(b)による		工程の種類は [表7.4.4]	新規	7.4.2(1)(f)(a)による	亜鉛めっき面	SOP	塗替え	※A種 ・ B種 ※C種		工程の種類は [表7.4.5]	新規鋼製建具等	※A種 ・ B種		EP-G	塗替え	C種		工程の種類は [表7.4.5]	新規鋼製建具等	C種		DP	塗替え	B種		工程の種類は [表7.4.6]	新規	B種																										
素地面	塗料の種類	塗料の種類	工程の種類																																																																												
鉄鋼面	SOP	塗替え	A種																																																																												
	工程の種類は [表7.4.3]	新規見え隠れ	A種																																																																												
	EP-G	塗替え	A種 ※B種																																																																												
	工程の種類は [表7.4.3]	新規見え隠れ	A種 ※B種																																																																												
	DP	塗替え	7.4.2(1)(f)(b)による																																																																												
	工程の種類は [表7.4.4]	新規	7.4.2(1)(f)(a)による																																																																												
亜鉛めっき面	SOP	塗替え	※A種 ・ B種 ※C種																																																																												
	工程の種類は [表7.4.5]	新規鋼製建具等	※A種 ・ B種																																																																												
	EP-G	塗替え	C種																																																																												
	工程の種類は [表7.4.5]	新規鋼製建具等	C種																																																																												
	DP	塗替え	B種																																																																												
	工程の種類は [表7.4.6]	新規	B種																																																																												
4 錆止め塗料塗り	<p>塗装の種類 [7.5.2~7.12.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>塗装の種類</th> <th>塗装面</th> <th>塗料の種類</th> <th>工程の種類</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)</td> <td>木部屋外</td> <td>※B種</td> <td>※A種</td> </tr> <tr> <td>木部屋内</td> <td>※B種</td> <td>※B種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・塗料の種類 ※1種 ・ 2種</td> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面(鋼製建具)</td> <td>※B種</td> <td>※B種</td> </tr> <tr> <td>・クリヤラッカー塗り(CL)</td> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種</td> <td>A種 ※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)</td> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種</td> <td>A種 ※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>・耐候性塗料塗り(DP)</td> <td>亜鉛めっき面</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コンクリート面及び押出成形材の板面</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)</td> <td>屋内の木部</td> <td>※B種</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>屋内の鉄鋼面</td> <td>※B種</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>屋内の亜鉛めっき面</td> <td>※A種</td> <td>・ B種 ※A種</td> </tr> <tr> <td>・合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)</td> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種</td> <td>・ A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)</td> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種</td> <td>A種 ※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>・ステイン塗り</td> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種</td> <td>・ A種 ※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>・木材保護塗料塗り(WP)</td> <td>木部</td> <td>※B種</td> <td>A種 ※B種 ・ A種</td> </tr> </table> <p>つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(コンクリート面、珪砂面、せっこうフラスコ面、せっこうボード面、その他ボード面)の塗替えのしきり止め ※B種又はC種の場合は[表7.9.1]の工程1の下塗りをしきり止めシーラーとする</p> <p>合成樹脂エマルジョンペイント塗りの塗替えのしきり止め ※B種又はC種の場合は[表7.10.1]の工程1の下塗りをしきり止めシーラーとする</p> <p>(注) DP以外からDPへの塗替えは、下地調整の種類に注意すること。</p> <p>・高日射反射塗料塗り [G] 下地調整 [7.2.2] ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種</p> <table border="1"> <tr> <th>工程</th> <th>塗料の種類</th> <th>塗料その他</th> <th>塗付量(kg/m²)</th> </tr> <tr> <td>塗料塗り</td> <td>JIS K 5675</td> <td>高日射反射塗料</td> <td>2種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>反射塗料</td> <td>1種 ・ 2種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>塗料製造所の仕様による</td> <td>3種</td> </tr> </table> <p>クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用しない ・適用する(着色剤・溶剤系着色剤・油性染料着色剤) <p>ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用する ・適用しない <p>オイルステイン塗りの工程等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造所の仕様による 	塗装の種類	塗装面	塗料の種類	工程の種類	・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※B種	※A種	木部屋内	※B種	※B種	・塗料の種類 ※1種 ・ 2種	鉄鋼面	※B種	※B種 ・ A種	亜鉛めっき面(鋼製建具)	※B種	※B種	・クリヤラッカー塗り(CL)	鉄鋼面	※B種	A種 ※B種 ・ A種	・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)	鉄鋼面	※B種	A種 ※B種 ・ A種	・耐候性塗料塗り(DP)	亜鉛めっき面	—	—		コンクリート面及び押出成形材の板面	—	—	・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)	屋内の木部	※B種	※B種 ・ A種		屋内の鉄鋼面	※B種	※B種 ・ A種		屋内の亜鉛めっき面	※A種	・ B種 ※A種	・合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)	鉄鋼面	※B種	・ A種 ※B種	・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)	鉄鋼面	※B種	A種 ※B種 ・ A種	・ステイン塗り	鉄鋼面	※B種	・ A種 ※B種 ・ A種	・木材保護塗料塗り(WP)	木部	※B種	A種 ※B種 ・ A種	工程	塗料の種類	塗料その他	塗付量(kg/m ²)	塗料塗り	JIS K 5675	高日射反射塗料	2種			反射塗料	1種 ・ 2種			塗料製造所の仕様による	3種
塗装の種類	塗装面	塗料の種類	工程の種類																																																																												
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※B種	※A種																																																																												
	木部屋内	※B種	※B種																																																																												
・塗料の種類 ※1種 ・ 2種	鉄鋼面	※B種	※B種 ・ A種																																																																												
	亜鉛めっき面(鋼製建具)	※B種	※B種																																																																												
・クリヤラッカー塗り(CL)	鉄鋼面	※B種	A種 ※B種 ・ A種																																																																												
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)	鉄鋼面	※B種	A種 ※B種 ・ A種																																																																												
・耐候性塗料塗り(DP)	亜鉛めっき面	—	—																																																																												
	コンクリート面及び押出成形材の板面	—	—																																																																												
・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)	屋内の木部	※B種	※B種 ・ A種																																																																												
	屋内の鉄鋼面	※B種	※B種 ・ A種																																																																												
	屋内の亜鉛めっき面	※A種	・ B種 ※A種																																																																												
・合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)	鉄鋼面	※B種	・ A種 ※B種																																																																												
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)	鉄鋼面	※B種	A種 ※B種 ・ A種																																																																												
・ステイン塗り	鉄鋼面	※B種	・ A種 ※B種 ・ A種																																																																												
・木材保護塗料塗り(WP)	木部	※B種	A種 ※B種 ・ A種																																																																												
工程	塗料の種類	塗料その他	塗付量(kg/m ²)																																																																												
塗料塗り	JIS K 5675	高日射反射塗料	2種																																																																												
		反射塗料	1種 ・ 2種																																																																												
		塗料製造所の仕様による	3種																																																																												
⑧ 塗装 [G]	<p>⑨ 断熱・防露改修工事 [G]</p> <p>フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放数量 [9.3.2~4]</p> <p>※F☆☆☆☆</p> <p>開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※F☆☆☆☆</p> <p>工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断熱材打込み工法 <ul style="list-style-type: none"> 断熱材 JIS A 9521 に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) 施工箇所 ・断熱材現場発泡工法 <ul style="list-style-type: none"> 断熱材の種類 ※A種1 ・ A種1H 厚さ(mm) 25 ・ 30 施工箇所 ・断熱材後張り工法 <ul style="list-style-type: none"> 断熱材 JIS A 9521 に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) ・せっこうボード等を張り付けたパネルを使用 材質 厚さ(mm) ・張り付け工法 <ul style="list-style-type: none"> 断熱材の張り付け工法 断熱材へのボードの張付け工法 																																																																														
⑨ 断熱改修工事	<p>1 石綿粉じん濃度測定 [9.1.1]</p> <table border="1"> <tr> <th>測定時期、場所及び測定点</th> <th>測定点</th> </tr> <tr> <td>測定時期</td> <td>測定点</td> </tr> <tr> <td>測定場所</td> <td>(処理作業ごと)</td> </tr> <tr> <td>測定点</td> <td>・各2又は3点()点</td> </tr> <tr> <td>測定1</td> <td>処理作業室内</td> </tr> <tr> <td>測定2</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> </tr> <tr> <td>測定3</td> <td>処理作業室内</td> </tr> <tr> <td>測定4</td> <td>・各2点()点</td> </tr> <tr> <td>測定5</td> <td>・各1点()点</td> </tr> <tr> <td>測定6</td> <td>・各1点()点</td> </tr> <tr> <td>測定7</td> <td>・各2又は3点()点</td> </tr> <tr> <td>測定8</td> <td>・各1点()点</td> </tr> <tr> <td>測定9</td> <td>・各1点()点</td> </tr> <tr> <td>測定10</td> <td>・各1点()点</td> </tr> </table> <p>さいたま市で測定を行う場合は市条例を遵守して実施すること。</p> <p>測定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動測定器による測定 測定4.5 ※A - 7(μg/m³)-、粉じん相対湿度計(7.3.1)計、繊維状粒子粒子自動計測器(7.3.1)等、排気の粉じん濃度を迅速に計測できる機器にて測定 ・JIS K 3850-11に基づいた測定 <table border="1"> <tr> <th>測定4.5</th> <th>測定</th> <th>測定</th> </tr> <tr> <td>25</td> <td>47</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>120</td> <td>240</td> </tr> </table> <p>本工程対象外</p> <p>2 石綿含有吹付け材の除去(レベル1)</p> <p>3 石綿含有保温材等の除去(レベル2)</p> <p>4 石綿含有成形板の除去(レベル3)</p> <p>5 石綿含有建築用仕上塗料等の除去(レベル3)</p> <p>6 PCB含有シーリング材処分</p> <p>7 外断熱改修工事 [G]</p> <p>8 断熱・防露改修工事 [G]</p> <p>9 屋上緑化改修工事 [G]</p> <p>本工程対象外</p>	測定時期、場所及び測定点	測定点	測定時期	測定点	測定場所	(処理作業ごと)	測定点	・各2又は3点()点	測定1	処理作業室内	測定2	施工区画周辺又は敷地境界	測定3	処理作業室内	測定4	・各2点()点	測定5	・各1点()点	測定6	・各1点()点	測定7	・各2又は3点()点	測定8	・各1点()点	測定9	・各1点()点	測定10	・各1点()点	測定4.5	測定	測定	25	47	47	5	10	10	30	120	240																																						
測定時期、場所及び測定点	測定点																																																																														
測定時期	測定点																																																																														
測定場所	(処理作業ごと)																																																																														
測定点	・各2又は3点()点																																																																														
測定1	処理作業室内																																																																														
測定2	施工区画周辺又は敷地境界																																																																														
測定3	処理作業室内																																																																														
測定4	・各2点()点																																																																														
測定5	・各1点()点																																																																														
測定6	・各1点()点																																																																														
測定7	・各2又は3点()点																																																																														
測定8	・各1点()点																																																																														
測定9	・各1点()点																																																																														
測定10	・各1点()点																																																																														
測定4.5	測定	測定																																																																													
25	47	47																																																																													
5	10	10																																																																													
30	120	240																																																																													
⑩ 透水性アスファルト舗装改修工事	<p>適用範囲：【武里南小学校：駐車場】 [9.5.2~5、9]</p> <p>既存舗装の撤去及び再利用 ※図示</p> <p>路床の材料</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材料</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>・盛土</td> <td>・A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td>・凍上抑制層</td> <td>・建設汚泥から再生した処理土 [G]</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・切込み砂利</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・砂(改修標準仕様書9.5.11による)</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>・改修標準仕様書9.5.3(2)(ウ)による</td> <td>・図示</td> </tr> </table> <p>(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行う ・行わない <p>・路床安定処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適用する ・適用しない <p>安定処理の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・置き換え工法() ・安定処理工法 <p>路床安定処理用添加材料</p> <ul style="list-style-type: none"> 種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰(・特号・1号) () kg/m³ (目標CBR ※3以上) ・目標CBRを満足する添加量の確認方法 ・安定処理土のCBR試験 ・ジオテキスタイル 単位面積質量 ・60g/m²以上 厚さ(mm) ・0.5~1.0 引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上 透水係数 ・1.5×10⁻³cm/sec以上 <p>試験</p> <p>路床土の支持力比(CBR)試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行う ・行わない <p>現場CBR試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行う ・行わない <p>路床締固め度の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行う ・行わない <p>六価クロム溶出試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行う ・行わない <p>路盤</p> <p>路盤の構成及び厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図示 <p>路盤材料(改修標準仕様書9.7.3による種別)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラッシュラン ・粒度調整砕石 ・再生クラッシュラン [G] ・再生粒度調整砕石 [G] ・クラッシュラン鉄鋼スラグ [G] ・粒度調整鉄鋼スラグ [G] ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ [G] <p>舗装の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図示 <p>舗装の平坦性</p> <ul style="list-style-type: none"> ※着しく不陸がないもの ・開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない <p>濁水の処理</p> <p>1) 受注者は、回収した濁水を次のとおり処理するものとする。</p> <p>種類及び処理量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図示による <p>処理方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間処理後、最終処分場へ搬入(処理に焼却含まず) ・中間処理後、最終処分場又はセメント工場へ搬入(処理に焼却含む) <p>2) 受注者は、別の中間処理施設を選定する場合、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>共通事項</p> <p>1) 受注者は、舗装版切断作業を行いながら濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥(油分を含む汚泥)として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。</p> <p>2) 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。</p> <p>3) 受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。</p> <p>4) 受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理票(以下「マニフェスト」という。)により管理するものとする。</p> <p>提出書類等</p> <p>1) 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。</p> <p>2) 受注者は、工事完成後速やかにマニフェストの写しを監督員に提出しなければならないものとする。</p> <p>その他</p> <p>1) 濁水処理量については、舗装版の切断延長や切断厚が変わった場合を除き、原則として設計変更の対象としないものとする。</p> <p>2) 受注者は、舗装版切断時に濁水を生じない工法を使用する場合には、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>3) 疑義が生じた場合については、別途監督員と協議するものとする。</p>	種別	材料	厚さ(mm)	・盛土	・A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	・図示	・凍上抑制層	・建設汚泥から再生した処理土 [G]	・図示		・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン	・図示		・切込み砂利	・図示		・砂(改修標準仕様書9.5.11による)	・図示	・フィルター層	・改修標準仕様書9.5.3(2)(ウ)による	・図示																																																									
種別	材料	厚さ(mm)																																																																													
・盛土	・A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	・図示																																																																													
・凍上抑制層	・建設汚泥から再生した処理土 [G]	・図示																																																																													
	・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン	・図示																																																																													
	・切込み砂利	・図示																																																																													
	・砂(改修標準仕様書9.5.11による)	・図示																																																																													
・フィルター層	・改修標準仕様書9.5.3(2)(ウ)による	・図示																																																																													
⑪ 舗装版切断時に発生する濁水の処理(舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書)	<p>11 舗装版切断時に発生する濁水の処理(舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書)</p>																																																																														
⑫ 耐震改修工事	<p>本工程対象外</p>																																																																														

⑦ 塗装改修工事	⑧ 環境配慮改修工事	⑨ 断熱改修工事	⑩ 透水性アスファルト舗装改修工事	⑪ 舗装版切断時に発生する濁水の処理(舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書)	⑫ 耐震改修工事
----------	------------	----------	-------------------	--	----------

春日部市 学校教育課 教育施設課	豊春小学校外7校避難所空調設備設置工事(武里小学校)	共通-04
------------------------	----------------------------	-------

豊春小学校外7校避難所空調設備設置工事(武里小学校)	共通-04
----------------------------	-------

⑩ 鉄筋工事 1 鉄筋 (5.2.1) 2 溶接金網 (5.2.2) 3 鉄筋の継手 (5.2.4) 4 鉄筋の定着 (5.3.4) 5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網含む) (5.3.5) 6 各部配筋 (5.3.7) 7 ガス圧接 8 機械式継手 9 溶接継手	鉄筋の種類 (5.2.1) <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>SD295</td> <td>※ D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SD345</td> <td>※ D19以上</td> <td></td> </tr> </table> 形状等 (5.2.2) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> <tr> <td>溶接金網</td> <td></td> <td>6×150×150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 鉄筋の継手方法等 (5.3.4) <table border="1"> <tr> <th>部位</th> <th>継手方法</th> <th>呼び径 (mm)</th> </tr> <tr> <td>柱、梁の主筋</td> <td>・ガス圧接 ・機械式継手</td> <td>※ D19以上</td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>・溶接継手 ・重ね継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎、耐圧スラブ、土圧壁</td> <td>・重ね継手 ・ガス圧接</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の鉄筋</td> <td>・重ね継手</td> <td></td> </tr> </table> 継手位置 ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 5.1. 6.1. 7.1. 7.3. 8.1) ※基礎主筋の継手位置 ※図5.2 ※図5.3 ※図5.4 ※図示による () 柱及び梁の重ね継手の長さ ※図示による () 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3(1)(9)) ※図示による () 柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一面所に設ける部分の位置及び施工方法等 ※図示による () 鉄筋の定着長さ (5.3.4) ※図示による () 機械式定着工法 適用箇所 () ※図示による () 種類 ・麻圧圧接合 ・溶合グラウト固定 ・溶合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図 (配筋標準図) による。これによらない箇所は図示による。 最小かぶり厚さ (目地底から算出を行う) ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4(1)表4.1) ※図示による () 柱及び梁の主筋にD29以上の使用 ・あり 適用箇所 () ・なし 適用箇所 () 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する 耐久性上不利な部分 (塩害等を受けるおそれのある部分等) ・あり 適用箇所 () ・なし 適用箇所 () ・最小かぶり厚さに加える厚さ () mm	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	SD295	※ D16以下		SD345	※ D19以上		種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	溶接金網		6×150×150		鉄筋格子				部位	継手方法	呼び径 (mm)	柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手	※ D19以上	耐力壁の鉄筋	・溶接継手 ・重ね継手		基礎、耐圧スラブ、土圧壁	・重ね継手 ・ガス圧接		その他の鉄筋	・重ね継手		⑪ コンクリート工事 1 コンクリートの種類等 (6.2.1) 2 セメント (6.3.1) 3 骨材 (6.3.1) 4 混和材料 (6.3.1) 5 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地 (6.6.4) 6 湿潤養生 (6.7.2) 7 コンクリートの仕上り (6.2.5) (6.8.2) 8 打増し厚さ (打増し仕上げ部) (6.8.1) 9 型枠 (6.8.2) 10 軽量コンクリート 11 寒中コンクリート 12 暑中コンクリート 13 マスコンクリート 14 無筋コンクリート 15 コンクリートの単位水量測定 (6.8.4)	種類 (6.2.1) ※I類 (JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート) ※II類 (JIS A 5308 に適合したコンクリート) 普通コンクリート (6.2.1~6.2.4) <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>スラブ</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>24</td> <td>2.3程度</td> <td>15又は18・18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>2.3程度</td> <td>18</td> <td></td> </tr> </table> 構造体強度補正值 (S) (6.3.2) ※標準仕様書 表6.3.2による 補正值S=9 (3月3日~7月10日、9月11日~11月18日) S=6 (7月11日~9月10日、11月19日~3月2日) 種類 (6.3.1) ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 適用箇所 (※下記以外全て) 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の水、水和熱が1日目で 352 J/g以下、かつ28日目で 402 J/g以下のものとする。 ・高炉セメントB種 () ・適用箇所 (・1Fより下部 (立上り部含む)) ・フライアッシュセメントB種 () ・適用箇所 () アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1) ※A・B (コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m ³ 以下) 混和剤の種類 (6.3.1) 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による 混和材の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による 打継ぎの位置 (6.6.4) 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から1/4の付近 ※図示による () 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ※図示による () 目地の寸法 (6.6.4) (6.8.1) (9.7.3) ※標準仕様書 9.7.3(1)(7)による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する ※図示による () ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法 (6.8.1) ※図示による () 湿潤養生の期間 (6.7.2) ・セメントの種類が普通エコセメントの場合 () 日 合板せき板を用いるコンクリートの打増し仕上げ (6.2.5) (6.8.2) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>A種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>B種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>C種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> </table> コンクリートの仕上りの平たんさ <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>a種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>b種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> <tr> <td>c種</td> <td>※図示による ()</td> </tr> </table> 打増し厚さ (6.8.1) ・打増し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) ・20mm ・打増し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る) ・10mm ・20mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 ・20mm 打増し範囲 ※図示による () せき板の材料及び厚さ (6.8.2) ※合板 (※12mm) () コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。 ・断熱材を兼用した型枠の使用 適用箇所 ※図示による () ・MCR工法用シートの使用 適用箇所 ※図示による () 打増し厚さ 20mm 打増し範囲 ※図示による () スリーブの材質・規格等 ※図示による () 存置期間及び取外し (6.8.4) ※標準仕様書6.8.4による ・普通エコセメントの場合 (※図示による ())	設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所	24	2.3程度	15又は18・18		21	2.3程度	18		種類	適用箇所	A種	※図示による ()	B種	※図示による ()	C種	※図示による ()	種類	適用箇所	a種	※図示による ()	b種	※図示による ()	c種	※図示による ()	3 土工事 1 埋戻し及び盛土 (3.2.3) 2 建設発生土の処理 (3.2.5) 3 山留めの撤去 (3.3.3) 14 金属工事 1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.1) (表14.2.1) <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)</th> </tr> <tr> <td>AB-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>AB-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>AC-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>AC-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>BA-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>BA-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>BB-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>BB-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>BC-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>BC-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C種</td> <td></td> </tr> </table> 陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・三次電解着色 ・シルバー ・アンパー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー ・特注色 () 2 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2) (表14.2.2) <table border="1"> <tr> <th>表面処理方法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所 (手すり、タラップ以外)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>D種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>E種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>F種</td> <td></td> </tr> </table> 電気亜鉛めっき 3 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2~4) (表14.4.1) 野縁等の種類 () ・19形 屋内 (※19形 25形) 屋外の形式及び寸法 野縁受、つりボルト及びびんサートの間隔 ※図示 周辺部の端からの間隔 ※図示 野縁の間隔 ※図示 つりボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示 ・天井のふところが3.0mを超える場合の補強方法 ※図示 ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ※図示 補強方法 ※図示 屋外の軒天井、ピロティ天井の工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法 4 軽量鉄骨壁下地 (14.5.3, 4) (表14.5.1) スタッド、ランナーの種類 () ※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ※図示 スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※標準仕様書14.5.4(5)による 5 金属成形板張り (14.6.2, 3) (表14.2.1) <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">製法</th> <th rowspan="2">形状</th> <th rowspan="2">板幅 (mm)</th> <th rowspan="2">板厚 (mm)</th> <th colspan="2">表面処理</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>色合い等</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">アルミニウム</td> <td rowspan="2">・押し ・ロール</td> <td>ハット形</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ハネル形</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 取付け用下地 ※標準仕様書14.4による ※図示 伸縮調整継手 ・設ける (施工箇所) ※図示 ・設けない 屋外の軒天井、ピロティ天井の工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法 6 アルミニウム製笠木	種別	施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)	AB-1種		AB-2種		AC-1種		AC-2種		BA-1種		BA-2種		BB-1種		BB-2種		BC-1種		BC-2種		C種		表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり、タラップ以外)		A種			B種			C種			D種			E種			F種		種別	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理		種別	色合い等	アルミニウム	・押し ・ロール	ハット形					ハネル形					29 間知石及びコンクリート間知ブロック積み (20.4.2, 3) <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>種類</th> <th>質量区分</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>間知石</td> <td>・花こう岩 ・凝灰岩</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>コンクリート間知ブロック</td> <td>-</td> <td>A・B</td> <td></td> </tr> </table> 積み方 ※谷積み 目張り ※図示 伸縮調整目地 材種 ・図示 ・図示 ・図示 22 舗装工事 1 路床 (22.2.2, 3~5) (表22.2.1) 路床の材料 (22.2.2, 3~5) (表22.2.1) <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材料</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>盛土</td> <td>・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 ()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>凍上抑制層</td> <td>・再生クラッシュラン () ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂 (標準仕様書表21.2.2による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>フィルター層</td> <td>・川砂、海砂、良質な山砂 (75µmふるい通過量6%以下)</td> <td></td> </tr> </table> (凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験) ・行う ・行わない 路床安定処理 安定処理の方法 ・安定処理工法 ・置き換え工法 添加材料による安定処理 種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 () ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 (・特号 1号) ・消石灰 (・特号 1号) 添加量 kg/m ³ (目標CBR 3以上) ・繊維布 (ジオテキスタイル) 単位面積質量 ・60g/m ² 以上 厚さ (mm) ・0.5~1.0 引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 ・1.5×10 ⁻³ cm/sec以上 試験 砂の粒度試験 ・行う 路床土の支持力 (CBR) 試験 ・行う (箇所) 現場CBR試験 ・行う (箇所) 安定処理土のCBR試験 ・行う 路床締固め度の試験 ・行う (箇所) 六価クロム溶出試験 ・行う ・行わない 2 路盤 (22.3.2, 3) (表22.3.1) 路盤及び厚さ ※図示 路盤材料 (標準仕様書 表22.3.1による種別) <table border="1"> <tr> <th>種別</th> </tr> <tr> <td>砕石</td> </tr> <tr> <td>再生材</td> </tr> </table> ・クラッシュラン ・粒度調整砕石 ・再生クラッシュラン () ・再生粒度調整砕石 () ・クラッシュラン鉄線スラグ () ・粒度調整鉄線スラグ () ・水硬性粒度調整鉄線スラグ () 3 アスファルト舗装 (22.4.2~4, 6) (表22.4.1, 4) アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 材料及び種類 アスファルト ・再生アスファルト () ・ストリートアスファルト 骨材 ・アスファルトコンクリート再生骨材 () 加熱アスファルト混合物等の種類 ・密粒度アスファルト混合物 (13) ・細粒度アスファルト混合物 (13) ・密粒度アスファルト混合物 (13F) 試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない 舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 4 コンクリート舗装 (22.5.2~4) (表22.5.1~3) 構成及び厚さ (22.5.2~4) (表22.5.1~3) <table border="1"> <tr> <th>舗装の種類</th> <th>部位</th> <th>構成</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>コンクリート舗装</td> <td>・車路、駐車場</td> <td>※図示</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・歩行者用通路</td> <td>※図示</td> <td>※70</td> </tr> </table> 材料 コンクリート ※普通コンクリート 標準仕様書表22.5.1による ・以下による コンクリートの種類 ・設計基準強度 (N/mm ²) ・所定のスラブ (cm) ※8 骨材の最大寸法 (mm) ・使用する ・使用しない 注目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ 目地 種類 ※標準仕様書表22.5.3による 間隔 ※標準仕様書表22.5.3による 構造 ※標準仕様書表22.5.1による ※図示 舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2, 3, 6) 透水性舗装の構成及び厚さ ※図示 材料及び種類 骨材 ・道路用砕石 ・アスファルトコンクリート再生骨材 () (標準仕様書 表22.4.1による種類: ・60~80 ・80~100) 舗装の平たん性 ※着しい不陸がないもの 試験 間隔度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない 透水性コンクリート舗装 コンクリート舗装に対する基準値 <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> <tr> <td>最大粒径 (mm)</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>20以上</td> </tr> <tr> <td>透水係数 (cm/s)</td> <td>1×10⁻²以上</td> </tr> <tr> <td>目地の間隔</td> <td>版厚の20倍程度</td> </tr> </table> 構成、厚さはコンクリート舗装による ・繊維布 (ジオテキスタイル) 敷設位置 ※フィルター層と路床の間の敷設 ・図示 透水性コンクリート平板舗装 (22.8.2, 3) 透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による 透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2, 3) 透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による	材種	種類	質量区分	備考	間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	-	-	コンクリート間知ブロック	-	A・B		種別	材料	厚さ (mm)	盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 ()		凍上抑制層	・再生クラッシュラン () ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂 (標準仕様書表21.2.2による)		フィルター層	・川砂、海砂、良質な山砂 (75µmふるい通過量6%以下)		種別	砕石	再生材	舗装の種類	部位	構成	厚さ (mm)	コンクリート舗装	・車路、駐車場	※図示	・図示		・歩行者用通路	※図示	※70	項目	基準値	最大粒径 (mm)	13	空隙率 (%)	20以上	透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上	目地の間隔	版厚の20倍程度	豊日部市 学校教育課 豊春小学校外7校避難所空調設備設置工事 (武里小学校) 特記仕様書 5 共通-05
	種類の記号	呼び径 (mm)	備考																																																																																																																																																																																						
	SD295	※ D16以下																																																																																																																																																																																							
	SD345	※ D19以上																																																																																																																																																																																							
	種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位																																																																																																																																																																																					
	溶接金網		6×150×150																																																																																																																																																																																						
	鉄筋格子																																																																																																																																																																																								
	部位	継手方法	呼び径 (mm)																																																																																																																																																																																						
	柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手	※ D19以上																																																																																																																																																																																						
	耐力壁の鉄筋	・溶接継手 ・重ね継手																																																																																																																																																																																							
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	・重ね継手 ・ガス圧接																																																																																																																																																																																								
その他の鉄筋	・重ね継手																																																																																																																																																																																								
設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所																																																																																																																																																																																						
24	2.3程度	15又は18・18																																																																																																																																																																																							
21	2.3程度	18																																																																																																																																																																																							
種類	適用箇所																																																																																																																																																																																								
A種	※図示による ()																																																																																																																																																																																								
B種	※図示による ()																																																																																																																																																																																								
C種	※図示による ()																																																																																																																																																																																								
種類	適用箇所																																																																																																																																																																																								
a種	※図示による ()																																																																																																																																																																																								
b種	※図示による ()																																																																																																																																																																																								
c種	※図示による ()																																																																																																																																																																																								
種別	施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)																																																																																																																																																																																								
AB-1種																																																																																																																																																																																									
AB-2種																																																																																																																																																																																									
AC-1種																																																																																																																																																																																									
AC-2種																																																																																																																																																																																									
BA-1種																																																																																																																																																																																									
BA-2種																																																																																																																																																																																									
BB-1種																																																																																																																																																																																									
BB-2種																																																																																																																																																																																									
BC-1種																																																																																																																																																																																									
BC-2種																																																																																																																																																																																									
C種																																																																																																																																																																																									
表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり、タラップ以外)																																																																																																																																																																																							
	A種																																																																																																																																																																																								
	B種																																																																																																																																																																																								
	C種																																																																																																																																																																																								
	D種																																																																																																																																																																																								
	E種																																																																																																																																																																																								
	F種																																																																																																																																																																																								
種別	製法	形状	板幅 (mm)	板厚 (mm)	表面処理																																																																																																																																																																																				
					種別	色合い等																																																																																																																																																																																			
アルミニウム	・押し ・ロール	ハット形																																																																																																																																																																																							
		ハネル形																																																																																																																																																																																							
材種	種類	質量区分	備考																																																																																																																																																																																						
間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	-	-																																																																																																																																																																																						
コンクリート間知ブロック	-	A・B																																																																																																																																																																																							
種別	材料	厚さ (mm)																																																																																																																																																																																							
盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 ()																																																																																																																																																																																								
凍上抑制層	・再生クラッシュラン () ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂 (標準仕様書表21.2.2による)																																																																																																																																																																																								
フィルター層	・川砂、海砂、良質な山砂 (75µmふるい通過量6%以下)																																																																																																																																																																																								
種別																																																																																																																																																																																									
砕石																																																																																																																																																																																									
再生材																																																																																																																																																																																									
舗装の種類	部位	構成	厚さ (mm)																																																																																																																																																																																						
コンクリート舗装	・車路、駐車場	※図示	・図示																																																																																																																																																																																						
	・歩行者用通路	※図示	※70																																																																																																																																																																																						
項目	基準値																																																																																																																																																																																								
最大粒径 (mm)	13																																																																																																																																																																																								
空隙率 (%)	20以上																																																																																																																																																																																								
透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上																																																																																																																																																																																								
目地の間隔	版厚の20倍程度																																																																																																																																																																																								

電気設備工事特記仕様書

- 1 工事概要
 1.1 工事名 建築工事特記仕様書による
 1.2 工事場所 建築工事特記仕様書による
 1.3 工期 建築工事特記仕様書による

1.4 工事科目 (○印の付いたものを適用する)

○電灯設備 ○動力設備 ・電熱設備 ・雷保護設備 ○受変電設備 ・電力貯蔵設備 ・発電設備 ・構内情報通信網設備 ・構内交換設備 ・情報表示設備 ・映像、音響設備 ・拡声設備(非常放送設備) ・誘導支援、呼出し設備	・テレビ共同受信設備 ・テレビ電波障害防除設備 ・監視カメラ設備 ・駐車場管制設備 ・防犯、入退室管理設備 ・自動火災報知設備 ・自動閉鎖設備 ・ガス漏れ火災警報設備 ・電話配管設備 ・中央監視制御設備 ・医療関係設備 ・昇降機設備
---	---

1.5 指定部分 ○無 ・有 (工期: 令和 年 月 日)

1.6 主任技術者又は監理技術者の専任期間 (建設業法により必要になった場合)
 建築工事特記仕様書による

1.7 建物概要
 建築工事特記仕様書による

1.8 工事概要
 建築工事特記仕様書による

1.9 同時期発注の関連工事 ※なし (ただし、工事対象エリアで施設管理委託受注者が作業を行う)

2 工事仕様

- 2.1 共通仕様
 (1) この工事は特記仕様書、図面によるほか、春日部市電気設備工事特別共通仕様書(以下「特別共通仕様書」という。)、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(電気設備工事情編)(最新版)、公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事情編)(最新版)、公共建築設備工事標準図(電気設備工事情編)(最新版)(以下「標準仕様書等」という。)及び監督員の指示に従い施工する。
 なお、市営住宅の場合は、公共住宅建設工事共通仕様書、機材の品質・性能基準を最優先とする。
 (2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、それぞれの特別共通仕様書及び標準仕様書等を適用する。
 (3) 法令・基準・仕様書等は、原則として施工時において最新のものを適用する。
- 2.2 特記仕様(特記事項の選択項目は、○印のついたものがなければ※印を適用し、・印のものは適用しない。
 ○印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。)

項 目	特 記 事 項
① 機材等	本工事に使用する機材等は、設計図書に規定するもの又はこれと同等のものとする。なお、資材名、製造所名および発注先を記載した報告書を監督員に提出し承諾を受けるものとする。 使用機材等については、アスベスト含有の有無を確認し、アスベストを含む機材等は使用しないこと。 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく特定調達品目に該当する機材を使用する場合は、原則として、その判断の基準、配慮事項を満たすこと。 調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努めるものとする。
② 施工条件	施工時間 建築工事特記仕様書による
③ 工事用電力・水	建築工事特記仕様書による
④ 工事用仮設物	すべて受注者の負担とし、構内につくることができる。
⑤ 足場・さんばし類	建築工事特記仕様書による
⑥ 監督員事務所	建築工事特記仕様書による
⑦ 保 険	建築工事特記仕様書による
⑧ 再使用機材	取外し再使用機材は、清掃及び絶縁抵抗測定等を行い、機能が良好なことを確認した上で取付る。なお、その測定結果表を監督員に提出する。
⑨ 建設リサイクル法の適用	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律の適用について ※ 適用する(契約金額による) ・ 適用しない
⑩ 完成図書の電子納品	建築工事特記仕様書による
⑪ 発生材処理	引渡を要するもの以外は構外に搬出し、適切に処理する。 (構外搬出処理費は、※本工事 ・別途) (1) 引渡しを要するもの () (2) 買取処分をするもの (銅屑・鉄屑) (3) 再生資源化を図るもの(蛍光管) 蛍光管等は再資源化施設等に搬出し、全てリサイクルするものとする。 (4) 特別管理産業廃棄物 () ※処理に先立ち計画書を提出し、処理後は調査を提出すること。

⑫ 金属電線の塗装	露出配管は原則として塗装を行う。ただし、機械室、倉庫等の露出配管は塗装を行わない。 また、屋外で溶融垂鉛メッキ電線管を使用する場合は、塗装を行わない。 ただし、見えかきり部の塗装については監督員の指示による。 壁等の壁は、既存壁の壁と整合を極力図るものとする。 (1) 管路等の敷設に伴う敷き均し土は、標準仕様書のほか下記及び図面特記による。																																											
⑬ 壁																																												
⑭ 地中電線路	<table border="1"> <thead> <tr> <th>敷き均し土</th> <th>管 種 別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良質土</td> <td>硬質ビニル電線管 (VE) 耐衝撃性塩化ビニル管 (HIVE) 波付硬質合成樹脂管 (FEP) ポリエチレン被覆鋼管 (PLP)</td> </tr> </tbody> </table> (2) 地中電線路には、ケーブル埋設機及び保護シートを設ける。ただし、低圧・弱電回路の保護シートは図面特記による。 (3) 地中電線路の敷設は管路式とし、埋設深さは地表面(舗装する部分では路盤材下面)から配管の上端まで原則、600mmとする。ただし、公道への引込み管路等の埋設深さについては、供給事業者と協議のうえ決定する。	敷き均し土	管 種 別	良質土	硬質ビニル電線管 (VE) 耐衝撃性塩化ビニル管 (HIVE) 波付硬質合成樹脂管 (FEP) ポリエチレン被覆鋼管 (PLP)																																							
敷き均し土	管 種 別																																											
良質土	硬質ビニル電線管 (VE) 耐衝撃性塩化ビニル管 (HIVE) 波付硬質合成樹脂管 (FEP) ポリエチレン被覆鋼管 (PLP)																																											
⑮ 回路の種別行先の表示	ハンドホール、プルボックス及び主要なアウトレットボックス内の電線・ケーブルには、回路の種別、行先の表示を行う。																																											
⑯ 電線の接続	湿気の多い場所、水を使用する場所及び屋外は、圧着接続し自己融着テープを巻き付けたうえで絶縁テープ巻きとする。 上記以外の場所においては、屋内配線用電線コネクタによる接続をしてもよい。ただし、接続はボックス内とする。																																											
⑰ 電線管の接続	屋外におけるケーブルの保護管に用いる厚鋼電線管の接続は、防水処置を施したねじし工法としてもよい。																																											
⑱ 接地工事	漏電遮断機で保護されている電路と保護されていない電路のD種接地極が共用していない場合の接地線は、混触防止のため、緑色・緑又は緑・黒色帯で区別する。																																											
⑲ 建設発生土の処理	埋戻し後の建設残土は、※監督員が指示する構内の場所に敷きならす。 ・構外搬出適切処理する。																																											
⑳ 再生砂・再生アスコン	契約図書中の山砂の類、砂利、砕石及びアスコンに代替し、監督員の了解を得た上で、 ・使用できる。 ※使用できない。 再生砂使用に先立ち、1購入あたり1棟体の六価クロム溶出試験を行い土壌の汚染に係る環境基準に適合することを確認すること。																																											
㉑ 耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針 最新版」(独立行政法人建築研究所監修)による。 なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。 (1) 設計用水平地震力 機器の重量[kgf]に、設計用水平地震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用水平地震度は、次による。																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th> <th rowspan="2">機器種別</th> <th colspan="2">特定の施設</th> <th colspan="2">一般の施設</th> </tr> <tr> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階 屋上及び塔屋</td> <td>機 器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>水 槽 類(※1)</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>機 器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>水 槽 類(※1)</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table> 【備 考】(※1)：水槽類には、オイルタンク等を含む。 重要機器 ・配電盤 ・発電装置(防災用) ・直流電源装置 ・交流無停電電源装置 ・交換機 ・火災報知器受信機 ・中央監視装置 ・太陽光発電装置 上層階の定義は次による。 2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。 (2) 設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。	設置場所	機器種別	特定の施設		一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階 屋上及び塔屋	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5	中間階	水 槽 類(※1)	2.0	1.5	1.5	1.0	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6	地下・1階	防振支持の機器	1.5	1.0	1.0	0.6	水 槽 類(※1)	1.5	1.0	1.0	0.6
設置場所	機器種別			特定の施設		一般の施設																																						
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																							
上層階 屋上及び塔屋	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0																																							
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5																																							
中間階	水 槽 類(※1)	2.0	1.5	1.5	1.0																																							
	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6																																							
地下・1階	防振支持の機器	1.5	1.0	1.0	0.6																																							
	水 槽 類(※1)	1.5	1.0	1.0	0.6																																							
㉒ あと施工アンカー	機器・配管等の据付けにおけるあと施工アンカーの使用については、監督員の承諾を受けるものとする。 重量100kgを超える機器の耐震支持については、耐震計算書を添付し、アンカーボルトを選定すること。 施工は、(一社)日本建築あと施工アンカー協会の資格を有するもの、又は十分な技能及び経験を有した者が行うこと。 金属拡張系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、拡張の完了がわかる記録を添付すること。 接着系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、清掃状況、マーキング、カプセル挿入、埋込みの完了が分かる記録を添付すること。 (原則として、接着系アンカーは吊り支持に使用しないものとする。) あと施工アンカーの試験は、アンカーの種類毎に1か所引張試験を実施すること。																																											
㉓ はつり及びあと施工アンカー打設	既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開け及びあと施工アンカー打設前に、図面に明示する箇所についてX線撮影調査を実施すること。 電動ドリル等の刃が鉄筋、金属配管等に接触した場合には、自動で電動工具の電源を遮断する装置を使用する。																																											
㉔ 改修部分の足場	本工事で単独に必要な足場は、下記により設ける。 (1) 内部足場 ※ 脚立足場 (2) 外部足場 ※ 建築工事特記仕様書による																																											
㉕ 墜落制止用器具(フルハーネス型)	※使用を要する 墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン(平成30年6月22日付け基設0622第2号)による ・使用を要しない																																											

㉖ 施工計画書	※施工に先立ち、次の施工計画書を提出し監督員の承認を受ける ※総合施工計画書(工程・品質・安全・環境配慮・仮設計画等を含む) ※工種別施工計画書 ○電力設備工事 ○受変電設備工事 ・電力貯蔵設備工事 ・発電設備工事 ・通信、情報設備工事 ・中央監視制御設備工事 ・医療関係設備工事 ・昇降機設備工事 ※その他監督員が必要と認めるもの
㉗ アスベスト事前調査結果の報告	全ての建築物、工作物において大気汚染防止法及び石棉障害予防規則の事前調査を実施し、アスベスト使用有無に関わらず、結果を知事又は市長あてに報告する。
㉘ その他	(1) 施工に先立ち、建築及び関連設備の業者と打合せのうえで施工図を作成し、監督員の承諾を受ける。 (2) 本工事に使用する製作品は、事前に製作図を監督員に提出し、承諾後製作する。 (3) 本工事に使用する機器は、事前に性能等を記した機器仕様書を監督員に提出し、承諾後施工する。 (4) 本工事にかかる官公庁への諸手続はすべて受注者が代行し、その費用は受注者の負担とする。 (5) 特記なき電線・ケーブルは、原則としてエコマテリアル電線・ケーブルとし、露出部分に使用する場合は耐紫外線性能を有するものとする。 (6) 改修工事等を施工する場合、施工する前後に工事対象箇所の写真撮影を行う。また、既設ケーブル等は施工前後に絶縁抵抗、伝送品質等の測定を行い、試験記録を提出する。 (7) 受注者は、施工にあたって施設運営に支障の無いように綿密に打合せを行うこと。 (8) 本工事における停電措置が必要な場合、事前に計画書を電気主任技術者に提出する。また、停電操作・安全処置は受注者が行い、その費用は受注者の負担とする。 (9) 特に騒音振動など周辺に甚大な影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。 (10) 工事に先立ち、監督員と打合せの上、住民及び関係自治会等に対して工事説明を実施すること又、工事に先立ち、「工事のお知らせ」等を配布し、周知する。 以上のことを留意し、工程管理、安全管理に万全を期すること。

2.3 工事別一般事項(特記事項選択項目は、○印のついたものを適用する)

項 目	特 記 事 項
① 電灯設備	(1) 配線器具 スイッチ・壁付コンセント(2P15A)は連用形とする。なお、2口コンセントは複式を使用してもよい。 フラッシュプレートは原則としてステンレス又は新金銀を使用する。ただし、市営住宅における住戸内のフラッシュプレートについては、樹脂プレートを使用することができる。 コンセント器具に具備されている送り配線端子は使用してはならない。 (2) 照明器具 防炎用照明器具は、建築基準法による非常用照明器具及び消防法による誘導灯とし、関係法令に適合したものとする。 (3) 照度測定 電灯設備工事の際し、新設工事の場合は新設後の、改修工事の場合は改修前と改修後の照度測定をJIS C 7612「照度測定方法」により、学校においては学校環境衛生基準により実施すること。 (4) 分電盤 分電盤の塗装色は、監督員の指定した色とする。 (5) 縦枠 天井又は壁埋込みの場合のボックスは、差りしろカバーと仕上り面とが10mm程度以上離れる場合は縦枠を使用する。ただし、ボード張りで、ボード裏面と差りしろカバーの間が離れないように施工した場合は、縦枠を必要としない。 (6) 位置ボックスの省略 ケーブルころがし配線で、位置ボックスの図面特記がなく、かつ、照明器具に送り配線端子が具備されている場合は、位置ボックスを省略しても良い。
② 動力設備	(1) 動力制御盤及び開閉器箱の塗装色は、監督員の指定した色とする。負荷用送り端子台は1負荷につきU・V・W・Eの4Pを原則とする。 (2) 電動機等各負荷までの接続は、本工事とする。ただし、制御盤以降が別途工事の場合は、当該制御盤の電源側接続までとする。
3 雷保護設備	受雷部突針はLR1とする。
④ 受変電設備	高 圧 引 込 引込み口は、設計図に示された位置を電力会社に再確認する。また、ケーブル等の埋設及び、その端末処理は監督員の立会いのうえで施工する。 高圧ケーブル端末部はシースずれ防止対策を施す。 (端末処理 ・耐埋用 ・一般用) 受 電 電 圧 柱上用高圧気中 負荷開閉器(PAS) 交流3相3線式 6.6kV 50Hz 定格電圧 7.2kV 定格電流 (既存) 主 遮 断 装 置 変圧器設備容量 定格電圧 7.2kV 定格遮断電流 12.5kA 動力用 150kVA×1台 電灯用 100kVA×1台 高圧送相コンデンサ 53.2kVar×1台 (改修後) 主 遮 断 装 置 変圧器設備容量 定格電圧 7.2kV 定格遮断電流 12.5kA 動力用 300kVA×1台 電灯用 100kVA×1台 高圧送相コンデンサ 79.8kVar×1台 直列リアクトル ○6% ・13% 4.79kVar×1台

5 構内情報通信網設備	
6 電力貯蔵設備	
7 発電設備	<ul style="list-style-type: none"> ディーゼル発電装置 ガスエンジン発電装置 ガスタービン発電装置 マイクロガスタービン発電装置 燃料電池発電装置 熱併給(コージェネレーション)発電装置 太陽光発電装置 風力発電装置 (概要)
8 構内交換設備	
9 自動火災報知設備、ガス漏れ火災警報設備、拡声設備(非常放送設備)	
10 昇降機設備	

2.4 取付高さ
 壁付、壁掛型の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として次のとおりとする。

名 称	測 点	取付高さ(mm)	
		一 般	市営住宅
スイッチ(一般)	床下～中心	1,300	1,200
"(身体障害者用)	"	1,100	1,000
"(人感センサー切換用)	"	2,000	2,000
コンセント、電話用ケーブル、直列コンセント	"	300	400
"(和室)	"	150	200
"(台所)	台上～中心	150	500
"	床上～中心	500	500
防水型コンセント	"	上端1,900以下1,500	上端1,900以下1,500
分電盤、制御盤、開閉器箱	"	900	900
呼出ボタン(身体障害者用)	"	1,800	1,800
復帰ボタン(")	"	2,000	2,000
廊下表示灯(")	"	上端1,900以下1,500	2,000

3 その他

- 3.1 他工事との取合区分
 建築工事特記仕様書による
- 3.2 図面上の縮尺
 建築工事特記仕様書による
- 3.3 疑義
 本特記仕様書、特別共通仕様書及び標準仕様書等において疑義が生じた場合は、監督員と協議するものとする。
- 3.4 工事用図面
 建築工事特記仕様書による

舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書

建築工事特記仕様書による

	設計年月日	春日部市 学校教育 部 教育施設課	縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
			—	豊春小学校外7校避難所空調設備設置工事(武里小学校)	電気設備 特記仕様書	共通-06

機械設備工事特記仕様書

I 工事概要

1 工事名称 建築工事特記仕様書による

2 工事場所 建築工事特記仕様書による

3 工期 建築工事特記仕様書による

現場施工期間 建築工事特記仕様書による

4 建物概要
建築工事特記仕様書による

5 工事種目 (●印を付いたものを適用する。)

工 事 種 目	一 式	二 式
● 空 気 調 和 設 備	—	—
● 換 気 設 備	—	—
○ 排 煙 設 備		
○ 自 動 制 御 設 備		
○ 衛 生 器 具 設 備		
○ 給 水 設 備		
○ 排 水 設 備		
○ 給 湯 設 備		
○ 消 火 設 備		
○ 駆 動 機 器 設 備		
○ ガ ス 設 備		

6 指定部分 ※無 ・有
対象部分： 工期：令和 年 月 日

7 主任技術者又は監理技術者の専任期間 (建設業法により必要になった場合)
建築工事特記仕様書による

8 工事範囲 図示のとおり

9 機械設備工事概要
建築工事特記仕様書による

10 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事は、それぞれの工事仕様を適用し、下記の工事仕様は適用しない。なお、それぞれの工事仕様について特記されていない事項は、電気設備工事は春日部市電気設備工事特別共通仕様書により、建築工事は春日部市建築工事特別共通仕様書による。

11 同時期発注の関連工事
※なし (ただし、工事対象エリアで施設管理委託受注者が作業を行う)

II 工事仕様

1 共通仕様

(1) この工事は特記仕様書、図面によるほか、春日部市機械設備工事特別共通仕様書 (以下「特別共通仕様書」という。)、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) (最新版)、公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事編) (最新版)、公共建築設備工事標準図 (機械設備工事編) (最新版) (以下「標準仕様書等」という。)) 及び監督員の指示に従い施工する。
なお、市営住宅の場合は、公共住宅建設工事共通仕様書、機材の品質・性能基準を最優先とする。

(2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、それぞれの特別共通仕様書及び標準仕様書等を適用する。

(3) 法令・基準・仕様書等は、原則として施工時に最新のものを適用する。

2 特記仕様

(1) 章は●印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項のうち選択する事項は、○印の付いたものがなければ、※印を適用し、・印のものは適用しない。
○印と●印の付いた場合は、共に適用する。

章 項 目	特 記 事 項																																																																									
① 機 材 等	本工事に使用する設備機材等は、設計図面に規定するもの又は、これらと同等のものとする。なお、資材名、製造所名及び発注先を記載した報告書を監督員に提出すること。使用機材等については、7/11/15含有の有無を確認し、7/11/15を含む機材は、使用しないこと。「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」(グリーン購入法)に規定される特定調達品目に該当する機材は、その判断基準、配慮事項を満たすこと。調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努めるものとする。 建築工事特記仕様書による																																																																									
② 電気保安技術者																																																																										
③ 施工条件	施工時間 建築工事特記仕様書による																																																																									
④ 技能士の適用	・配管施工 (配管工事) ・建築板金施工 (風道制作及び取付け) ・熱絶縁施工 (保温工事) ・冷凍空気調和機器施工 (冷凍空調機器の据付)																																																																									
⑤ 機材の検査及び試験、施工の検査及び試験	検査及び試験を行うべき機材等は、標準仕様書及び特別仕様書による。																																																																									
⑥ 監督員事務所	建築工事特記仕様書による																																																																									
⑦ 官公署その他への届出手続等	工事の着手、施工、完成に当り、関係官公署などへの必要な届出手続等は受注者が代行し遅滞なく行う。																																																																									
⑧ 工事用電力・水等	建築工事特記仕様書による																																																																									
⑨ 工事用仮設物	すべて受注者の負担とし、構内につくることが ※できる ・できない																																																																									
⑩ 足場・さんばし類	建築工事特記仕様書による ・本工事とする。																																																																									
⑪ 建設発生土の処理	埋め戻し後の建設残土は、※監督員が指示する構内の場所に敷きならす。 ・構外搬出適切処理する。																																																																									
⑫ 埋め戻し土・盛土	※根切土の中の良質土 (但しコンクリート管以外の管の周囲は山砂の類) ・山砂の類																																																																									
⑬ 再生砂、再生砕石、再生アスコン使用	契約図書中の山砂の類、砂利、砕石及びアスコンに代替し、監督員の了解を得た上で、使用できる。 ※使用できない。 再生砂の使用に先立ち、1購入あたり1検体の六価クロム溶出試験を行い土壌の汚染に係る環境基準に適合することを確認すること。																																																																									
⑭ 発生材の処理等	※引渡しを要するもの以外は構外に搬出し、適切処理する。 (構外搬出処理費は ※本工事 ・別途) (1) 引渡しを要するもの () (2) 買取処分を要するもの () (3) 再生資源化を図るもの (・硬質塩化ビニル管) (4) 特別管理産業廃棄物 () ※処理に先立ち計画書を提出し、処理後は調書を提出すること。																																																																									
⑮ 容量等の表示	(1) 機器等の能力、容量等は表示された数値以上とする。 (2) 電動機出力、燃料消費量及び圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。																																																																									
⑯ 配 管	(1) 地中埋設配管 (排水管を除く) 1) 地中埋設機 (コンクリート製) ※要 (図示の箇所) ・不要 2) 地中埋設機 (キャットアイ) ※要 (舗装部の分岐、曲部) ・不要 3) 埋設表示テープ (2倍折込み) ※要 ・不要																																																																									
⑰ 耐震施工	設備機器の固定等は、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)を参考とする。 ただし、設計用地震力(水平及び鉛直)は次の設計用水平地震力 K_H 及び設計用鉛直地震力 K_V ($K_H/2$)を用いて計算する。 設計用水平地震力と設計用鉛直地震力は同時に作用するものとする。 設計用水平地震力 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">設置場所</th> <th colspan="4">耐震安全性の分類</th> </tr> <tr> <th colspan="2">特定の施設</th> <th colspan="2">一般の施設</th> </tr> <tr> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上層階</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>屋上及び塔屋</td> <td>(2.0)</td> <td>(2.0)</td> <td>(2.0)</td> <td>(1.5)</td> </tr> <tr> <td></td> <td><2.0></td> <td><1.5></td> <td><1.5></td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(1.5)</td> <td>(1.5)</td> <td>(1.5)</td> <td>(1.0)</td> </tr> <tr> <td></td> <td><1.5></td> <td><1.0></td> <td><1.0></td> <td><0.6></td> </tr> <tr> <td>1階及び地下階</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(1.0)</td> <td>(1.0)</td> <td>(1.0)</td> <td>(0.6)</td> </tr> <tr> <td></td> <td><1.5></td> <td><1.0></td> <td><1.0></td> <td><0.6></td> </tr> </tbody> </table> (注) () 内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。 > 内の数値は水槽類に適用する。 ※上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階) 中間階とは地下階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの (平屋建の場合は無し) 重要機器は次のものを示す。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>給水装置</td> <td>排水装置</td> <td>換気機器</td> <td>空調機器</td> <td>熱源機器</td> </tr> <tr> <td>防災設備</td> <td>監視制御設備</td> <td>危険物貯蔵装置</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>火を使用する設備</td> <td>避難経路上に設置する機器</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	設置場所	耐震安全性の分類				特定の施設		一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階	2.0	1.5	1.5	1.0	屋上及び塔屋	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(1.5)		<2.0>	<1.5>	<1.5>	1.0	中間階	1.5	1.0	1.0	0.6		(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)		<1.5>	<1.0>	<1.0>	<0.6>	1階及び地下階	1.0	0.6	0.6	0.4		(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)		<1.5>	<1.0>	<1.0>	<0.6>	給水装置	排水装置	換気機器	空調機器	熱源機器	防災設備	監視制御設備	危険物貯蔵装置			火を使用する設備	避難経路上に設置する機器			
設置場所	耐震安全性の分類																																																																									
	特定の施設		一般の施設																																																																							
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																																																						
上層階	2.0	1.5	1.5	1.0																																																																						
屋上及び塔屋	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(1.5)																																																																						
	<2.0>	<1.5>	<1.5>	1.0																																																																						
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6																																																																						
	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)																																																																						
	<1.5>	<1.0>	<1.0>	<0.6>																																																																						
1階及び地下階	1.0	0.6	0.6	0.4																																																																						
	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)																																																																						
	<1.5>	<1.0>	<1.0>	<0.6>																																																																						
給水装置	排水装置	換気機器	空調機器	熱源機器																																																																						
防災設備	監視制御設備	危険物貯蔵装置																																																																								
火を使用する設備	避難経路上に設置する機器																																																																									
⑰-1) あと施工アンカー	機器・配管等の据付けにおけるあと施工アンカーの使用については、監督員の承諾を受けるものとする。 重量100kgを超える機器の耐震支持については、耐震計算書を添付し、アンカーボルトを選定すること。 施工は、(一社)日本建築あと施工アンカー協会の資格を有するもの、又は十分な技能及び経験を有した者が行うこと。 金属拡張系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、拡張の完了がわかる記録を添付すること。 接着系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、清掃状況、マーキング、カプセル挿入、埋込みの完了が分かる記録を添付すること。 (原則として、接着系アンカーは吊り支持に使用しないものとする。) あと施工アンカーの試験は、アンカーの種類毎に1か所引張試験を実施すること。																																																																									

⑱ 防露保温工事

標準仕様書第2編によるほか下記による。

空気調和設備工事の保温の種別		
区 分	施 工 箇 所	保 温 種 別
ド レ ン 管	屋内露出 (一般居室、廊下)	a1・(ハ)・Ⅷ
	機械室・書庫・倉庫	b・(ハ)・Ⅷ
	天井内、PS内及び空腔壁中	c2・(ロ)・Ⅷ
	浴室、厨房等の多湿箇所 (厨房の天井内は含まない。)	e3・(ハ)・Ⅷ

(注) 1. 冷媒管は、断熱材被覆鋼管を使用し、外装は下記による。
屋内露出部 ※保温化粧カバー (※樹脂製 ・亜鉛メッキ鋼板製 ・SUS製)
屋外露出部 ※溶融アルミニウム亜鉛鉄板ラッキング ・SUSラッキング
・保温化粧カバー (※樹脂製 ・亜鉛メッキ鋼板製 ・SUS製)

2. 施工種別Bの材料及び施工順序4、5に替え、アルミガラス化粧原紙を使用する。
3. 機器類の保温材の種別は、(※グラスウール保温材 ・ロックウール保温材)とする。

19 防 凍 保 温

20 塗 装

下記の亜鉛メッキを施したダクト及び配管は、塗装を行わない。
※機械室、書庫、倉庫 ・
下記の金属電線管は塗装を行う。
※屋外露出 ※多湿箇所 屋内露出 (※見えかきり部)

21 電 線

表示なき電線・ケーブルは、原則としてエコマテリアル電線・ケーブルとし、露出部分に使用する場合は耐紫外線性能を有するものとする。
ただし、自動制御設備に関わる配線は標準仕様書の自動制御設備の項による。

22 はつり及びあと施工アンカー打設

既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開及びあと施工アンカー打設前に、図面に明示した箇所についてX線撮影調査と実施すること。
電動ドリル等の刃が鉄筋、金属配管等に接触した場合に、自動で電動工具の電源を遮断する装置を使用する。

23 管の埋設深さ

(1) 公道上は、道路管理者の指定する深さとする。
(2) 構内車両通路では、路盤材下面から管の上端まで600mmとする。
(3) その他の場所では、地表面 (舗装する部分では路盤材下面) から管の上端まで300mmとする。

24 既設管分岐・接続

既設管に接続・分岐する場合は、原則として新設時の接合方法として標準仕様書に規定された工法による。
やむを得ずそれ以外の工法を採用する場合は監督員の承諾を受ける。

25 絶縁継手の設置・種別

※コンクリートの建築物に出入りする箇所の付近の露出部配管
※鋼管と鋼管及びこれに類する部分 ※鋼管とステンレス管及びこれに類する部分
※50A以下は絶縁ユニオンとし、それ以上は絶縁フランジ ・全て絶縁フランジ

26 天井仕上げ区分

27 他工事との取合区分

28 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に帰属するものとする。

29 保 険

建築工事特記仕様書による

30 配管識別

配管等の識別は、その方法等について監督員と協議のうえ行うこと。

31 墜落制止用器具 (フルハーネス型)

※使用を要する 墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン (平成30年6月22日付け基発0622第2号) による
・使用を要しない

32 施工計画書

※施工に先立ち、次の施工計画書を提出し監督員の承認を受ける。
※総合施工計画書 (工程・品質・安全・環境配慮・仮設計画等を含む)
※種別施工計画書
○共通工事 ○空気調和設備工事 ・自動制御設備工事 ・給排水衛生設備工事
・ガス設備工事 ・さく井設備工事 ・浄化槽設備工事 ・昇降機設備工事
・機械式駐車設備工事 ・医療ガス設備工事
※その他監督員が必要と認めるもの

33 誘導電動機

三相誘導電動機はJIS C 4213 (IE3) トップランナーモーターとする。

34 そ の 他

完成図の表紙及び背表紙には、工事名、受・発注者名、完成年月を記載すること。
また、完成図の中に主要機器一覧表 (名称、製造者名、形式、容量又は出力、数量等) を記載すること。

工事用図面
建築工事特記仕様書による

① 共通事項

② 改修部分の足場

本工事で単独に必要な足場は、下記より設ける。
(1) 内部足場 ※ 脚立足場 ・持組足場 ・
(2) 外部足場 建築工事特記仕様書による

③ 既存部分養生・既存家具等養生

(1) 関係受注業者と共用部分
※別契約の関係受注業者が定着したものは無償で使用できる。
・本工事で負担とする。(種別は(2)による。)
(2) 本工事で単独で必要となる養生は、下記による。
※ビニールシート ・合板 ・

④ 備品等の移動

・別途工事 ○本工事 ※接続配管等の取外し、接続は本工事

⑤ 仮設間仕切り

建築工事特記仕様書による

⑥ 撤去後機材の扱い

(1) 改修部分の機材は原則として撤去後新品に取替えるものとし、再使用する場合は図示区分による。
(2) 撤去後再使用の指定がない機材のうち、撤去後使用価値を有するものは、現場発生品として監督員に報告する。
それ以外の機材は種類別に産業廃棄物として分別処分し、マニフェストを監督員に提出する。

⑦ 支持金物の再使用

(1) インサート金物 ・インサートの径毎に引張試験を行った場合は、再使用できる ※新品
(2) 形鋼支持金物等 ・再使用できる ※新品

8 フロン回収

⑨ 総 合 調 整

・全体再調整 ※改修部及び影響部のみ調整

⑩ 既設基礎類の解体はつり

建設機械は、原則として、排出ガス対策型、低騒音型、低振動型を使用すること。
現場内で使用する重機等は、解体建築物の位置及び規模に応じた機種及び規格のものを選定すること。
粉じんの飛散等により周辺環境に影響を及ぼさないよう適宜散水や粉じん発生源を覆うなど環境対策に配慮すること。

⑪ アスベスト事前調査結果の報告

全ての建築物、工作物において大気汚染防止法及び石綿障害予防規則の事前調査を実施し、アスベスト使用有無に関わらず、結果を知事又は市長あてに報告すること。

⑫ そ の 他

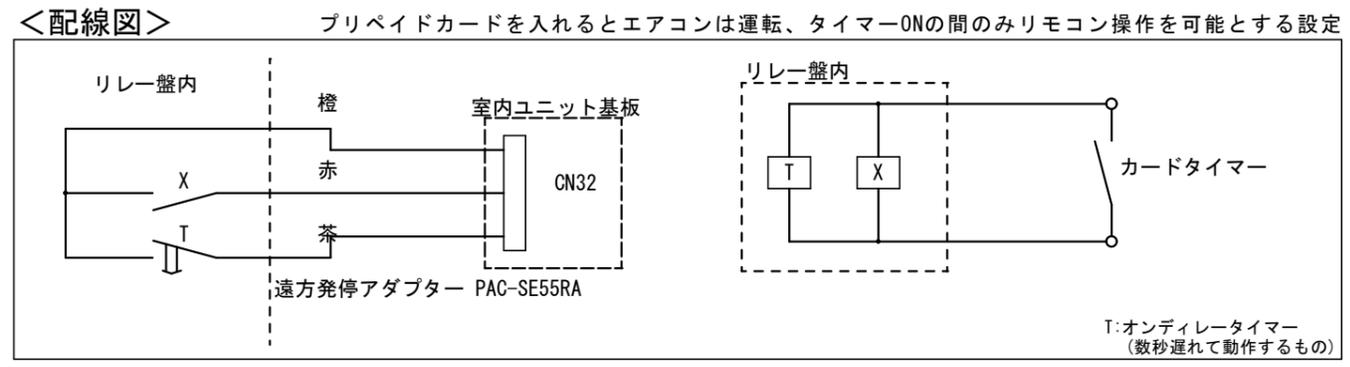
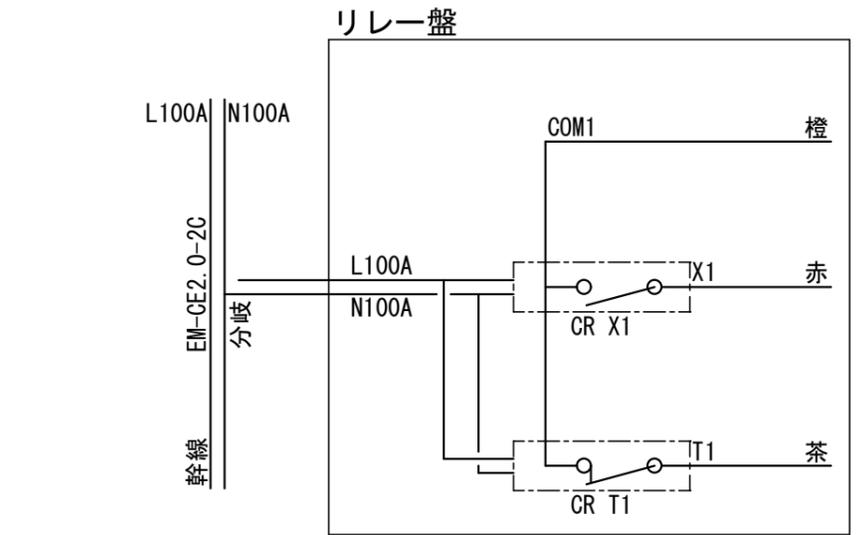
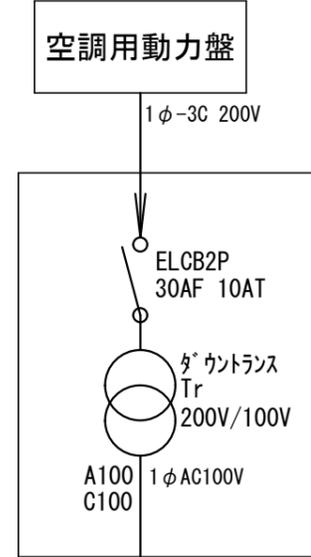
(1) 図面上の縮尺は、JIS A1版、A3版とした縮尺とする。
(2) 受注者は、施工にあたって施設運営に支障の無いように綿密に打合せを行うこと。
(3) 特に騒音振動など周辺に甚大な影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。
(4) FF式温風暖房機の撤去・再取付、新規設置について
FF式温風暖房機の一時取外し、再取付、新規設置及び動作確認は、製造者又は製造者認定の代理店等に所属する「石油機器技術管理士」の登録を受けたもの (一財) 日本石油燃焼機器保守協会) が行い、記録を整備すること。なお、動作確認は、一時取外し前、再取付け後の双方で行うこと。新規設置の場合は設置後に行うこと。

● 空気調和設備	① 設計温度	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">外 気</th> <th colspan="4">屋 内</th> </tr> <tr> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> <tr> <td>夏 期</td> <td>36.9℃</td> <td>46.1%</td> <td>28℃</td> <td>9%</td> <td>26℃</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>0.6℃</td> <td>50.7%</td> <td>20℃</td> <td>9%</td> <td>20℃</td> <td>9%</td> </tr> </table> <p>※外気処理用エアコンの室内設定値は、夏期湿度50%とする。</p>		外 気		屋 内				温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏 期	36.9℃	46.1%	28℃	9%	26℃	9%	冬 期	0.6℃	50.7%	20℃	9%	20℃	9%
		外 気		屋 内																									
温度 (DB)		湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																							
夏 期	36.9℃	46.1%	28℃	9%	26℃	9%																							
冬 期	0.6℃	50.7%	20℃	9%	20℃	9%																							
② 総合試運転調整	<p>※本工事・別途</p> <p>風量調整 ※する ・しない</p> <p>水量調整 ・する ※しない</p> <p>騒音の測定 ○する ※しない</p> <p>室内外空気の温度の測定 ※する ・しない</p> <p>室内気流及びじんあいの測定 ・する ※しない</p> <p>初期運転状態の記録 ※する ・しない</p> <p>工事対象範囲の既設機器運転状態の記録 ・する ※しない</p>																												
3 煙道 10 ダンパー	<p>4 煙突 5 長方形ダクト 6 円形ダクト 7 風量測定口</p> <p>8 チャンパー 9 吹出口及び吸込口ボックス</p>																												
③ 配管材料	<p>(1) 冷温水管 ※配管用炭素鋼鋼管 (白) ・</p> <p>(2) 冷却水管 ※配管用炭素鋼鋼管 (白) ・</p> <p>(3) プライン管 ※配管用炭素鋼鋼管 (黒) ・</p> <p>(4) 冷媒管 ※断熱材被覆鋼管</p> <p>(保温厚mm ガス管 ※20以上 ・10以上 液管 ・20以上 ※10以上) ただし、液管の呼び径が9.52mm以下の断熱厚さは、8mmとしてもよい。</p> <p>(5) ドレン管 (屋外) ※配管用炭素鋼鋼管 (白) ○硬質塩化ビニル管VP ドレン管 (屋内) ※保温機能付空調用ドレン管 (S20/ACD'レハ'イ'相当品) ・耐火二層管VP (FDPS-1) ・配管用炭素鋼鋼管 (白) ・硬質塩化ビニル管VP (消防協議事項: ただし、保温機能付空調用ドレン管は、水圧1mを超える配管には使用しない。</p> <p>(6) 油管 ※配管用炭素鋼鋼管 (黒) ・</p> <p>(7) 蒸気管 給気管 ※配管用炭素鋼鋼管 (黒) ・ 還管 ※圧力配管用炭素鋼鋼管 (黒) Sch40 ・ステンレス鋼管</p> <p>(8) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管 ※配管用炭素鋼鋼管 (白) ・</p>																												
12 井類 17 冷却塔	<p>13 温度計 14 圧力計 15 瞬間流量計 16 油面制御装置</p>																												
④ 空気熱源ヒートポンプ空調機	<p>標準仕様書によるほか下記による。</p> <p>(1) 圧縮機原動機の制御方式 ※回転数制御 ・オンオフ制御</p> <p>(2) 冷媒 HFC (R410A、R32又はR407C)</p> <p>(注1) R410Aを採用した場合、冷媒配管は機器の設計圧力を満足するものを使用すること。</p> <p>(注2) R32を採用した場合、冷媒配管の断熱材被覆鋼管は難燃性のものを使用すること。</p> <p>(3) 埼玉県グリーン調達推進方針で掲げる成績係数を満たす機器とする。</p>																												

● 換気設備	1 長方形ダクト	<p>※低圧ダクト (重鉛鉄板製)</p> <p>長辺の長さ1500mm以下 ※共板工法 ・スライドオンフランジ工法 ・アングルフランジ工法 ※アングルフランジ工法</p> <p>それ以外の部分 ※アングルフランジ工法</p> <p>・高圧1ダクト (重鉛鉄板製) ・高圧2ダクト (重鉛鉄板製)</p> <p>・ステンレス製ダクト (・A区分 ※B区分) ・塩ビ製ダクト (・A区分 ※B区分)</p>										
	2 円形ダクト	<p>※スパイラルダクト (※重鉛鉄板製 ・ステンレス製) ・硬質塩化ビニル管 (VU)</p> <p>・耐火二層換気管 (大臣認定品) ※フレキシブルダクト (・保温付 ・保温無)</p> <p>(注)1 使用区分は図示による。</p>										
3 風量測定口	<p>取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする</p> <p>送風機吐出ダクト又は吸込ダクト、外気取入ダクト</p>											
4 チャンパー	<p>(1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。</p> <p>(2) 消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設けるものとし、点検口の大きさは下記のとおりとする。</p> <p>・300×300 ・300×500 ※400×600 ・550×750</p> <p>(3) 外壁に面するガラリに直接取り付けするチャンパー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。</p>											
5 ダンパー	<p>(1) 防煙ダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・) 定格入力DC24V、0.7A以下</p> <p>(2) ピストンダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・)</p>											
6 多湿箇所の排気ダクト	<p>(1) 排気ダクトのうち下記箇所は硬質塩化ビニル管 (VU)</p> <p>(防火区画貫通箇所は換気用耐火二層管又は耐火VP) を使用できる。</p> <p>※浴室 (シャワー室、脱衣室を含む) ・</p> <p>(2) 水抜き管は (※厨房、浴室 ※結露水が滞留する部分 ・) の排気ダクトには設ける</p>											
7 保温	<p>下記のダクトの保温を行う。</p> <p>※全熱交換器用の隠ぺい部ダクト</p> <p>仕様はN・(O)・XIとする。</p> <p>保温施工範囲は、給気用OAダクトは全て、また、排気用EAダクトは外壁より1mの部分とする。</p> <p>※ (※厨房 ・湯沸室 ・) 用の隠蔽ぺい部ダクト (仕様はh・(イ) ・IXとし範囲は図示による)</p>											
8 試運転調整	<p>風量調整 ※する ・しない</p> <p>風量測定 ※する ・しない</p> <p>騒音の測定 ・する ※しない</p>											
● 自動制御	1 中央監視制御装置	・有り ※無し										
	2 構成・機能	図示による										
③ 電気計装用機材	<p>使用する電線及びケーブルは、原則としてEM電線またはEMケーブルとする。</p> <p>屋外・屋内露出の電線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。</p> <p>天井内隠ぺい電線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする。</p>											
④ 計装制御	<p>カードタイマーにより発停を制御する。</p> <p>仕様は別紙のとおり</p> <p>カードのメモリ書き込み、納品は本工事とする。</p>											
○ 排水設備	1 配管材料	<p>配管材料は ※下記 ・図面指示 (図面指示が不足する箇所は下記) による。</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>管種別</th> </tr> <tr> <td>雑排水配管</td> <td> <p>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む) ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>厨房等の温排水 ※SGP (白) ・</p> <p>耐火性能を要求される箇所 ※耐火二層管VP (FDPS-1)又は耐火VP ・SGP (白)</p> <p>その他の部分 ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p> </td> </tr> <tr> <td>汚水配管</td> <td> <p>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む) ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>耐火性能を要求される場所 ※耐火二層管VP (FDPS-1)又は耐火VP ・排水用/フタなし 抄塗装鋼管</p> <p>その他の部分 ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p> </td> </tr> <tr> <td>共通</td> <td> <p>地中埋設部 ※RS-VU又はリサイクルVU ・VU</p> <p>・卵形管 (ゴム輪接合)</p> <p>※REP-VU (軽荷重の場合)</p> <p>・RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> </td> </tr> <tr> <td>通気配管</td> <td> <p>耐火性能を要求される箇所 ※耐火二層管VP (FDPS-1)又は耐火VP ・SGP (白)</p> <p>その他の部分 ※リサイクルVP又はRF-VP ・VP</p> <p>・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p> </td> </tr> </table> <p>(注) 1. リサイクルVP、リサイクルVUはJIS K6741の規格をもつ塩ビリサイクル管 RF-VP、RS-VU又は、REP-VUは標準仕様書第2編2.1.2.6による。 2. 雨水排水を含む場合は、雨水排水は雑排水配管の材料種別による。 3. 原則として雑排水配管、汚水配管の管接合部はY45度で行う。</p>	施工箇所	管種別	雑排水配管	<p>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む) ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>厨房等の温排水 ※SGP (白) ・</p> <p>耐火性能を要求される箇所 ※耐火二層管VP (FDPS-1)又は耐火VP ・SGP (白)</p> <p>その他の部分 ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p>	汚水配管	<p>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む) ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>耐火性能を要求される場所 ※耐火二層管VP (FDPS-1)又は耐火VP ・排水用/フタなし 抄塗装鋼管</p> <p>その他の部分 ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p>	共通	<p>地中埋設部 ※RS-VU又はリサイクルVU ・VU</p> <p>・卵形管 (ゴム輪接合)</p> <p>※REP-VU (軽荷重の場合)</p> <p>・RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p>	通気配管	<p>耐火性能を要求される箇所 ※耐火二層管VP (FDPS-1)又は耐火VP ・SGP (白)</p> <p>その他の部分 ※リサイクルVP又はRF-VP ・VP</p> <p>・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p>
	施工箇所	管種別										
雑排水配管	<p>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む) ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>厨房等の温排水 ※SGP (白) ・</p> <p>耐火性能を要求される箇所 ※耐火二層管VP (FDPS-1)又は耐火VP ・SGP (白)</p> <p>その他の部分 ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p>											
汚水配管	<p>床下、暗渠内(ピット内、共同溝を含む) ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>耐火性能を要求される場所 ※耐火二層管VP (FDPS-1)又は耐火VP ・排水用/フタなし 抄塗装鋼管</p> <p>その他の部分 ※RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p> <p>・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p>											
共通	<p>地中埋設部 ※RS-VU又はリサイクルVU ・VU</p> <p>・卵形管 (ゴム輪接合)</p> <p>※REP-VU (軽荷重の場合)</p> <p>・RF-VP又はリサイクルVP ・VP</p>											
通気配管	<p>耐火性能を要求される箇所 ※耐火二層管VP (FDPS-1)又は耐火VP ・SGP (白)</p> <p>その他の部分 ※リサイクルVP又はRF-VP ・VP</p> <p>・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</p>											
2 洗面器等の排水管	<p>3階以上にわたる排水立て管には、各階毎に次の継手を設ける。</p> <p>※掃除口付きソケット ・満水試験用掃除口ソケット</p>											
3 満水試験継手	<p>別紙仕様による。</p>											
4 樹の適用	<p>別紙仕様による。</p>											
舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書												
建築工事特記仕様書による												

		参考工程表												
		月 日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
工 事 項 目	学校運営													
	契約													
	書類作成													
	準備工事													
	共通仮設工事													
	空調設備工事													
	空調設備工事に伴う電気設備工事													
	空調設備工事													
	空調設備工事													
	アリーナLED工事													
	建築改修工事													
	受電設備工事													
検査														

この工程表は参考であり、契約を拘束するものではない。学校関係者と協議の上、学校の意向を汲み、工程を決定すること。
この工事は学校、放課後クラブを運営しながらの工事である。工程は両運営に配慮した計画とすること。
設備発注は早期に実施し、工程の遅れが生じないようにすること。



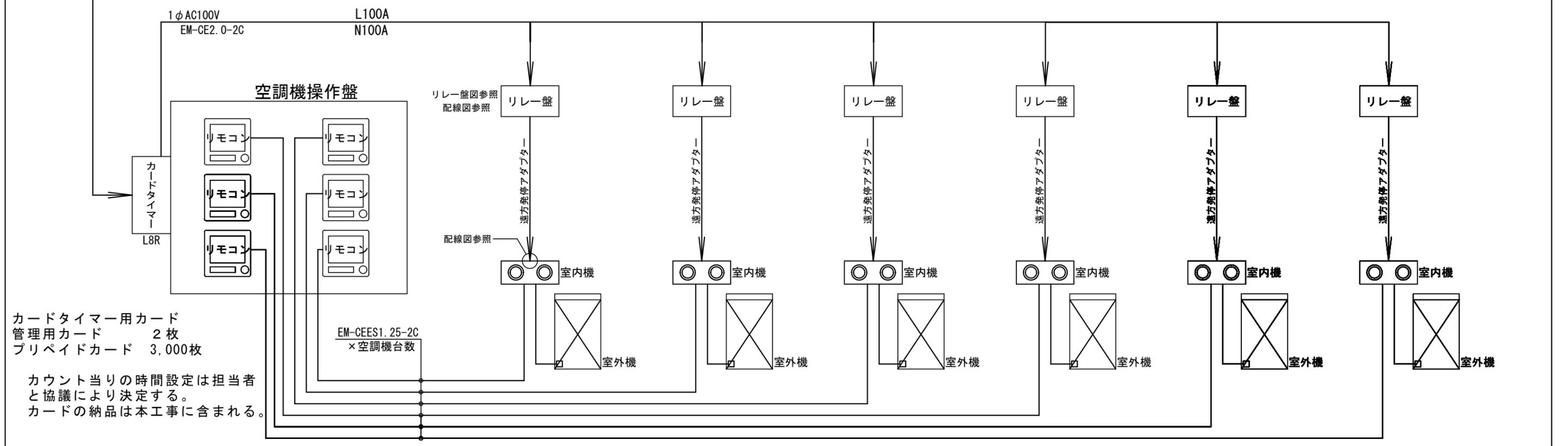
[動作]

カードタイマー接点 オンディレイタイマー接点	状態	手元リモコンからの操作	
		運転/停止操作	その他設定(温度/風速など)
ON	タイマー制御/運転開始→	許可	許可
OFF(数秒遅れ)	リモコン制御	(オンディレイタイマー接点OFF後)	
OFF	タイマー制御/停止	禁止	停止
ON			

停止ボタンを押してもカードタイマーのカウントは停止しない。

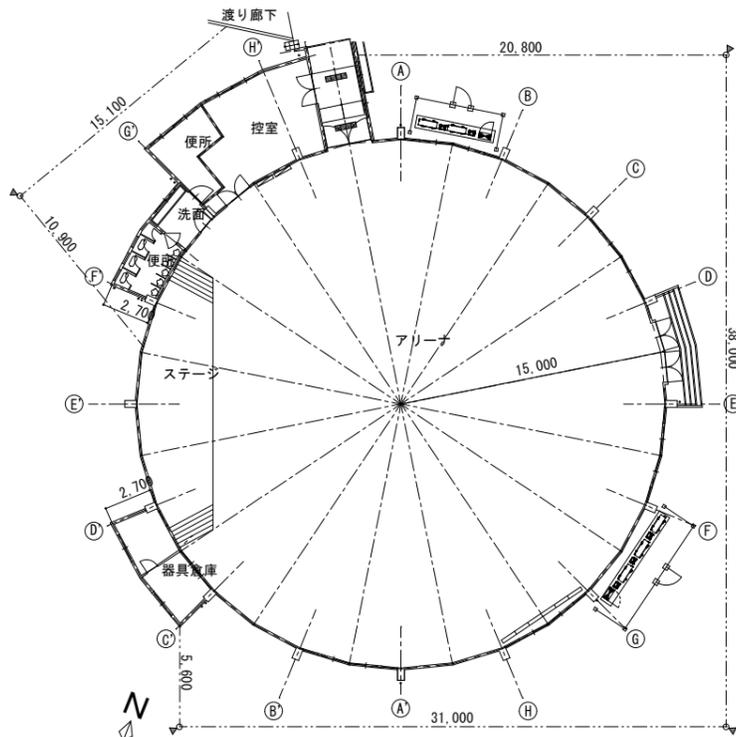
カードタイマー運転フロー

- ① カードタイマーにカードを差し込む
カードタイマーに設定された度数が引き落とされる。
カードタイマーからカードが自動で出てくる。
連続でカードを抜き差しすると設定された度数がその回数分、引き落とされ、カードタイマーに加算される。
カードタイマーに引き落とされた度数の清算はできない。
- ② 自動で全空調が稼働する。
設定(冷暖房、温度、風量)は前利用した運転時の設定を引き継ぐ。
リモコンの操作ロックが解除される。
リモコンで運転OFFにできるが、カードタイマーの残数は減り続ける。
- ③ カードタイマーの残数が0になると全空調が停止する。
リモコンの操作はロックされる。

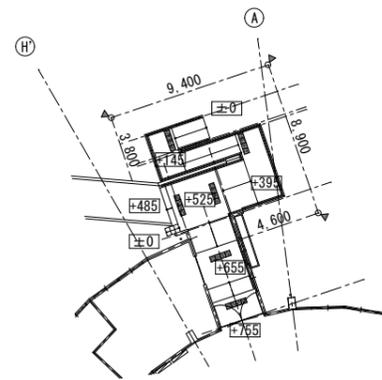


カードタイマー用カード
管理用カード 2枚
プリペイドカード 3,000枚

カウント当りの時間設定は担当者
と協議により決定する。
カードの納品は本工事に含まれる。

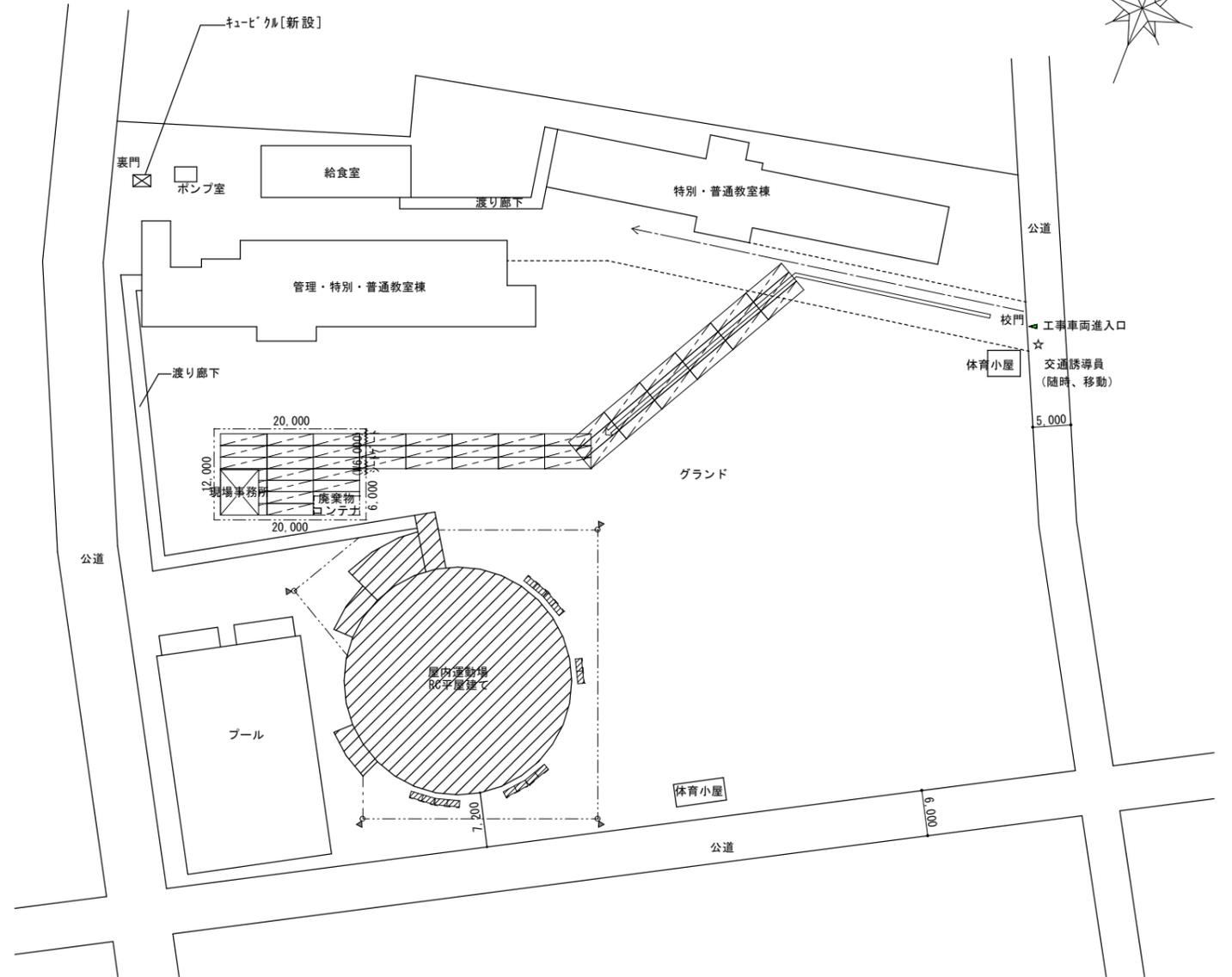


体育館廻り仮設計画図 S=1/200



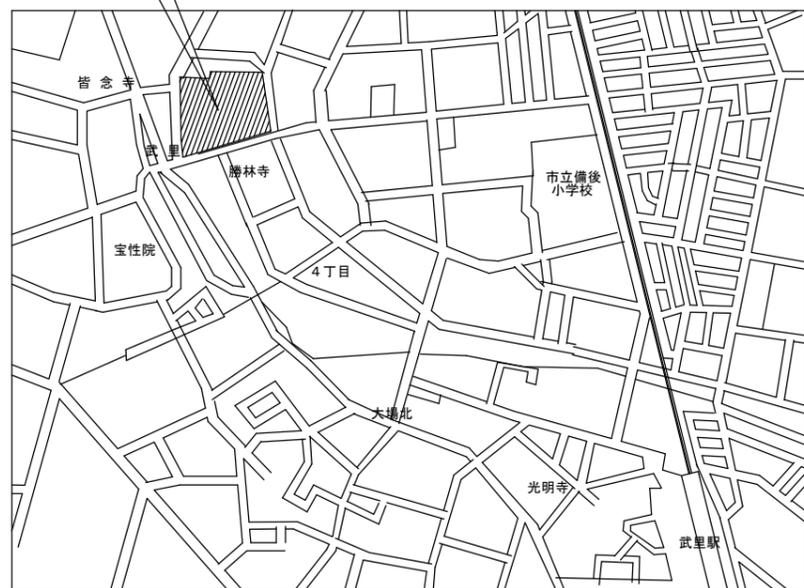
凡例	
	: 工事建物を表す。
	: 工事用車両進入路
	: 学校関係者動線の確保
	: 仮囲い (鋼製、H=2,000) ※※
	: シートゲート (w6,000 x h4,500)
	: 枠組足場 (900 x 1,800)
	: コーナークッション
	: 交通誘導員

※仮設計画については、監督員・学校関係者と協議の上、適切に設置する事。
 図面に記入がなく、やむ負えず必要となる工事は、監督員と協議の上、施工を行う事。
 工事車両進入路の鉄板敷きは、工事完了後に現状に復旧させる事。
 足場については、労働安全衛生法を厳守すること。
 ※※学校運営により撤去・再設置 (時期等は学校との容疑による)



配置図・仮設計画図(参考) S=1/400

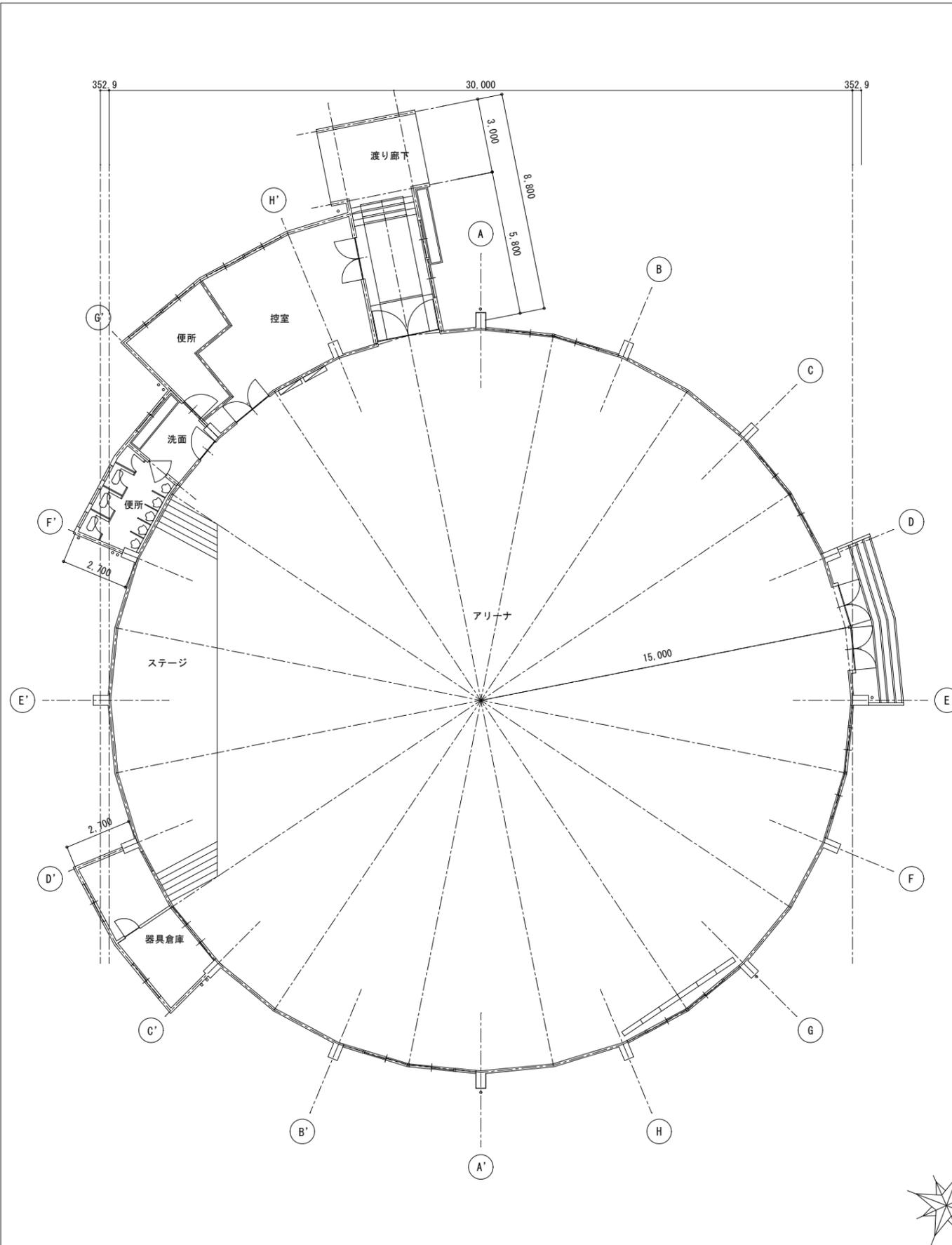
工事場所: 埼玉県春日部市備後西5丁目5番2号
 春日部市武里小学校



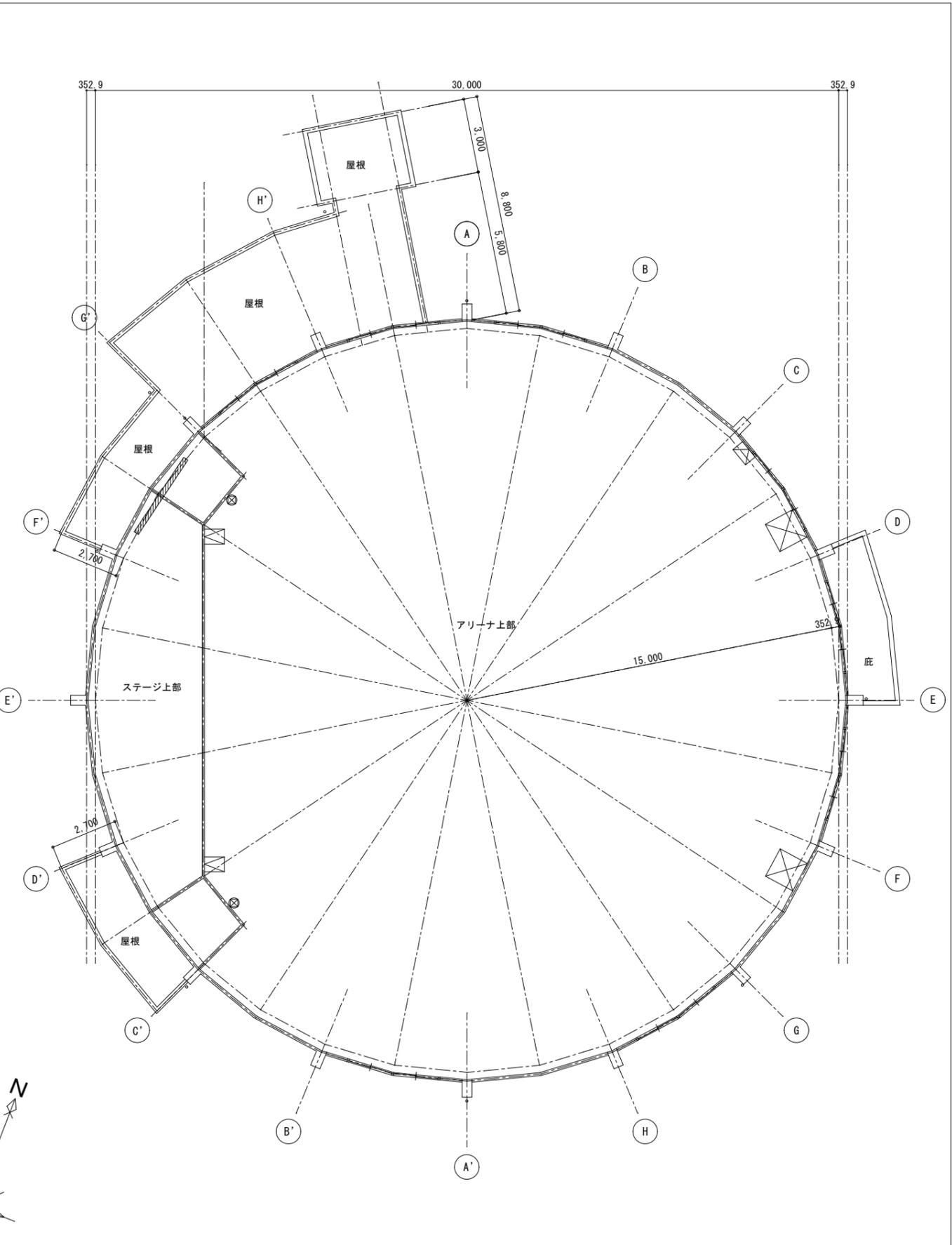
案内図

外 部 仕 上 表		仕 上
部位		
屋根	屋根(金属屋根)	高反射シリコントップコート仕上 ジョイント部：ウレタンシーム、超遠攻化型ウレタン塗膜防水スプレー工法
	屋根(平面部・立上り部)	高反射シリコントップコート仕上 環境対応型ウレタン塗膜防水メッシュ補強密着工法 X-2 塗り込み
外壁	一般部・柱型	水性フッ樹脂系遮熱塗料 一液型微弾性アクリルシリコン樹脂樹脂フェーサー
軒裏	一般部	水性多機能型アクリル樹脂系シーラー処理 外装薄塗材E仕上
中木	一般部	モルタル金ゴテ【アスベスト含有 無】 水性多機能型アクリル樹脂系シーラー+超撥水超耐候型特殊シリコン変性樹脂塗料塗り
他	堅礎	硬質塩ビ管 VP塗り φ100
建具	アルミサッシ	強化ガラス t=4.0、飛散防止フィルム(遮熱、UVカット性能付【新設】 一部ガラス【撤去】、ガラス撤去部分アルミサッシ【新設】

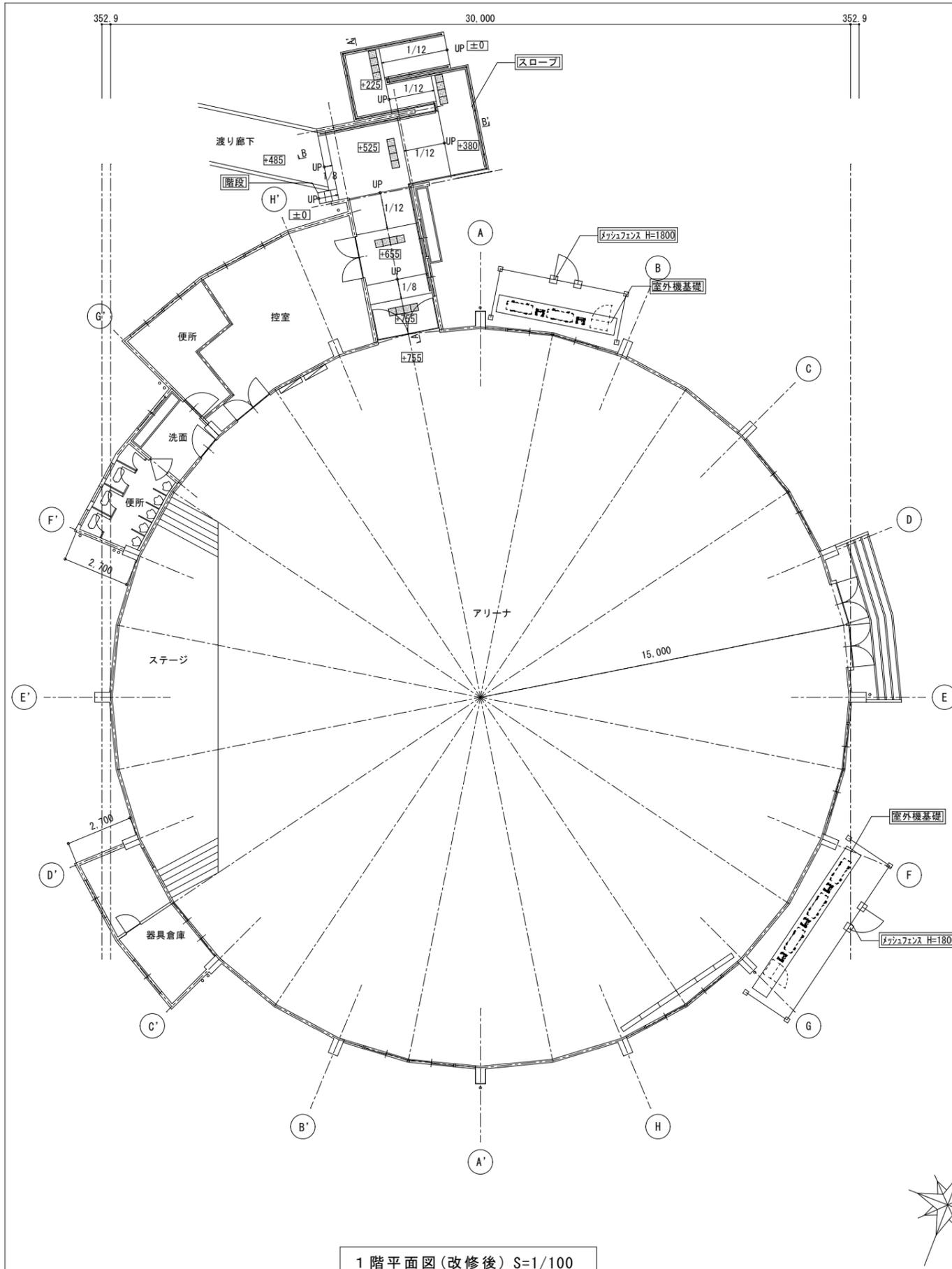
内 部 仕 上 表		壁		天 井		備 考										
階別	室 名	床 上	巾 木	仕 上	H	仕 上	H									
1 階	アリーナ	ブナフローリング 18特殊張り ウレタン塗装	ウレタン OS塗り		100	下地：木胴縁45×40 縦横450 上窓下端より上： 有孔ペニヤ t=5.5貼り OS(シ合板)敷目板張り EP-G塗装 上窓下端より下： 有孔ペニヤ t=6.0貼り OS(シ合板)敷目板張り EP-G塗装 空調設置： 有孔ペニヤ t=6.0貼り OS(シ合板)敷目板張り		木毛板7割り吹付	廻り縁	天井高						
	ステージ	イタカエテフローリング t=18 ウレタン塗装	ウレタン OS塗り		100							鉄骨現し 木毛メイト板現し				
	渡り廊下	モルタル金ゴテ	モルタル金ゴテ	モルタル金ゴテ VP塗り		150		1,800	モルタル塗り刷毛引下地 ガラス吹付				モルタル塗り刷毛引下地 ガラス吹付			
	控室	ビニール床タイル t=2貼	木製 OP塗り			120			モルタル金ゴテ ソフトコート吹付			2,400	石膏ボード t=9.0 目透し張り EP塗り	ステンレス流し		
	器具倉庫	イタカエテフローリング t=18 OS塗り	ウレタン OS塗り	モルタル金ゴテ VP塗り		100		1,800	モルタル塗り刷毛引下地 ガラス吹付			2,590	モルタル塗り刷毛引下地 ガラス吹付			
	洗面室	モルタル金ゴテ t=30 防滑ビニール床シート t=2	防滑ビニール床シート t=2.0 立ち上げ			100			フミン不燃化粧板 t=3.0				軽量鉄骨天井下地 LGS 野縁19型 化粧石膏ボード t=9.5	7&S製	2,300	
	男子便所	モルタル金ゴテ t=30 防滑ビニール床シート t=2	防滑ビニール床シート t=2.0 立ち上げ			100			A面：耐水合板 t=12.0 軽量鉄骨下地 W65 フミン不燃化粧板 t=3.0 B面：耐水合板 t=12.0 EP-G塗り				化粧石膏ボード t=9.5張り	塩ビ	2,300	
	女子便所	モルタル金ゴテ t=30 防滑ビニール床シート t=2	防滑ビニール床シート t=2.0 立ち上げ			100			A面：耐水合板 t=12.0 フミン不燃化粧板 t=3.0				化粧石膏ボード t=9.5張り	塩ビ	2,300	
	倉庫	モルタル金ゴテ t=30 ビニール系タイル t=2.0	ビニール巾木			120			モルタル金ゴテ ソフトコート吹付				軽量鉄骨天井下地 LGS 野縁19型 石膏ボード t=9.5 EP-G	木製	2,300	



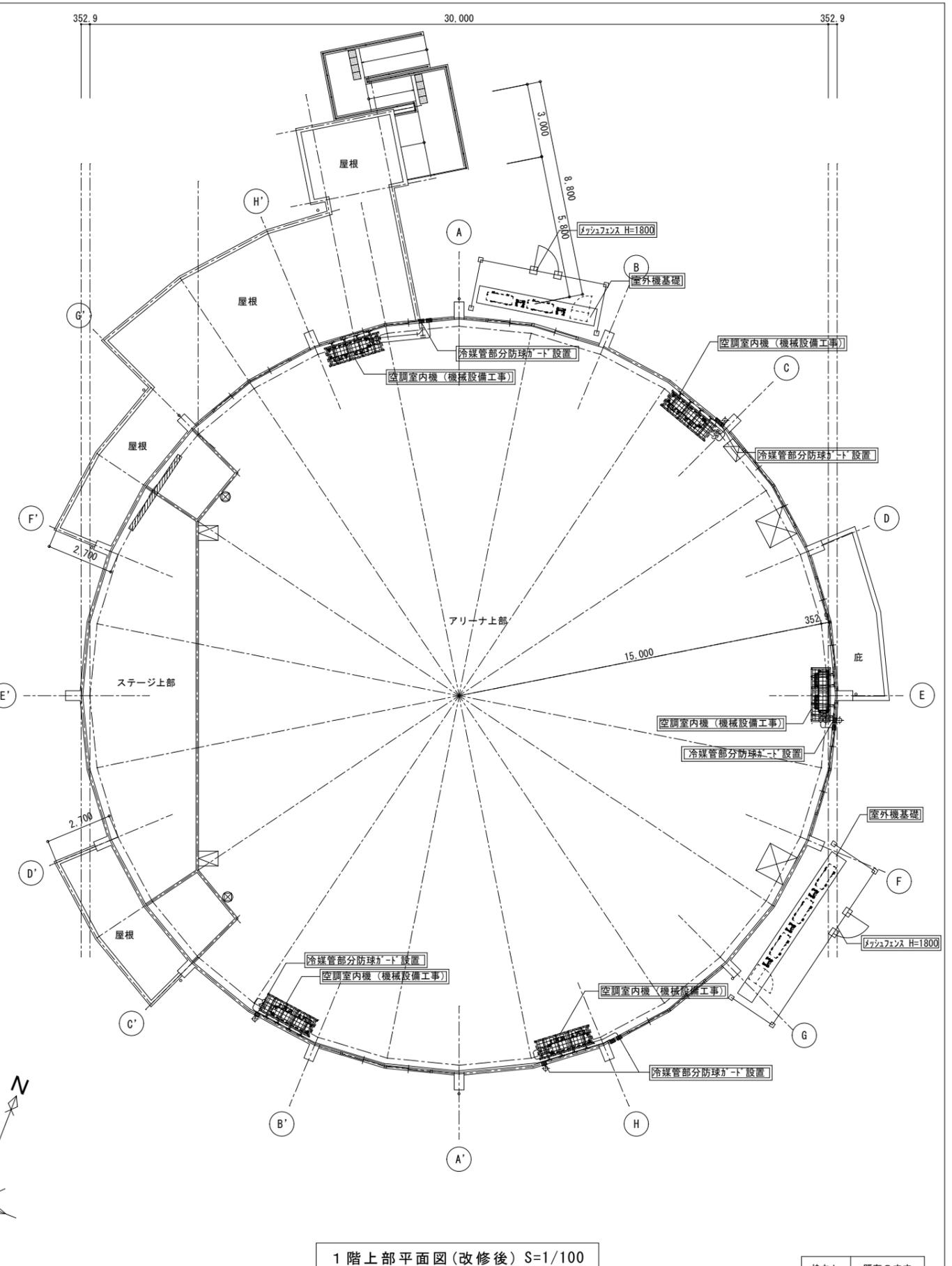
1階平面図(改修前) S=1/100



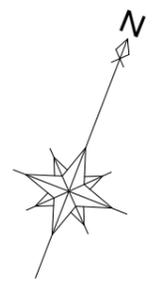
1階上部平面図(改修前) S=1/100



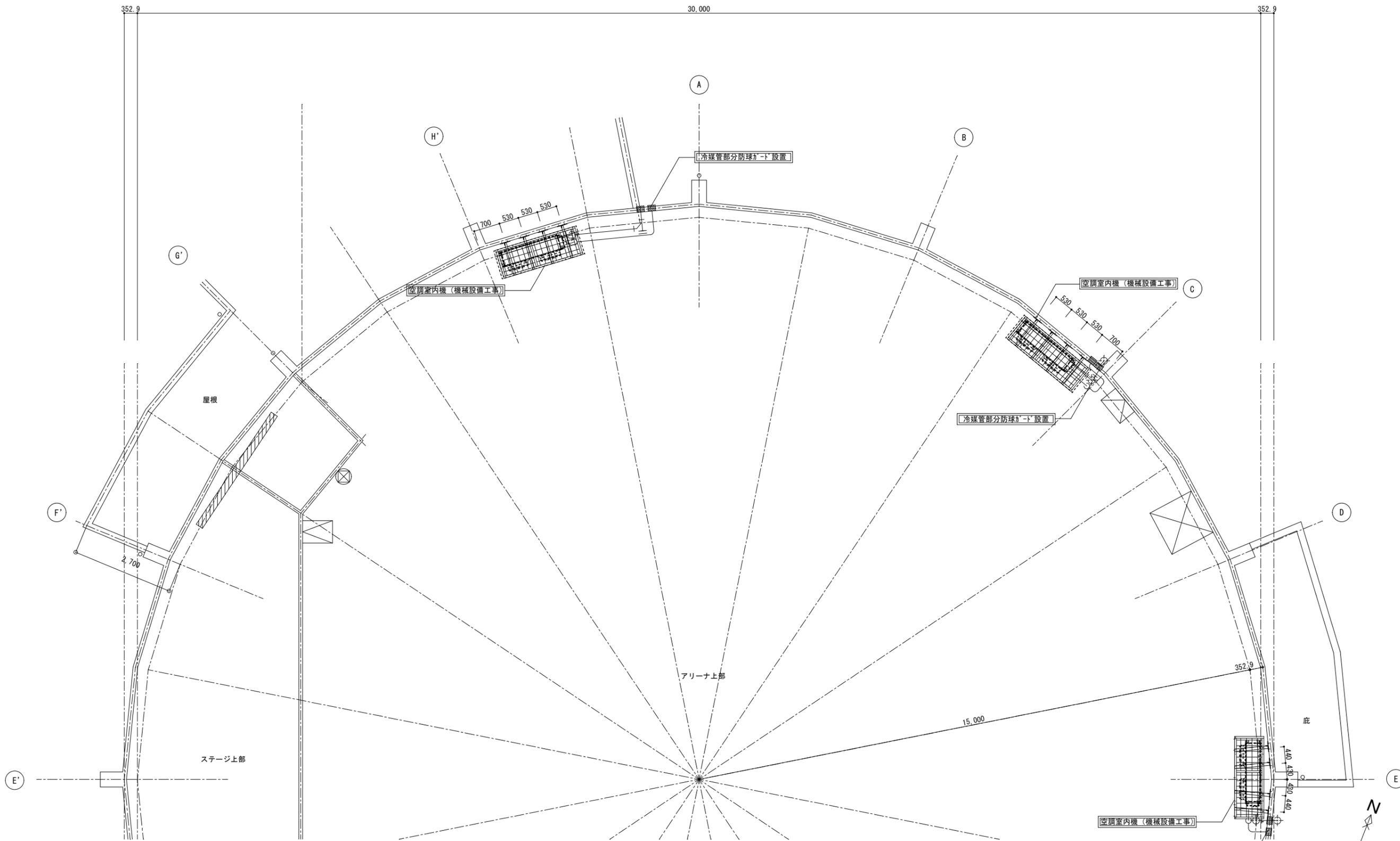
1階平面図(改修後) S=1/100



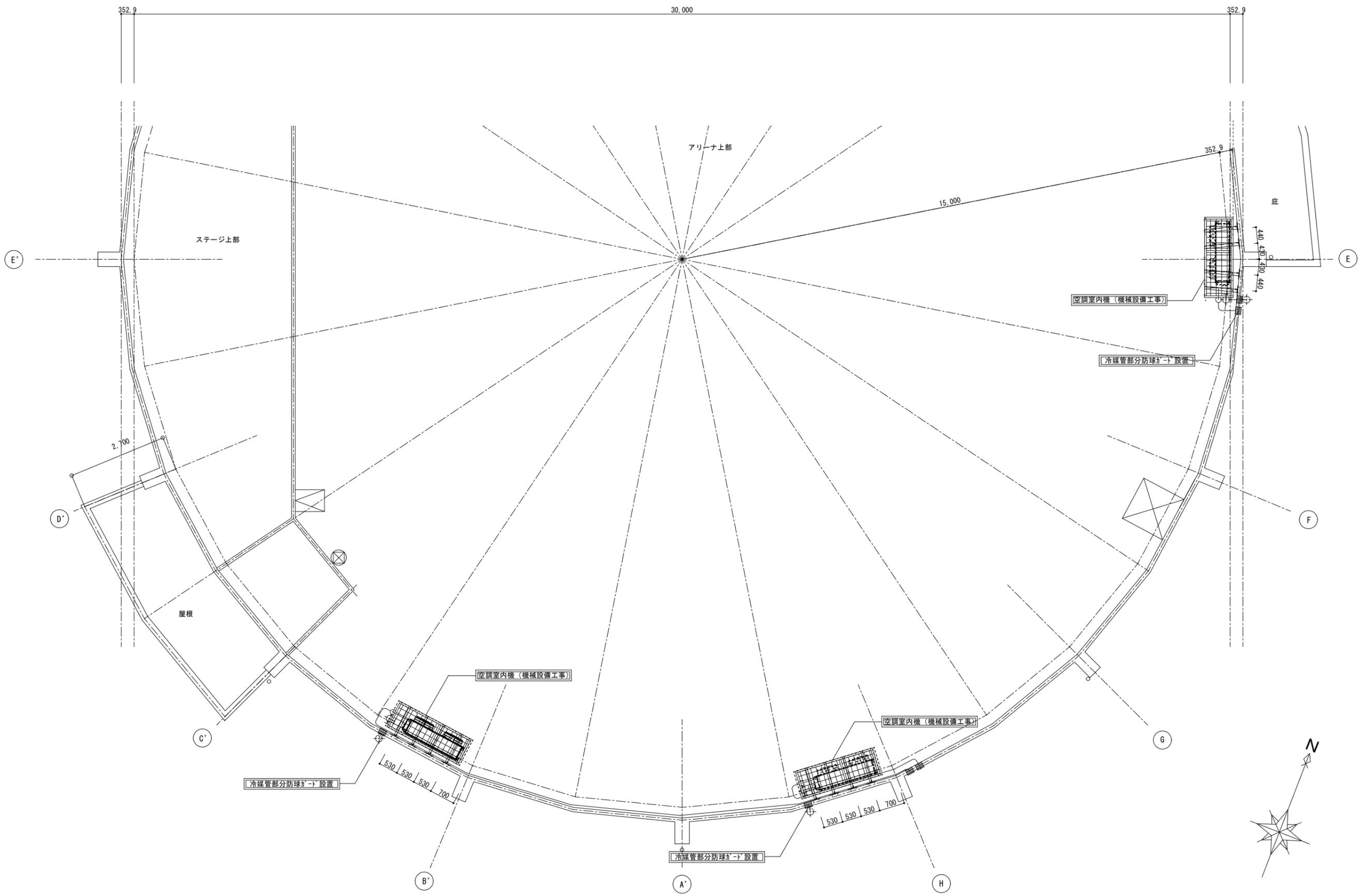
1階上部平面図(改修後) S=1/100



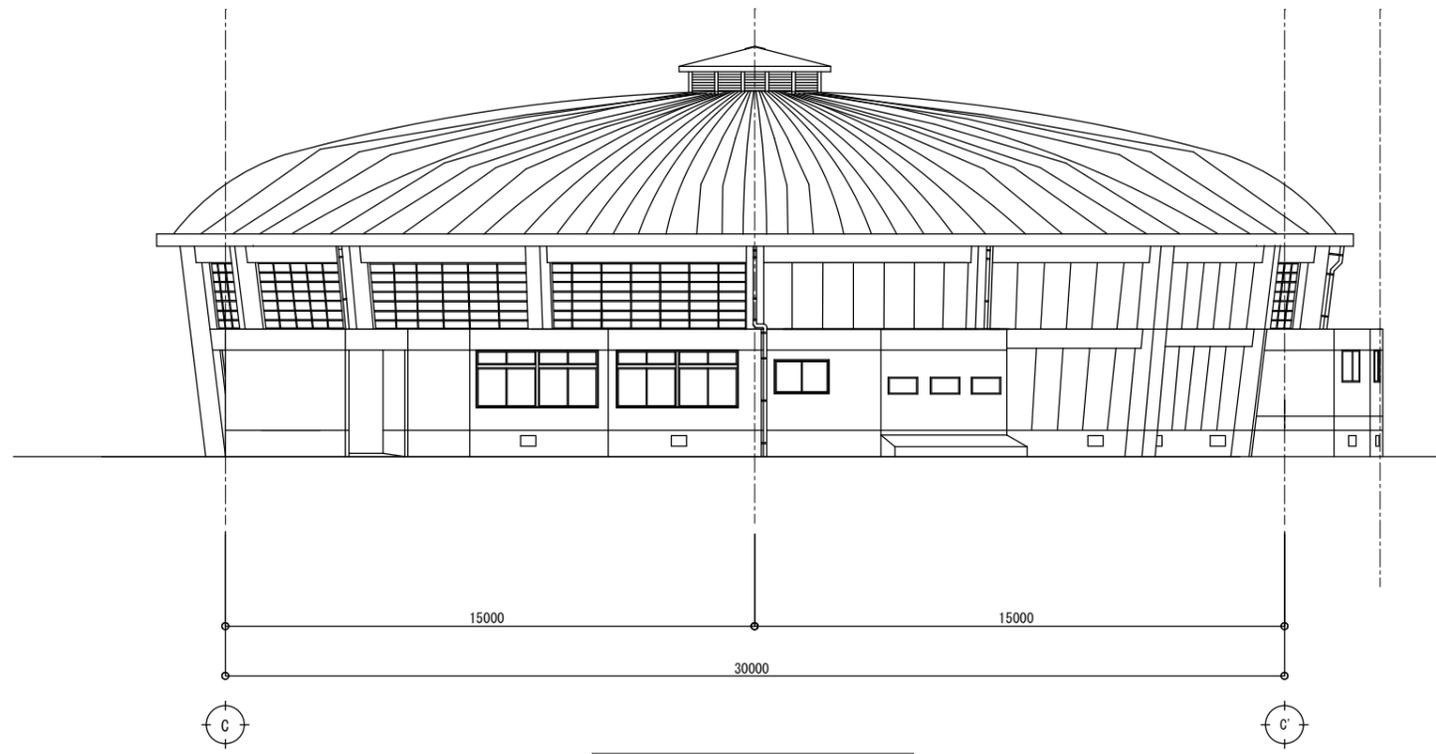
枠なし	既存のまま
	新規設置項目



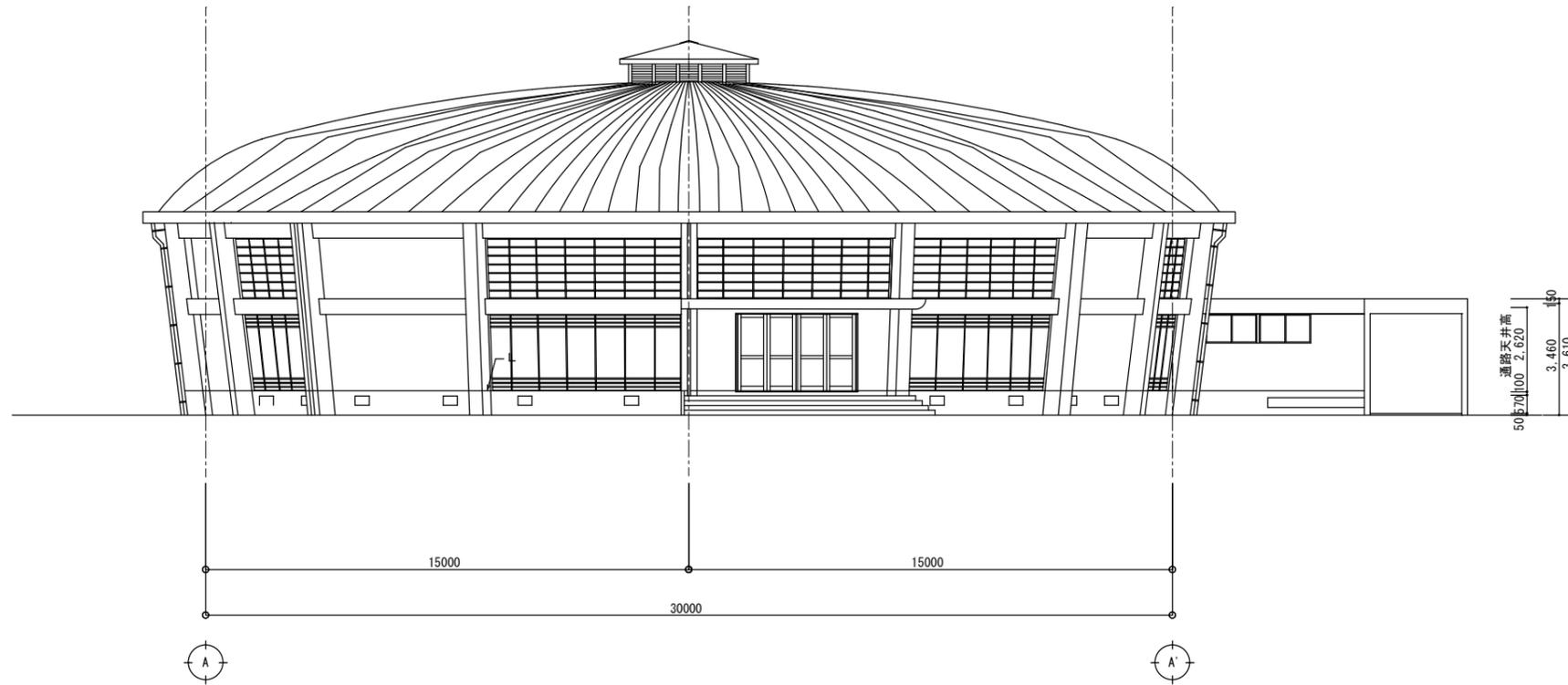
平面詳細図(改修後) S=1/50



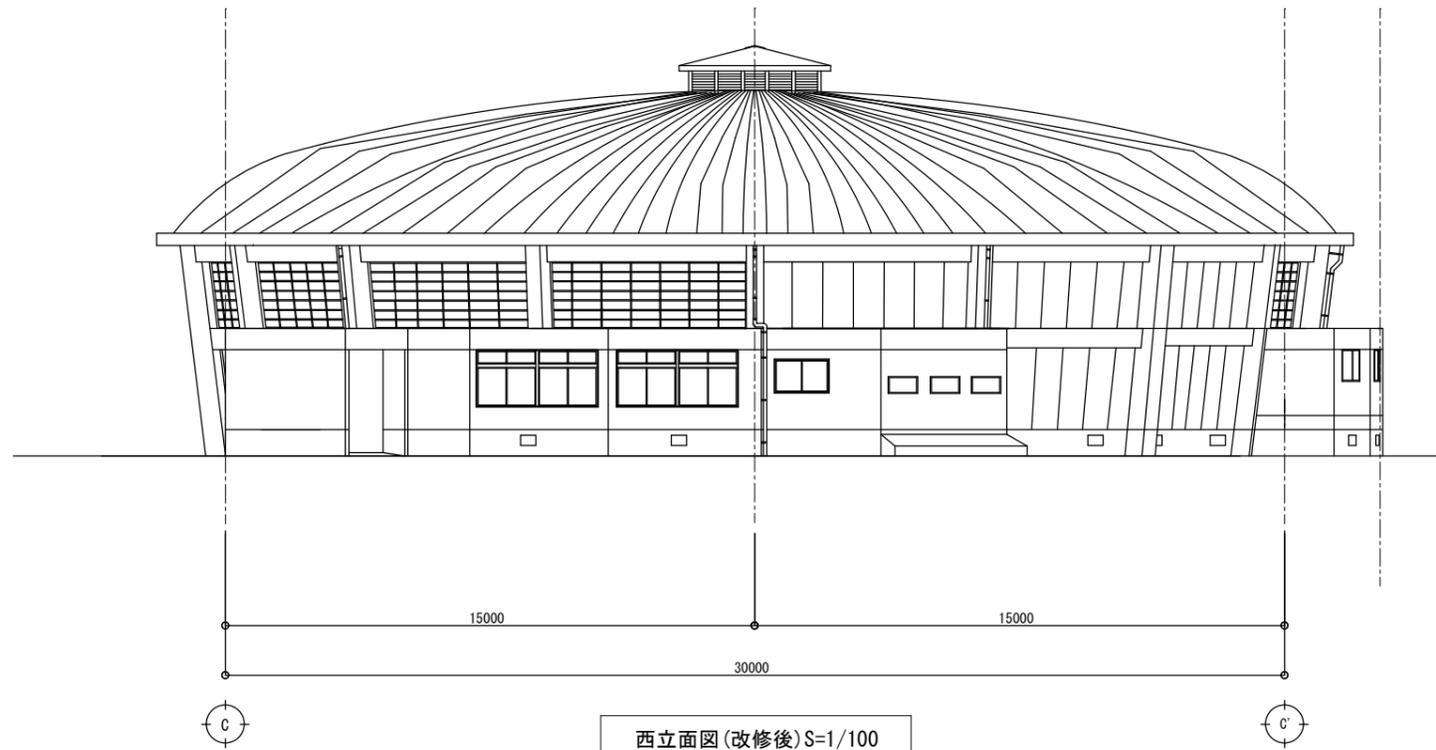
平面詳細図(改修後) S=1/50



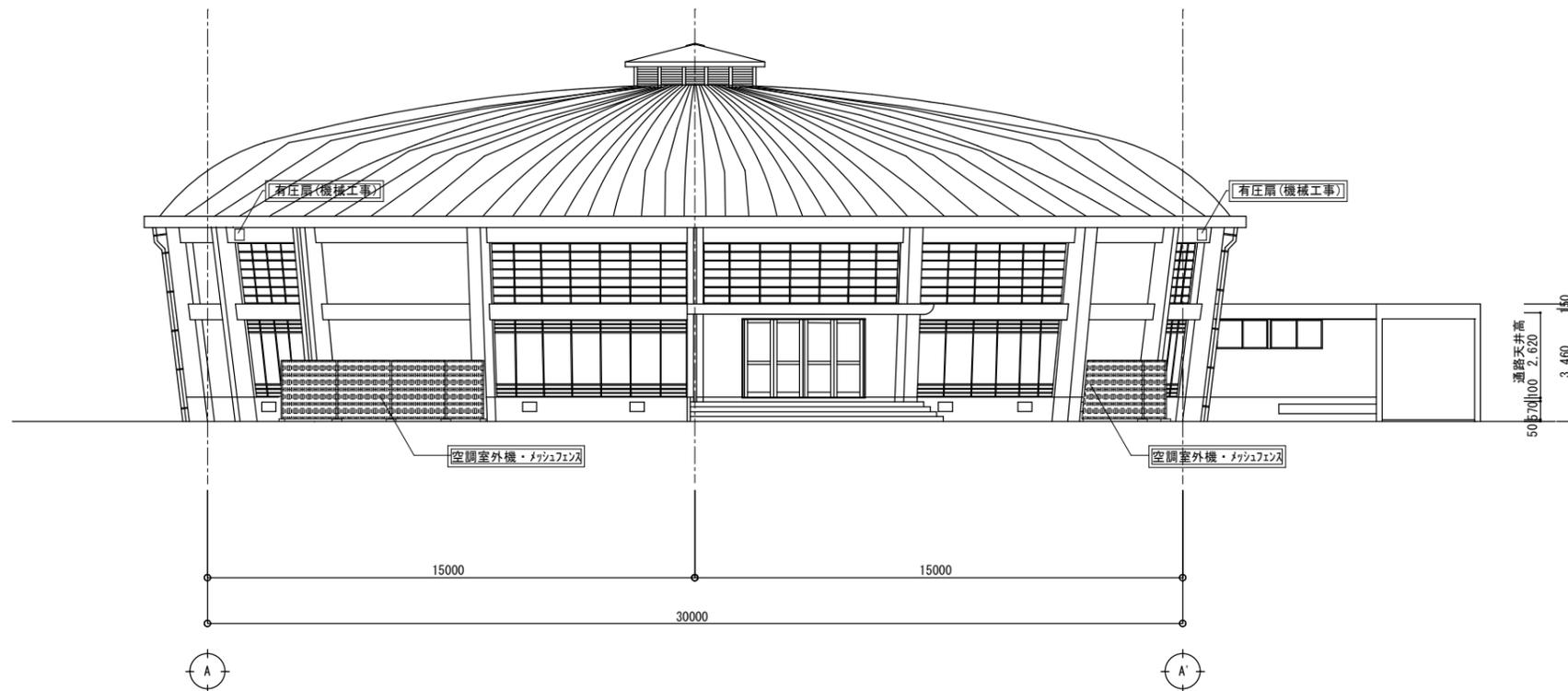
西立面图(改修前)S=1/100



北立面图(改修前)S=1/100

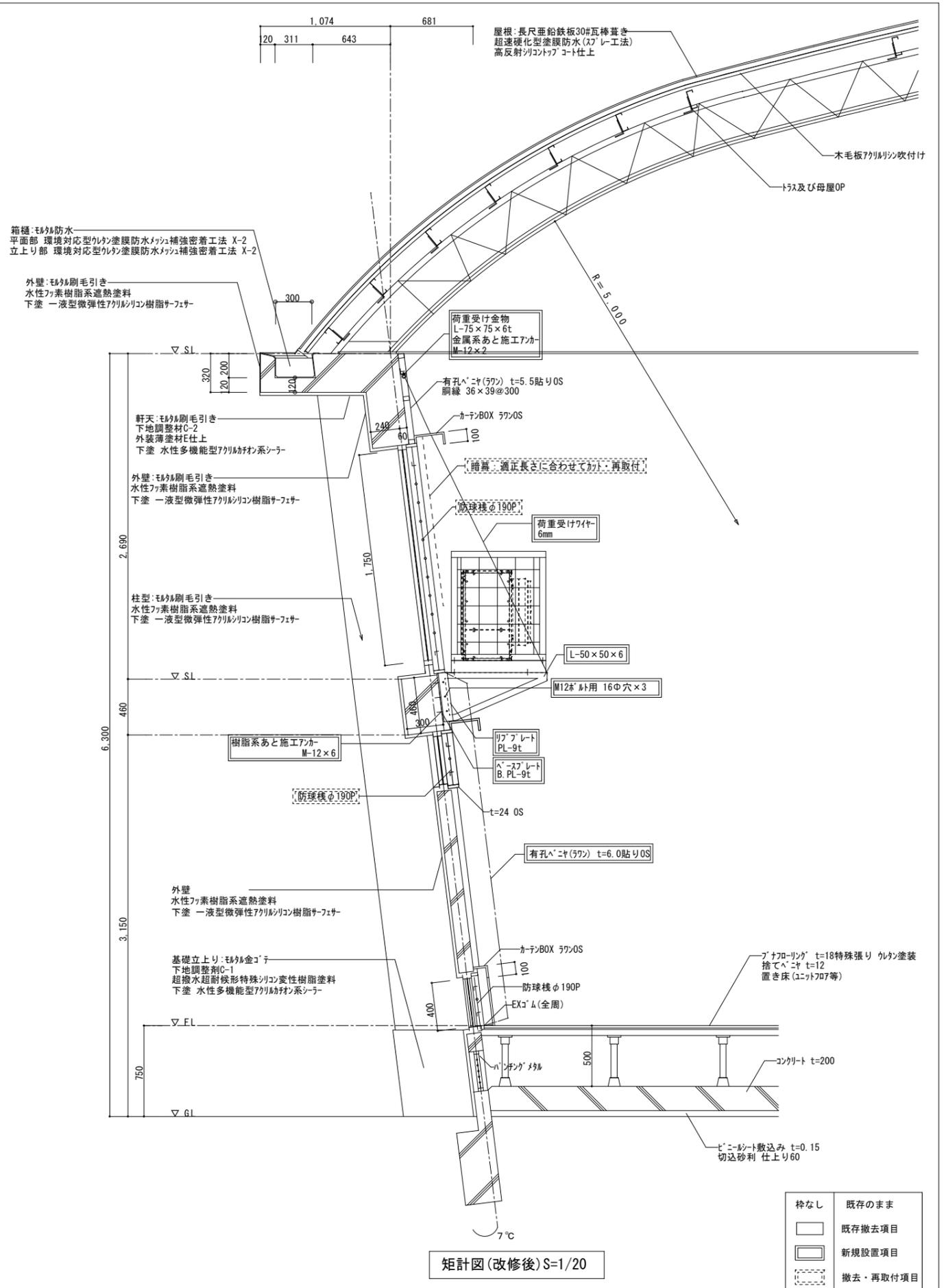
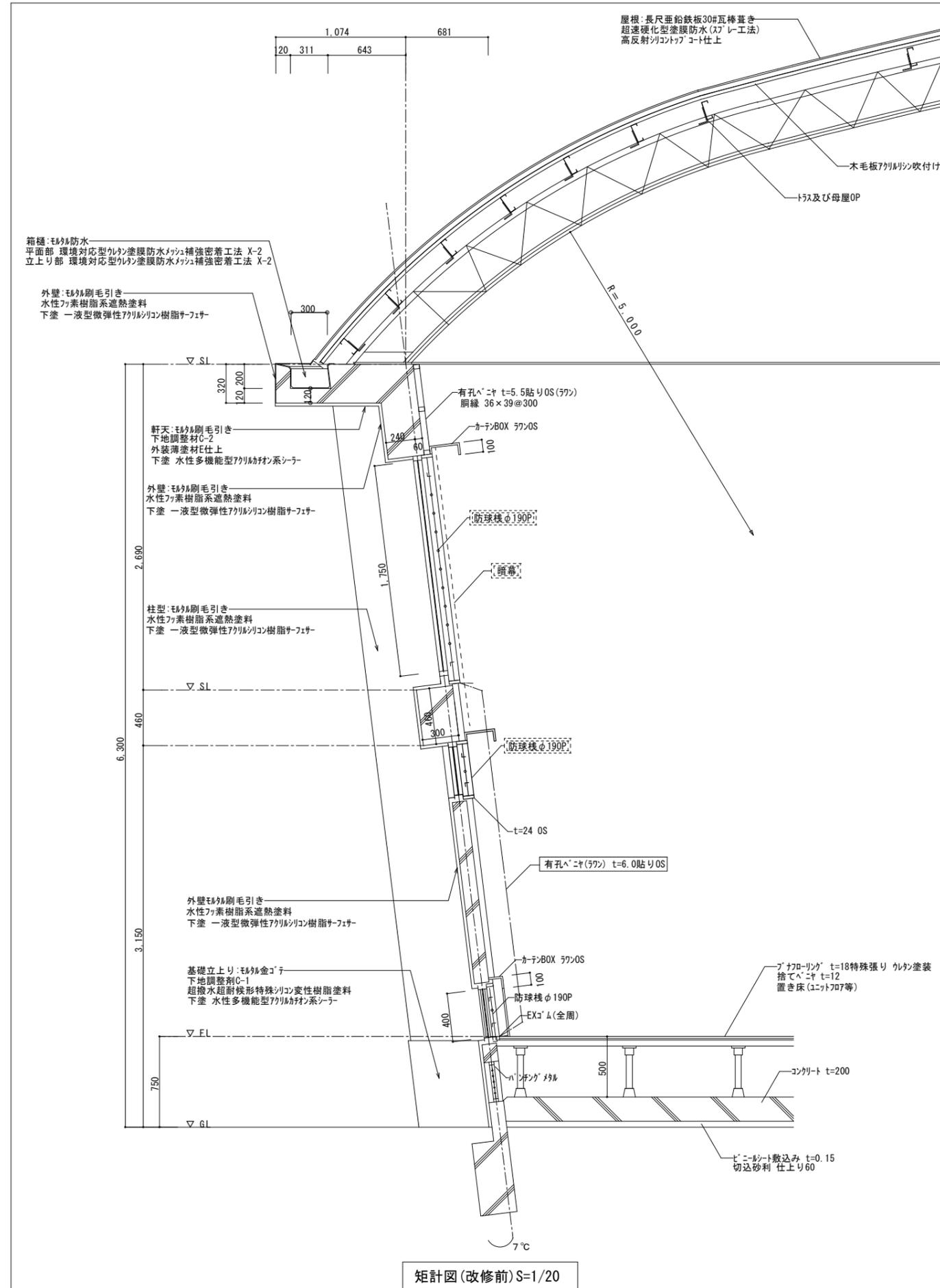


西立面図(改修後)S=1/100

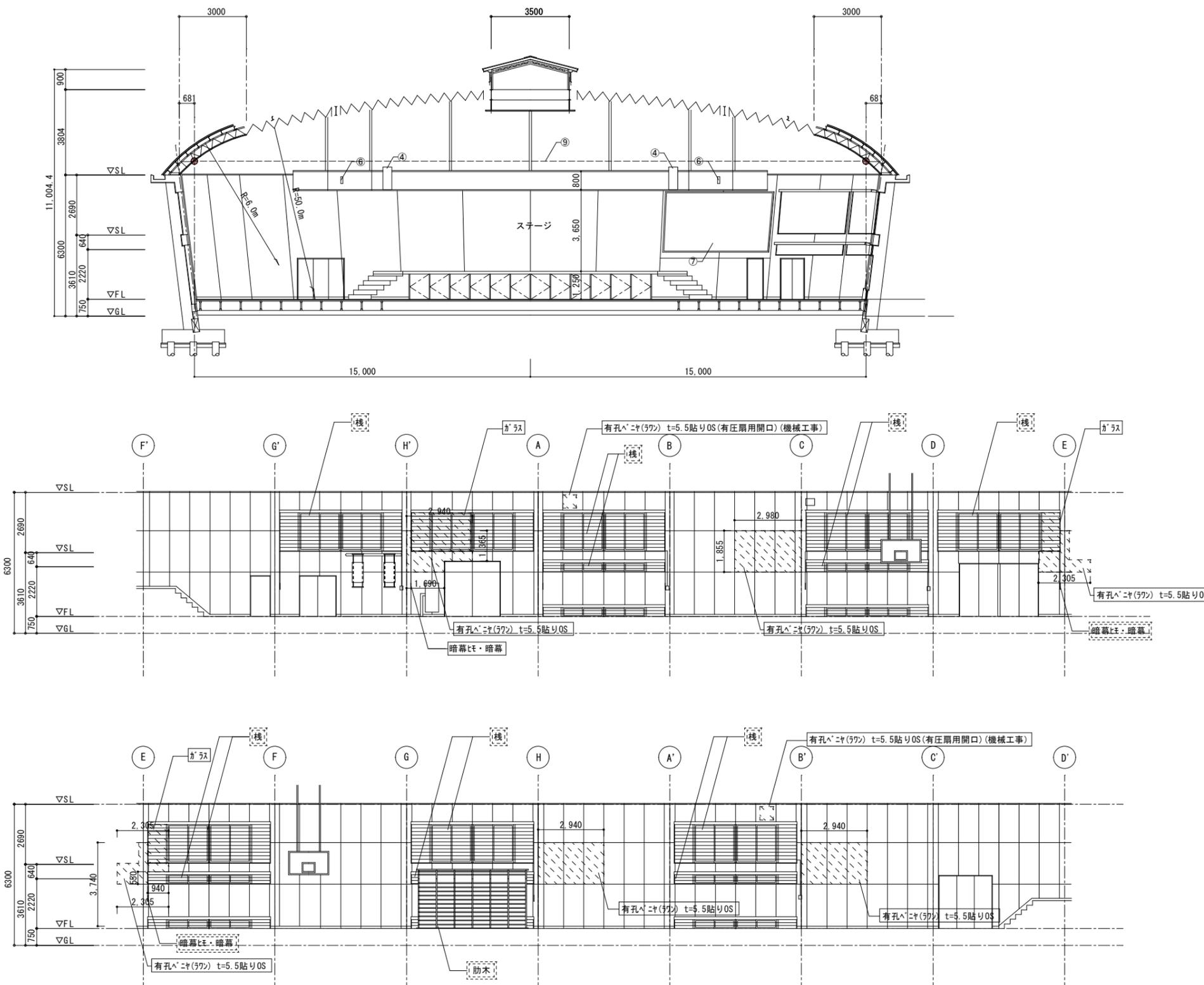


北立面図(改修後)S=1/100

枠なし	既存のまま
□	既存撤去項目
▭	新規設置項目

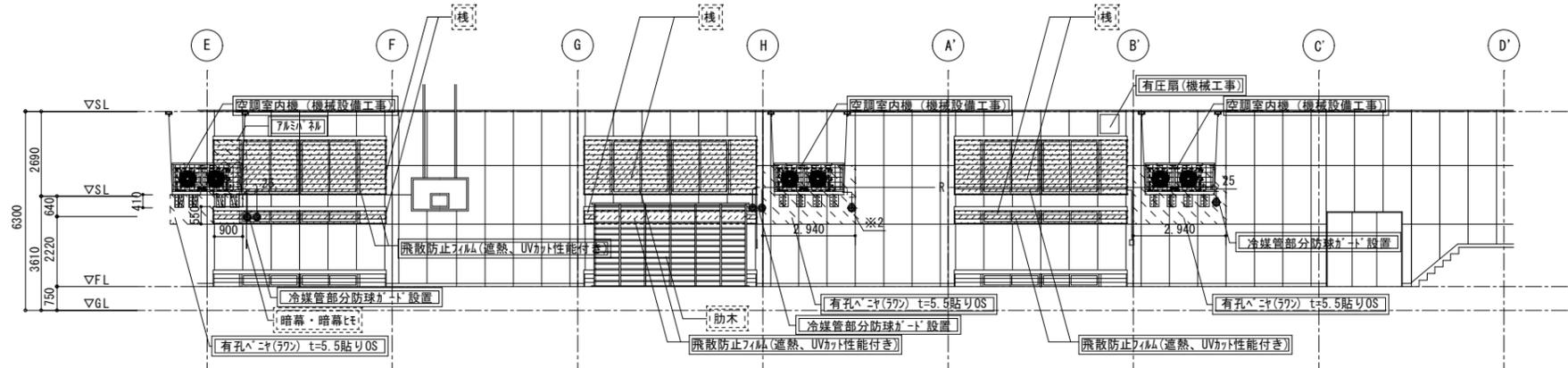
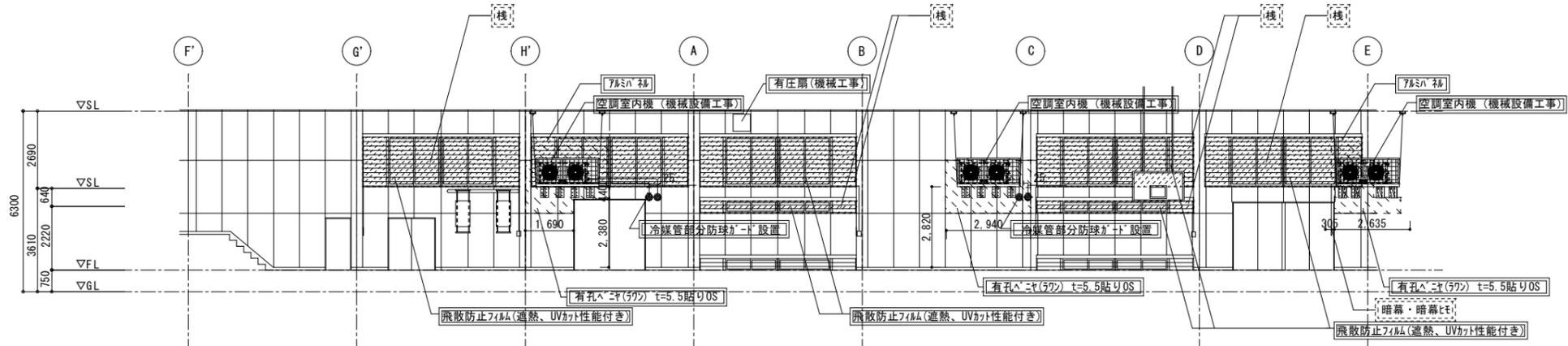
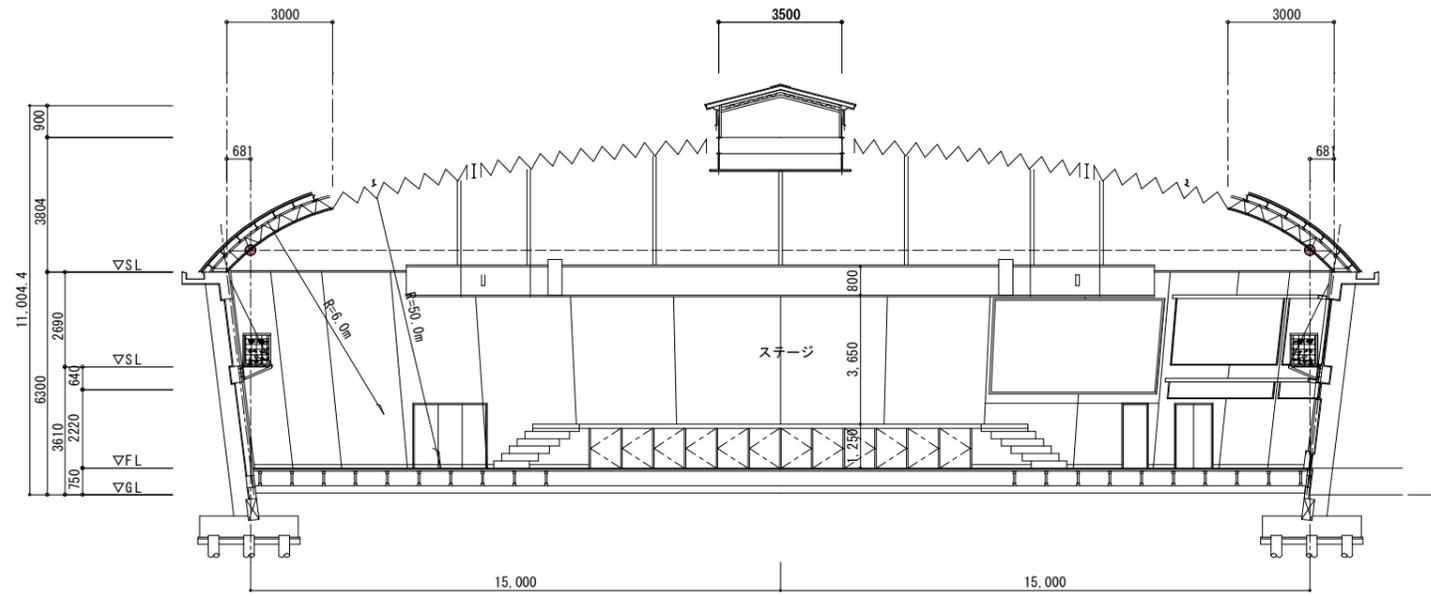


枠なし	既存のまま
---	既存撤去項目
---	新規設置項目
---	撤去・再取付項目



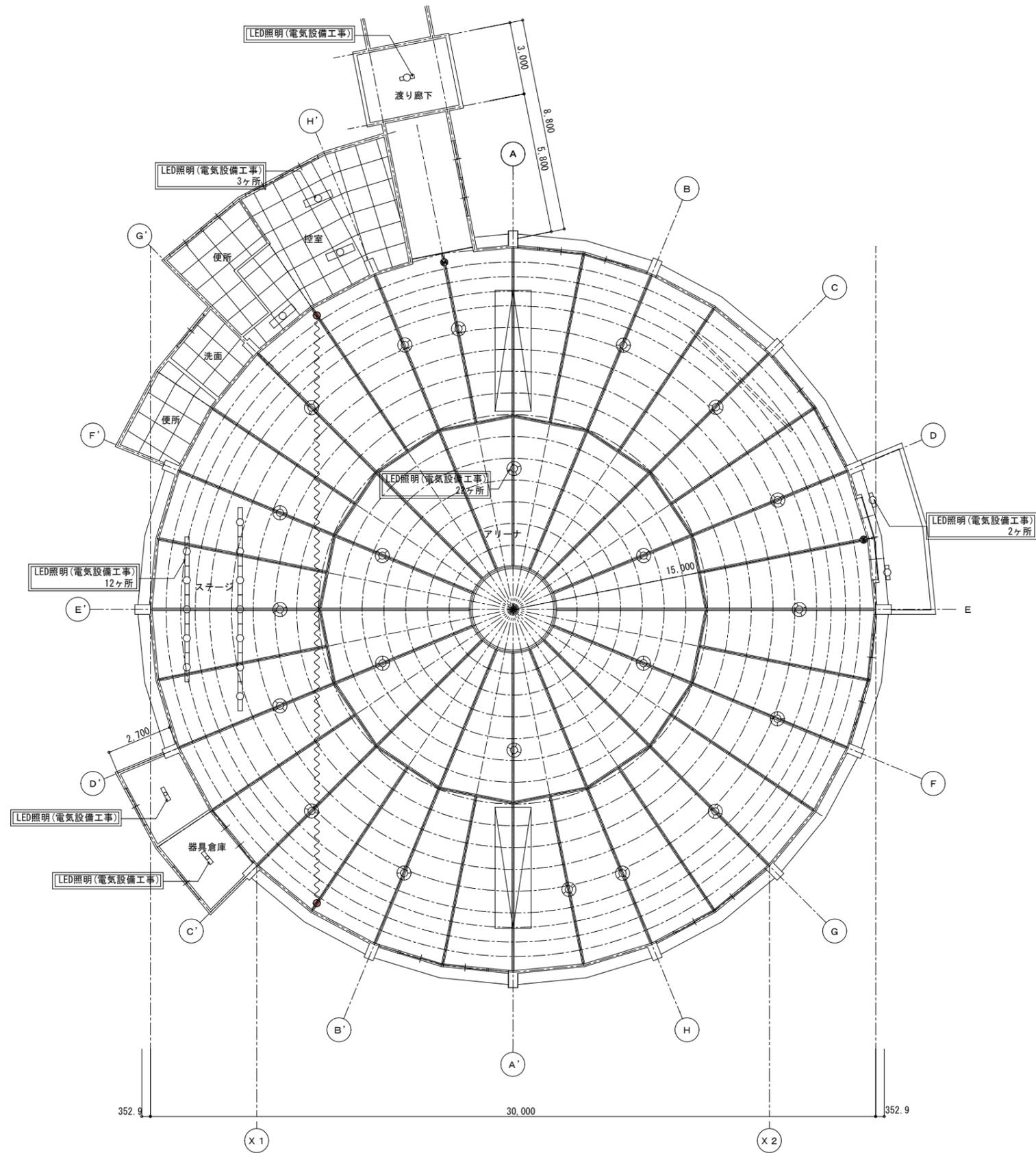
- | | |
|-----|---------------|
| 枠なし | 既存のまま |
| □ | 既存撤去項目 |
| ■ | 新規設置項目 |
| ▭ | 移設設置項目 |
| ⊖ | 撤去・再取付設置項目 |
| ▨ | 建具フィルム新設範囲を示す |
| ▩ | 撤去新設範囲を示す |

展開図(改修前) S=1/100



展開図(改修後) S=1/100

- | | | | |
|-----|------------|--|---------------|
| 枠なし | 既存のまま | | 建具フィルム新設範囲を示す |
| □ | 既存撤去項目 | | 撤去新設範囲を示す |
| ■ | 新規設置項目 | | |
| ▭ | 移設設置項目 | | |
| ⊖ | 撤去・再取付設置項目 | | |



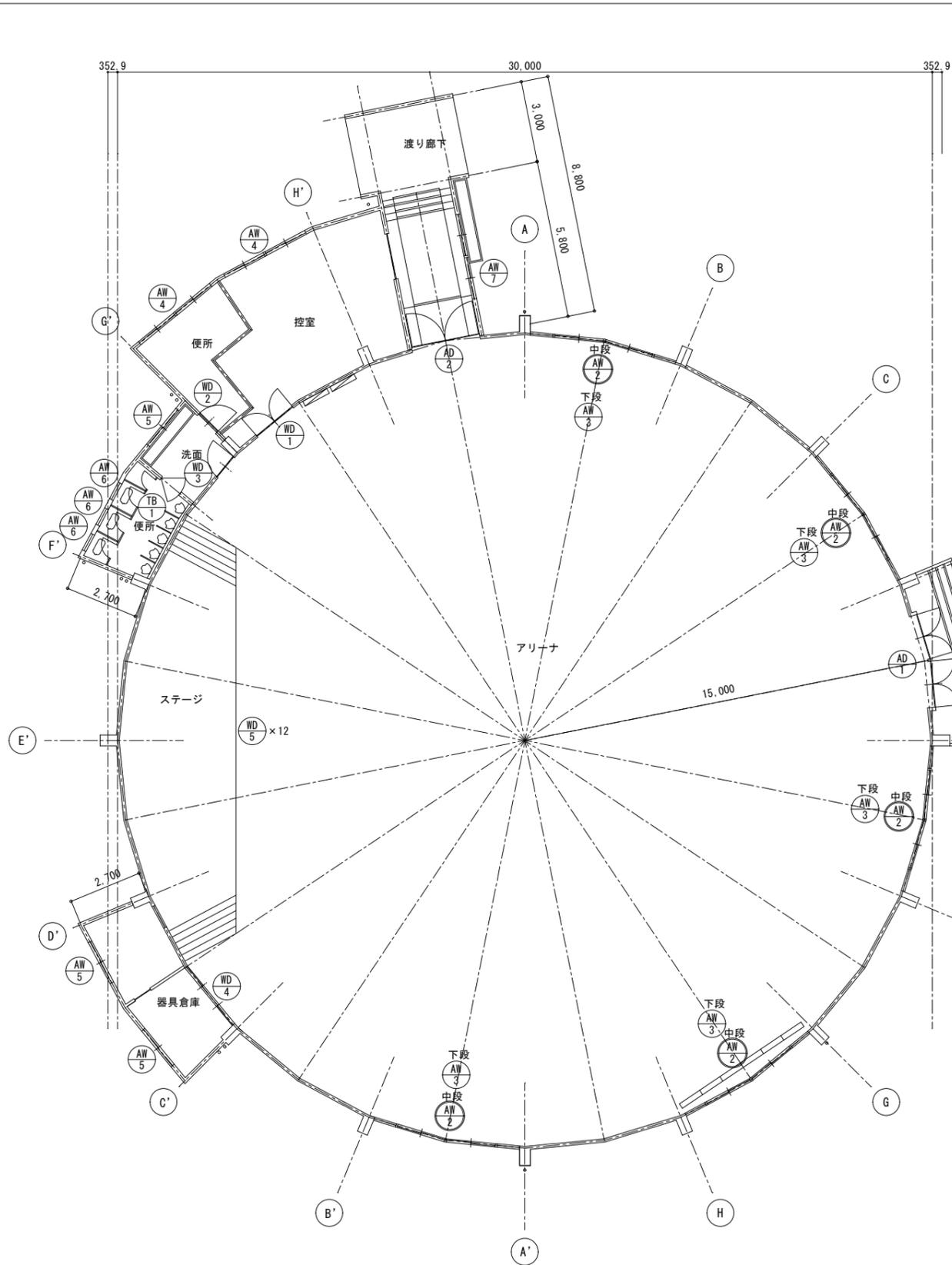
天井伏図 (改修後) S=1/100

枠なし	既存のまま
	新規設置項目

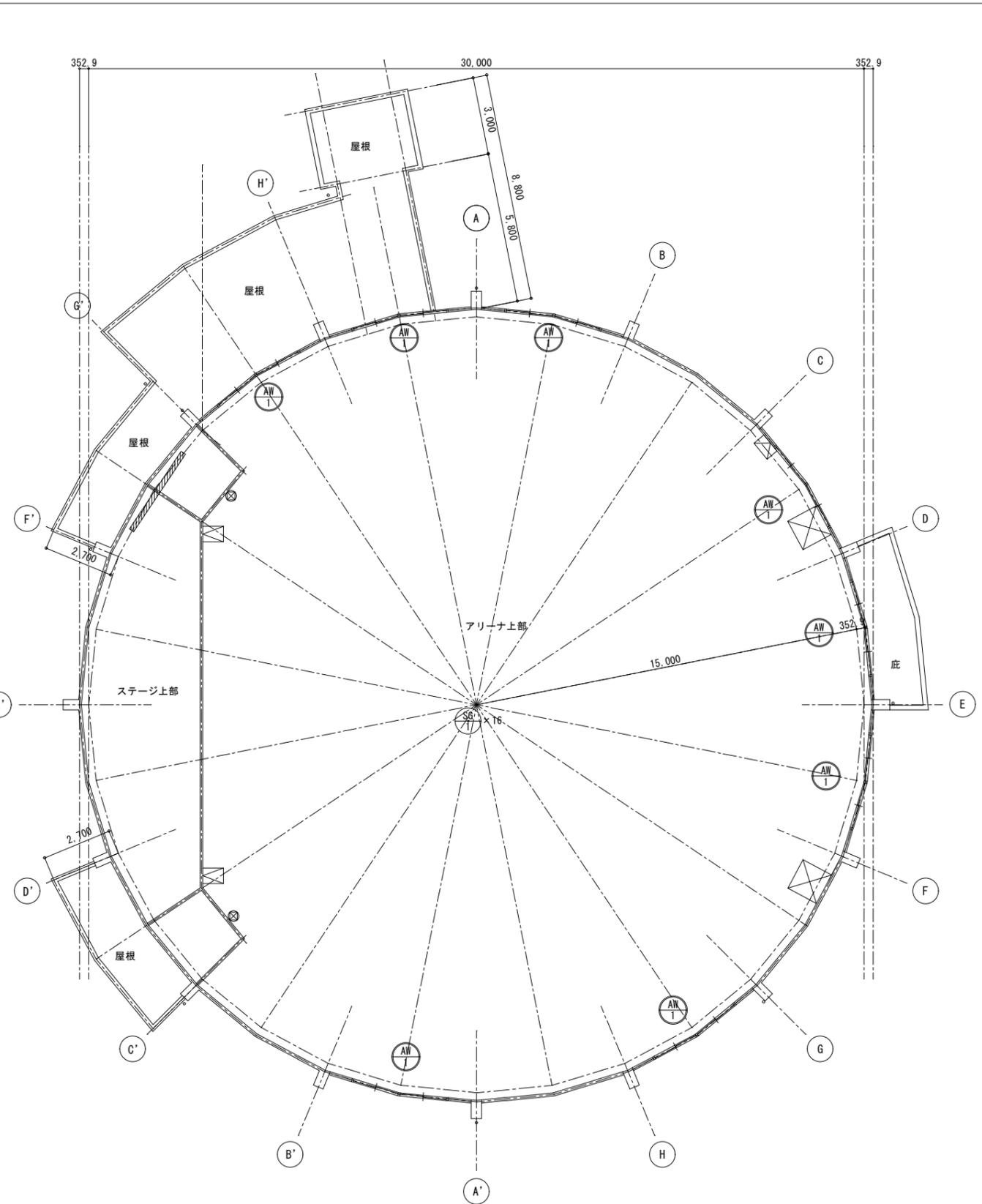
春日部市
学校教育課
教育施設課

目付	工事名称
縮尺 S=1/100 (A1) S=1/200 (A3)	豊春小学校外7校避難所空調設備設置工事 (武里小学校) 天井伏図

図面No.
A-12



1階建具キープラン S=1/100

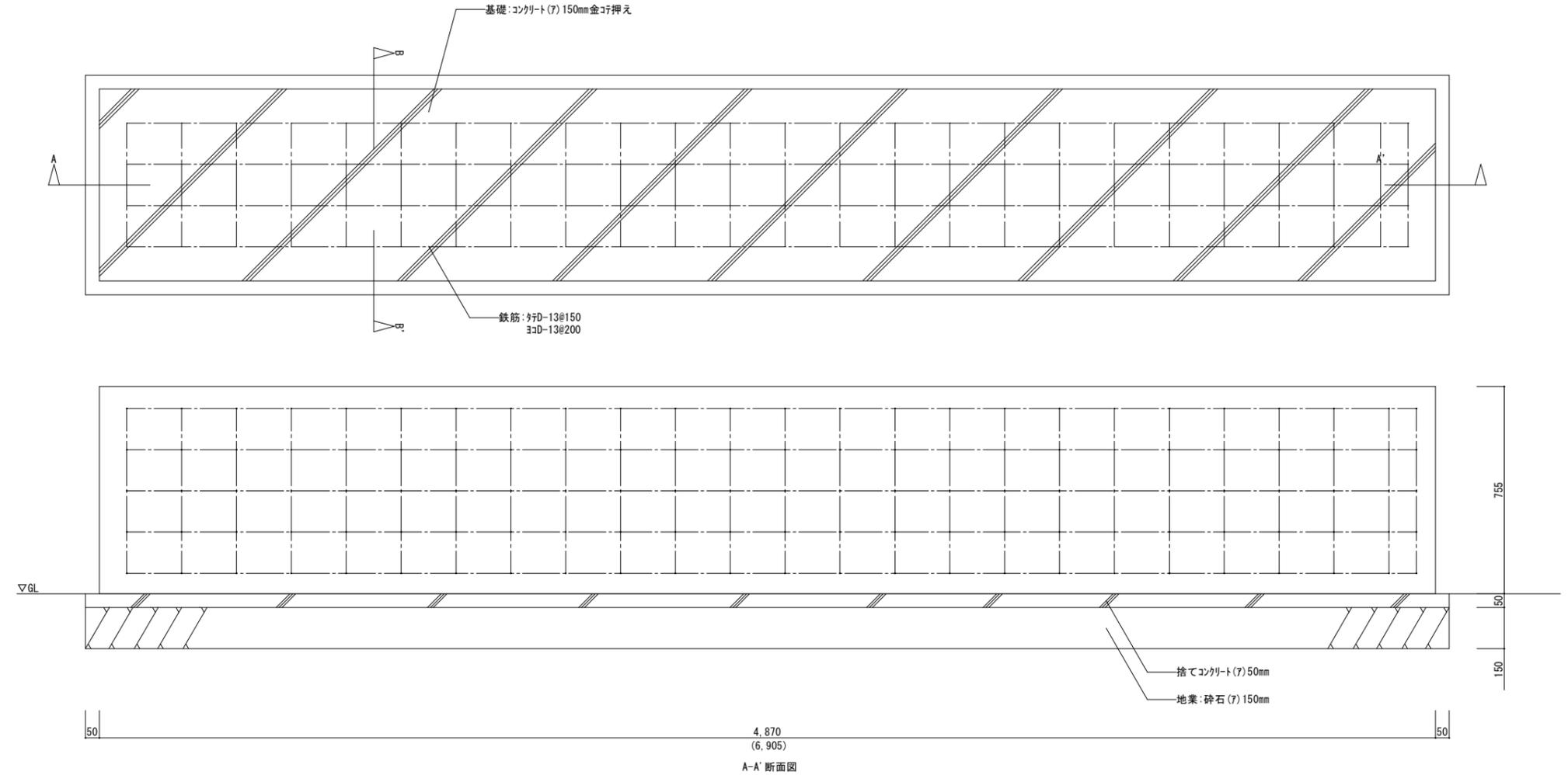
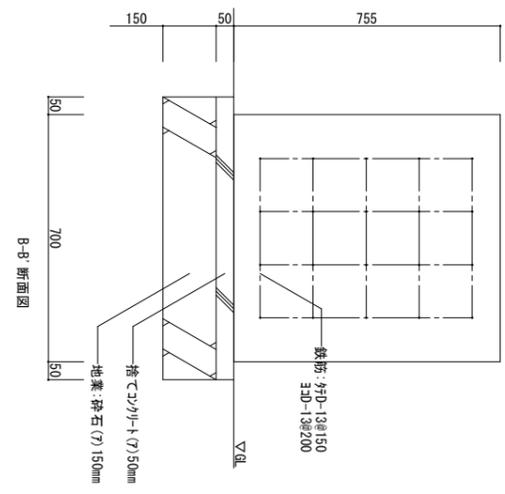


1階上部建具キープラン S=1/100

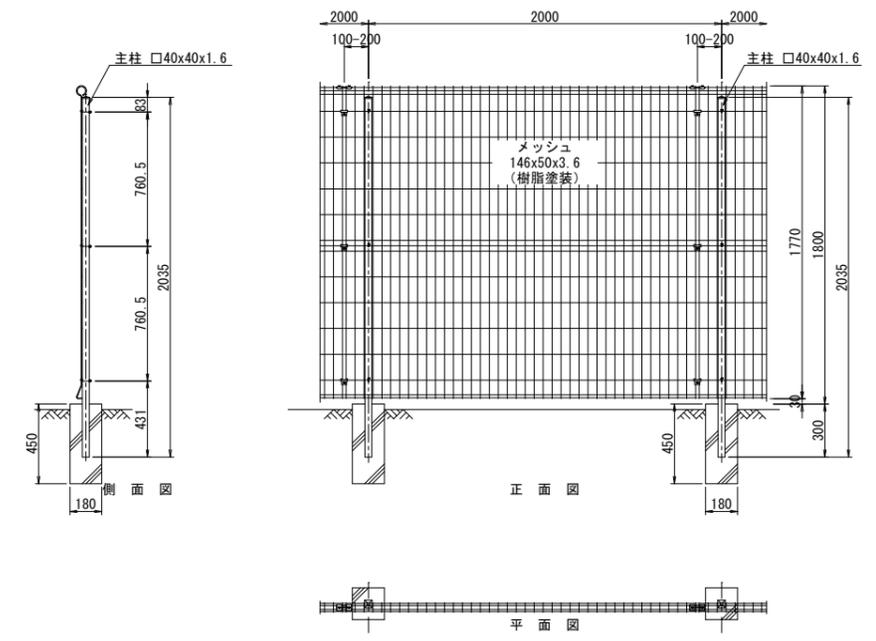
凡例	
	既存建具を示す。
	改修建具を示す。

符号・使用場所 数量	AW1 体育館	8	AW2 AW3 体育館	AW-2:5、AW-3:5	AW4 控室、便所	2	AW5 洗面	1
形状								
型式・機種	両袖はめ殺し付引違い2連窓		両袖はめ殺し付引違い2連窓		連窓引違い2付窓		引違い窓	
枠見込	70		70		70		70	
防火・防音仕様								
材質・仕様	7ö3ö		7ö3ö		7ö3ö		7ö3ö	
ガラス種類	強化ガラス(透明)t=4.0		強化ガラス(透明)t=4.0		型板ガラス t=5.0		透明ガラス t=5.0	
建具金物	付属金物一式、オöレö付		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式	
備考	飛散防止フィルム(遮熱、UVカット性能付き)ガラス清掃共、オöレö、H-A間、D-E間、E-F間、一部ガラス(撤去)・7ö3ö3ö(新設)		AW-2:飛散防止フィルム(遮熱、UVカット性能付き)ガラス清掃共					
符号・使用場所 数量	AW6 便所	3	AW7 渡り廊下	SG1 越屋根				
形状								
型式・機種	スöリ出し窓		連窓引違い窓		スöガラス			
枠見込	70		70		70			
防火・防音仕様								
材質・仕様	7ö3ö		7ö3ö		スöル			
ガラス種類	型板ガラス t=5.0		透明ガラス t=5.0					
建具金物	付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式			
備考								
符号・使用場所 数量	AD1 体育館出入口	1	AD2 体育館出入口	WD1 控室	WD2 洗面室・女子トイレ	1	WD3 男子トイレ	1
形状								
型式・機種	連窓両開扉		両開き扉		両開き戸・耐水合板7öッシュ戸		片開き戸・耐水合板7öッシュ戸	
枠見込	70		40		35		35	
材質・仕様								
ガラス種類	無色7ö3öイト		7ö3ö		耐水合板 SOP塗装		耐水合板 SOP塗装	
建具金物	7ö3ö3ö t=3.0 付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式	
備考								
符号・使用場所 数量	WD5 体育館	12	WB1 男子トイレ					
形状								
型式・機種	片開き戸・耐水合板7öッシュ戸		片開き戸・耐水合板7öッシュ戸					
枠見込	35		35					
材質・仕様								
ガラス種類	片面耐水合板SOP塗装・片面7öリット合板		耐水合板 SOP塗装					
建具金物	付属金物一式、握り込み取手、マöネットキャッチ		付属金物一式					
備考								

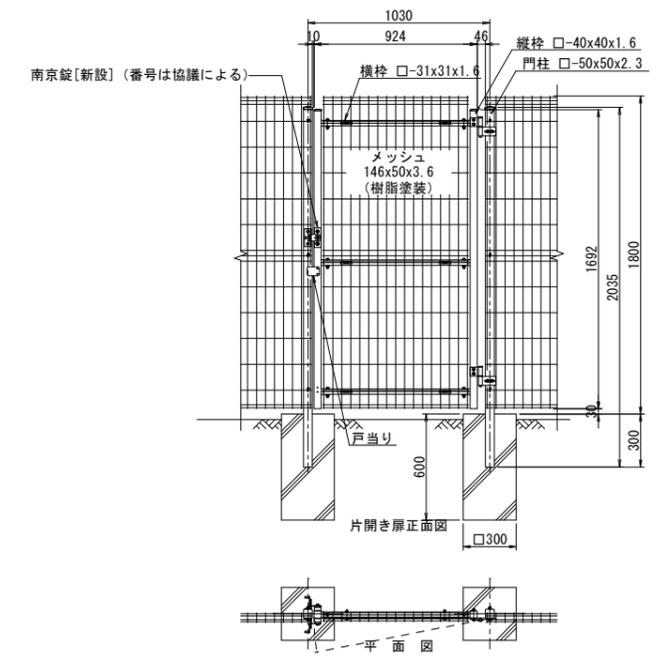
凡例	
	既存建具を示す。
	改修建具を示す。
	新設を示す
	撤去・再取付
	撤去新設範囲を示す



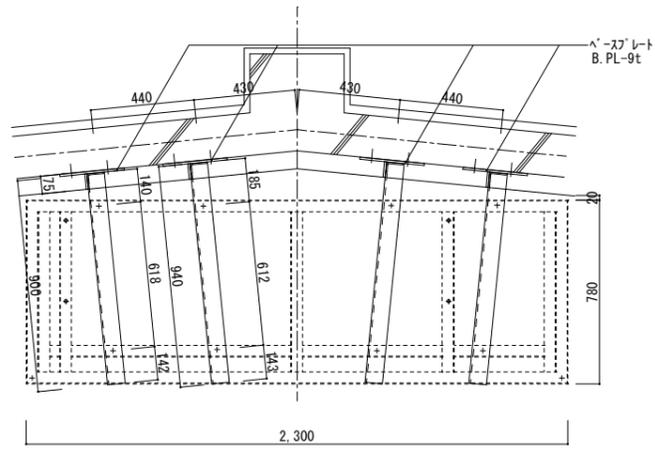
空調室外機基礎図 S=1/10



メッシュフェンス詳細図S=1/20



メッシュフェンス扉詳細図S=1/20

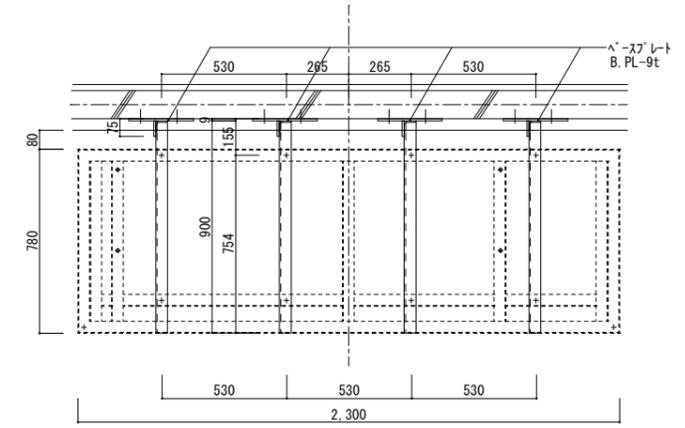


E通り平面図S=1/15

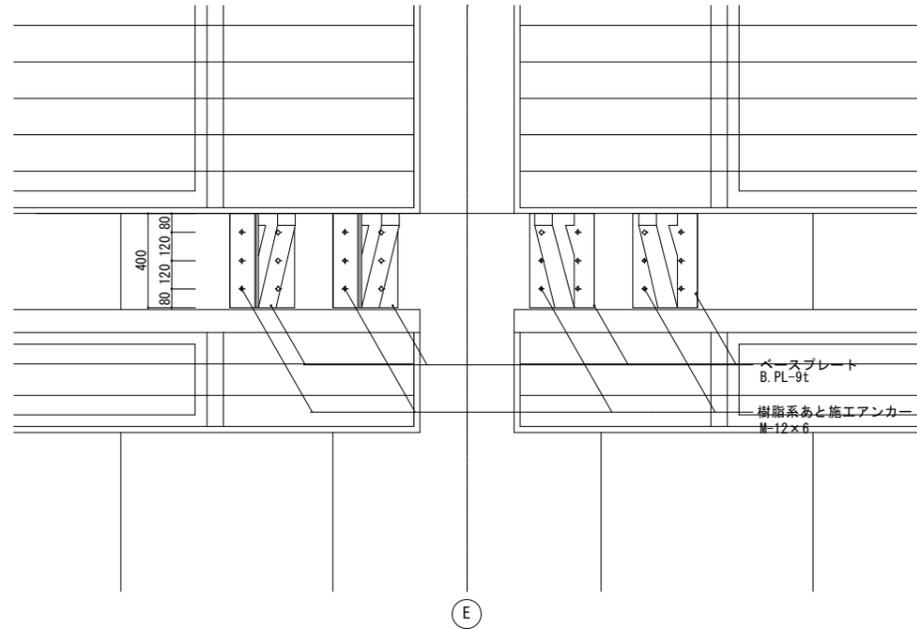
※鋼材は、溶融亜鉛メッキ処理とする。

備考

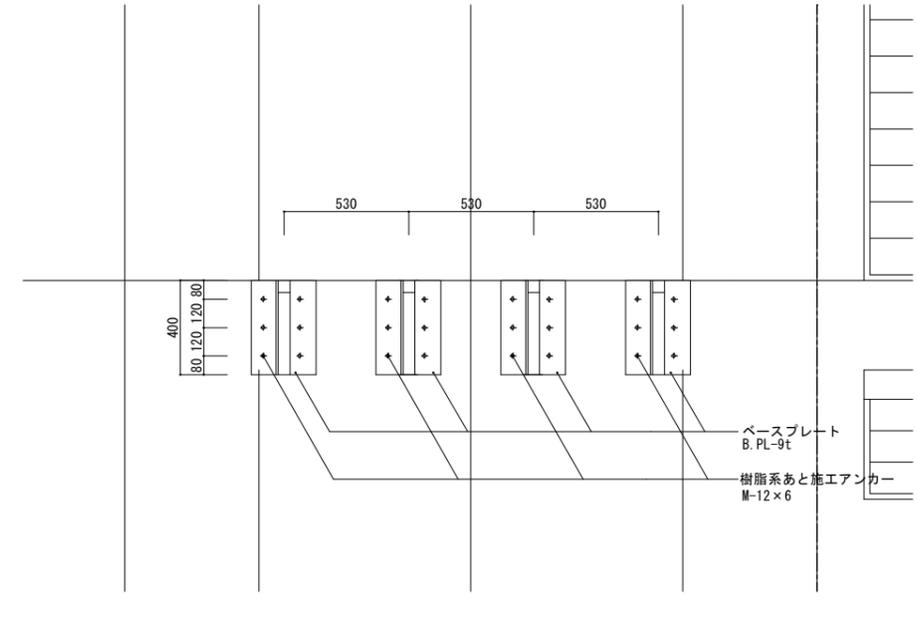
- ・背面吸気フィルターの出し入れを工具不要で行えるようにすること。
- ・室内機と架台の重量を接合部分が安全に支持出来ることを確認すること。
- ・架台と躯体接合部分が安全に支持出来ることを確認すること。



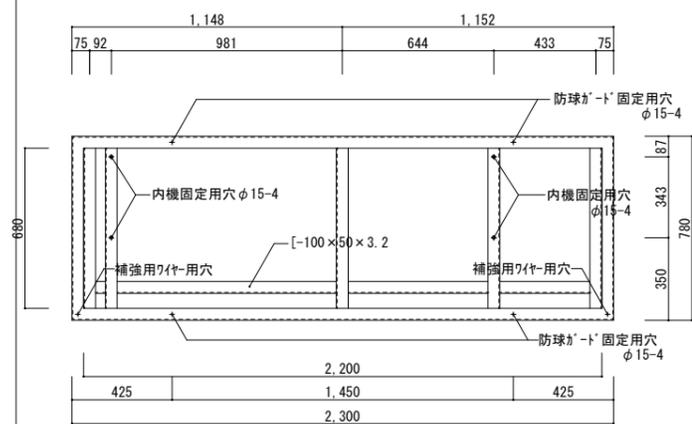
平面図S=1/15



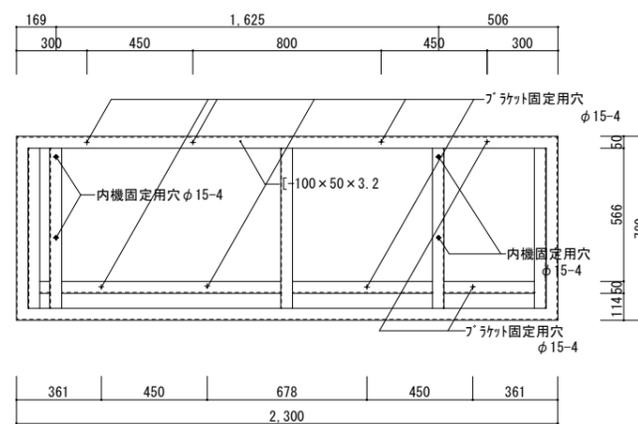
E通り展開図 1/15



展開図S=1/15

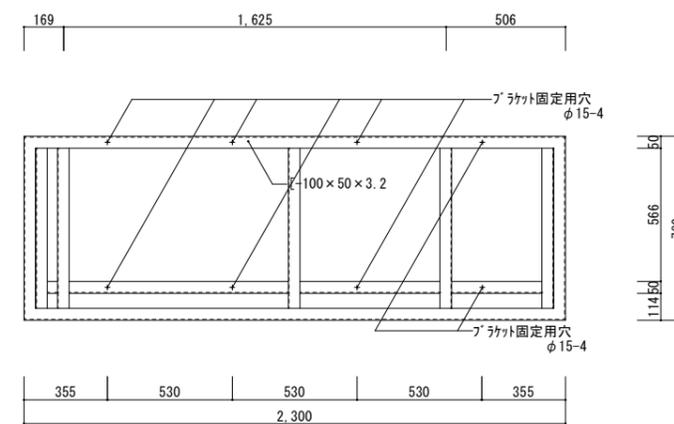


[上面]

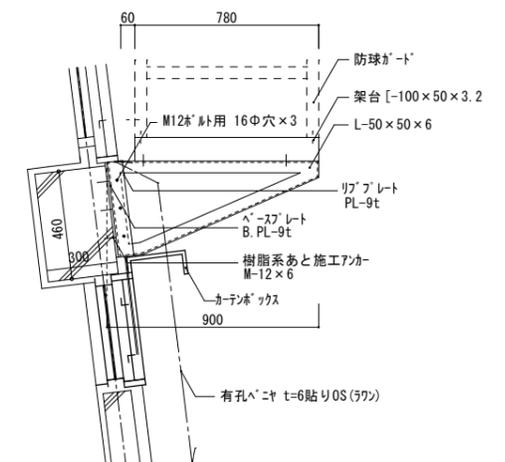


[E通り下面]

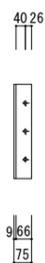
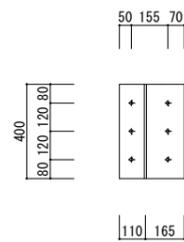
架台平面図S=1/15



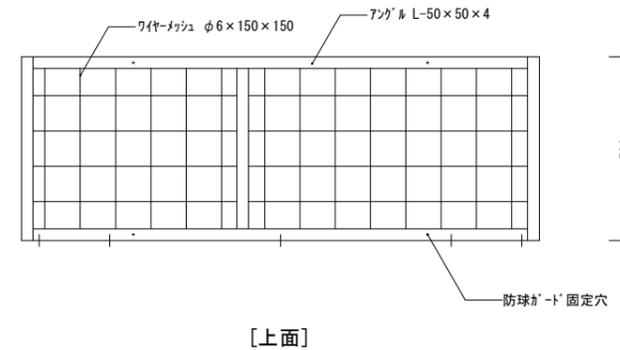
[下面]



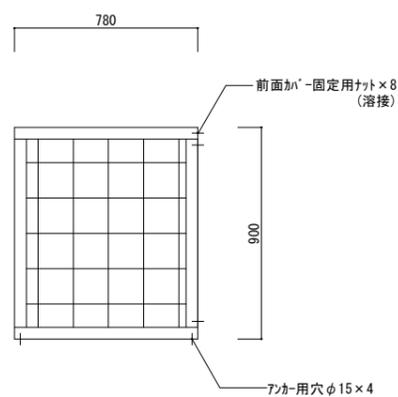
断面図S=1/15



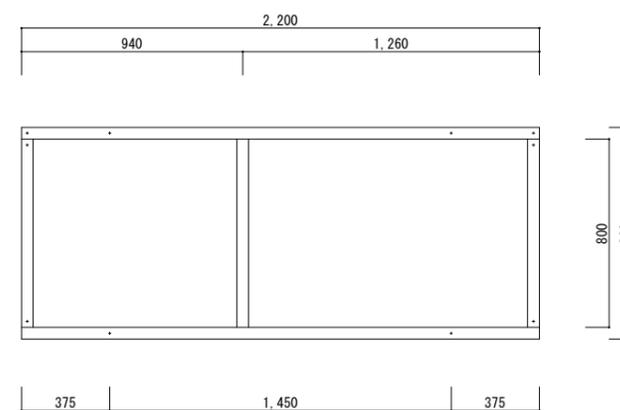
リブプレートS=1/15



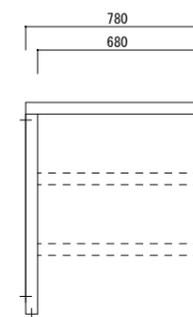
[上面]



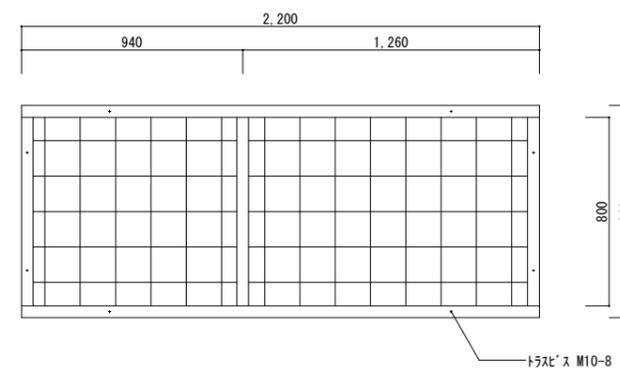
[左側面]



[正面]



[右側面]



[前面ガード部]

防球ガードS=1/15

春日市
学校教育
部教育
施設課

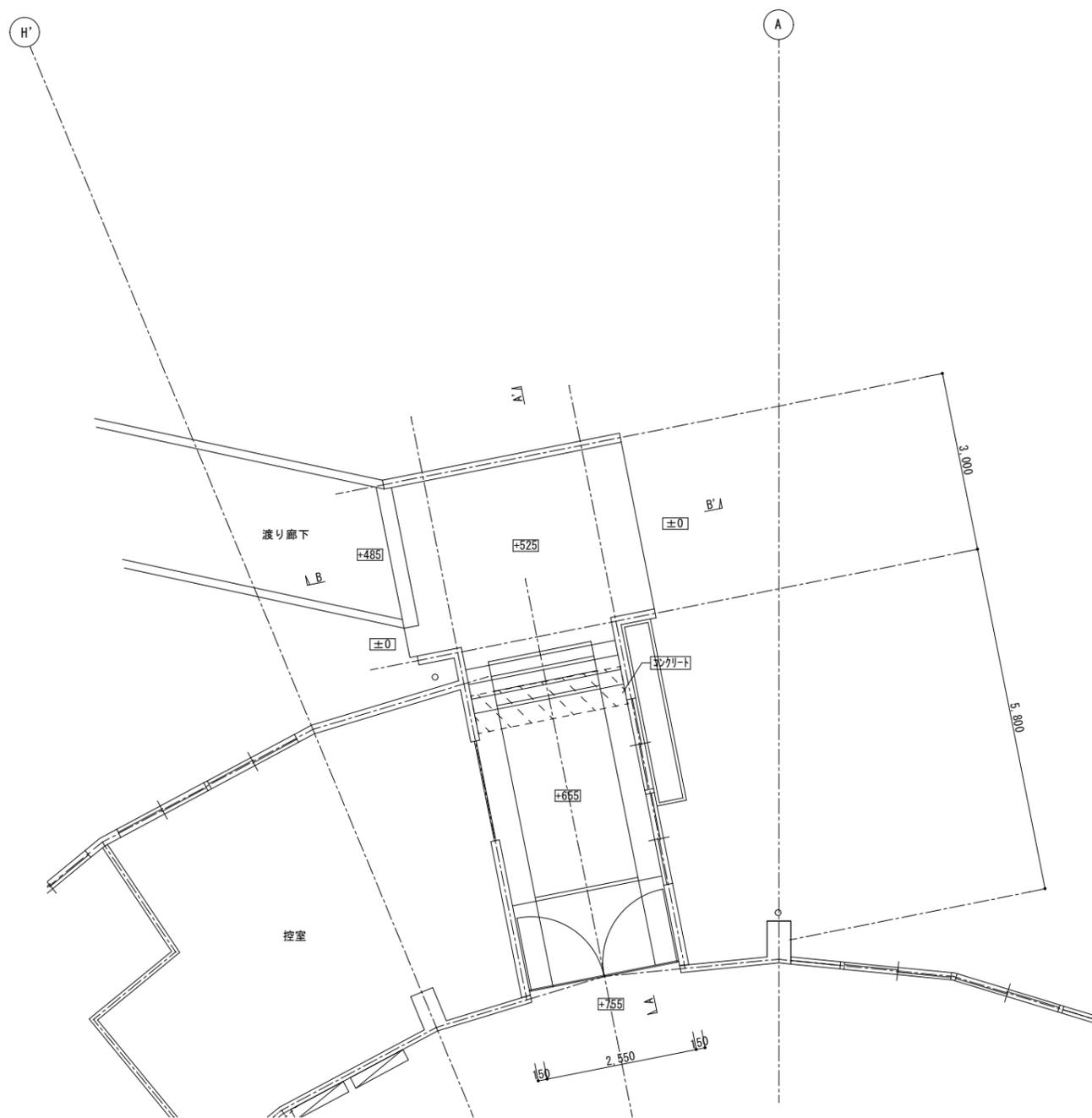
日付

縮尺 S=1/15 (A1)
S=1/30 (A3)

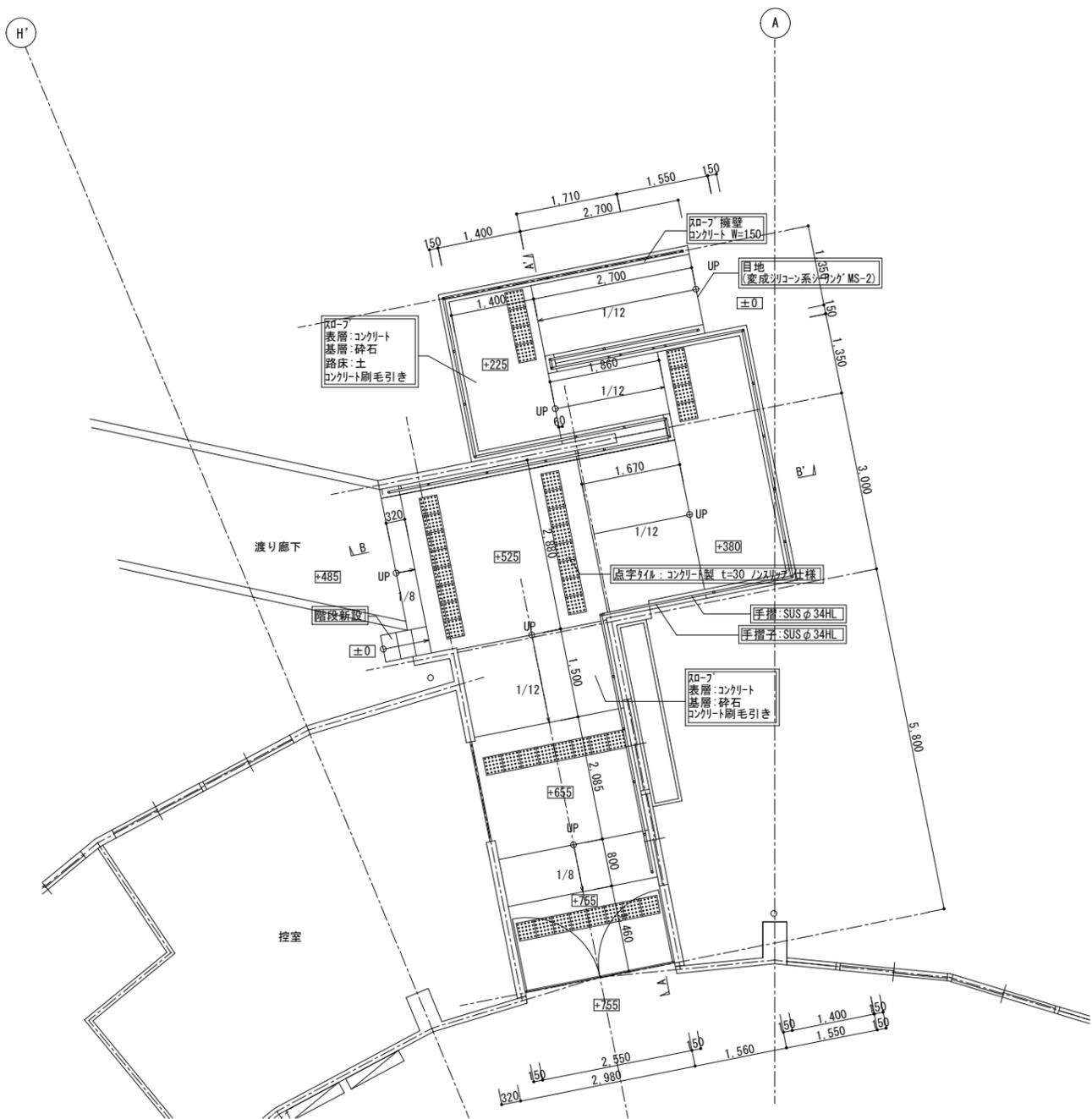
工事名称
豊春小学校外7校避難所空調設備設置工事 (武里小学校)

図面名称
部分詳細図3

図面No.
A-17

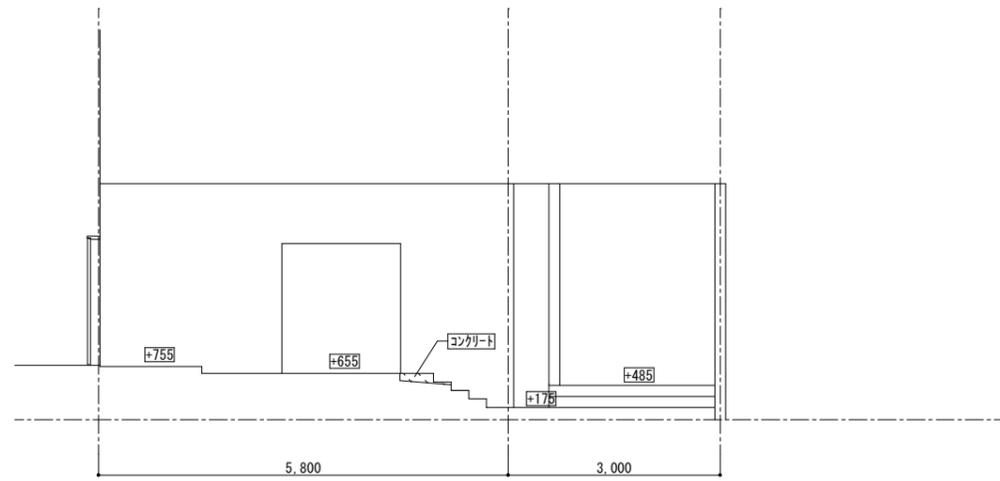


スロープ詳細図 (改修前) S=1/50

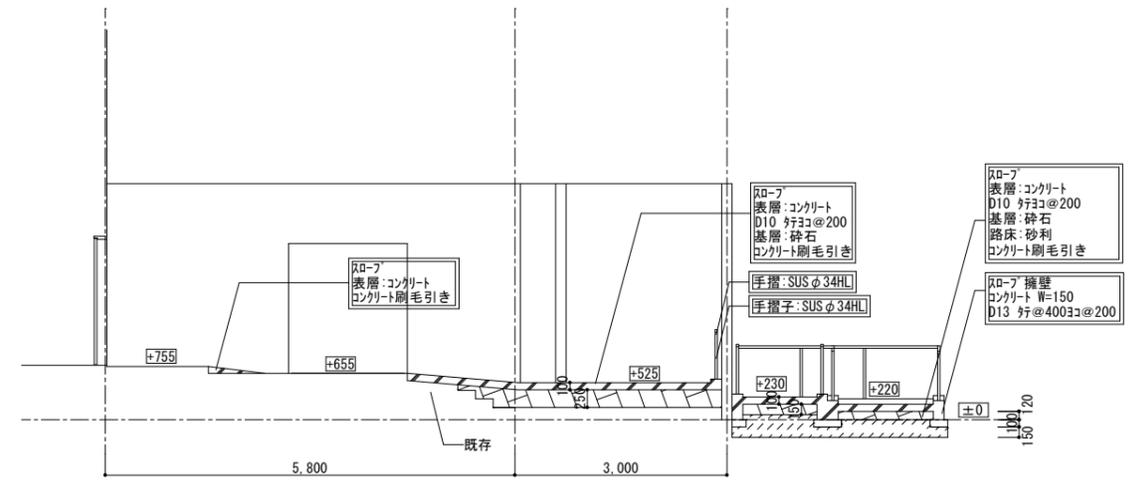


スロープ詳細図 (改修後) S=1/50

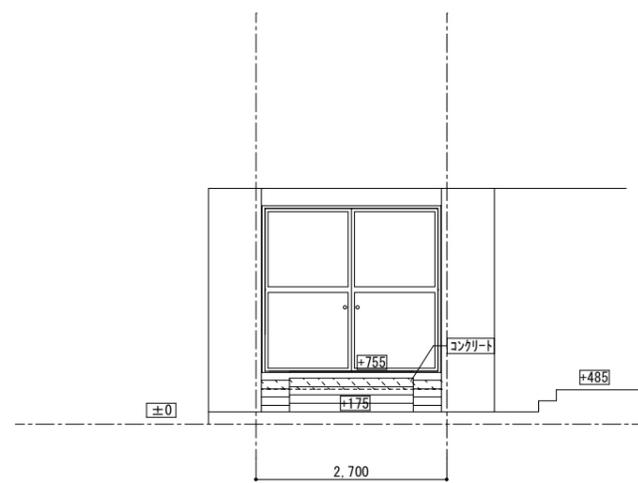
枠なし	既存のまま
	既存撤去項目
	新規設置項目
	撤去範囲を示す



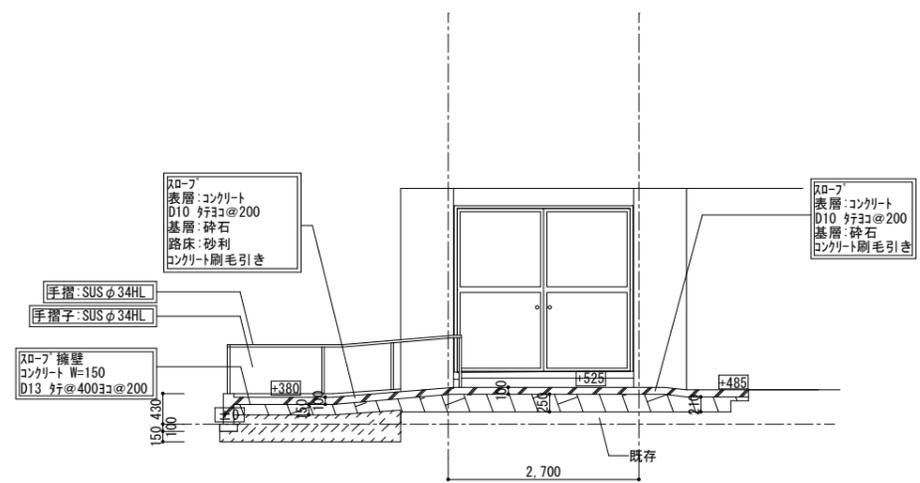
A-A' 断面図 (改修前) 1/50



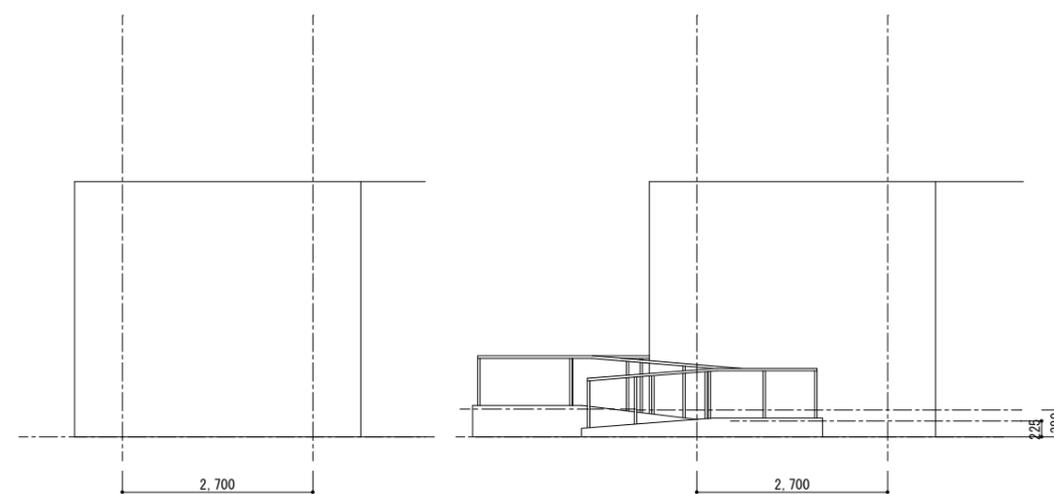
A-A' 断面図 (改修後) 1/50



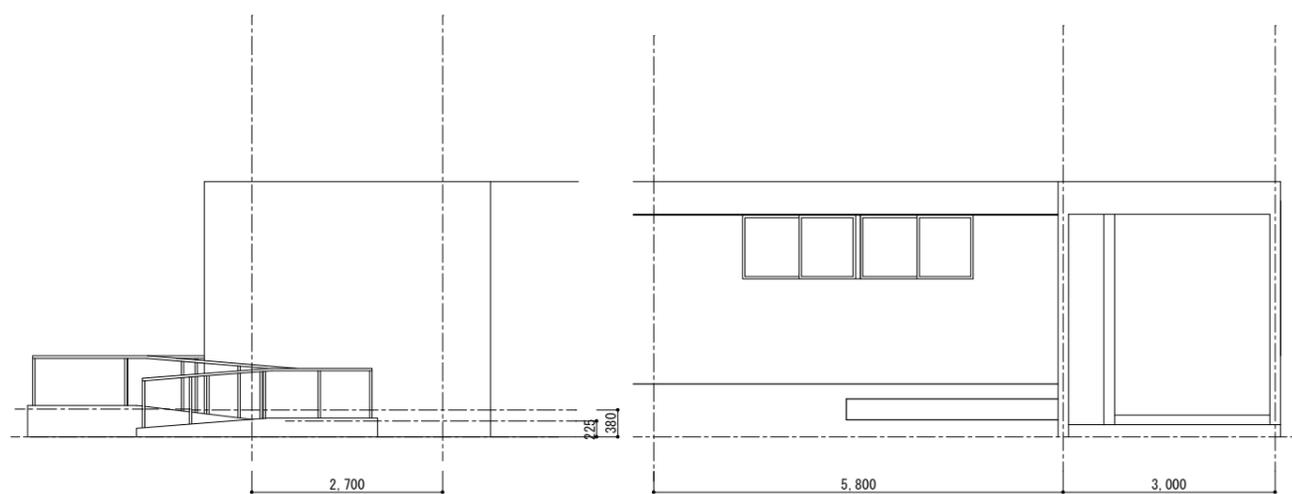
B-B' 断面図 (改修前) 1/50



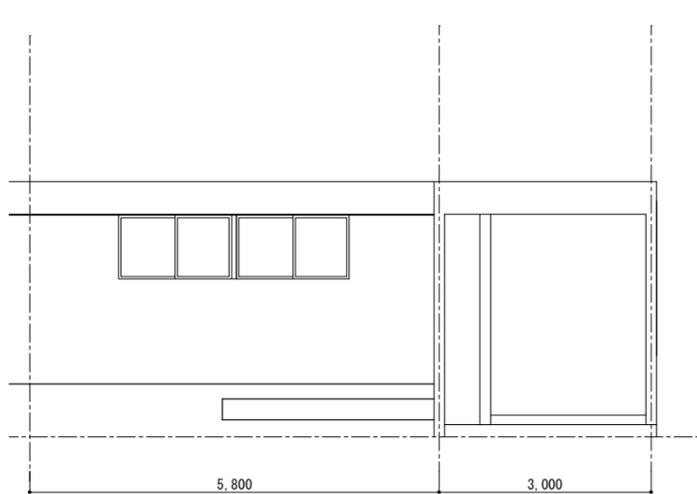
B-B' 断面図 (改修後) 1/50



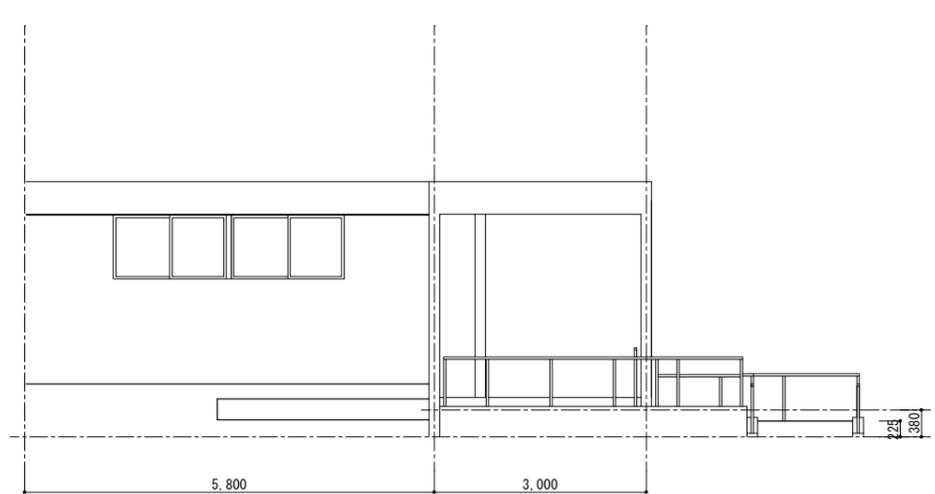
立面図 (改修前) 1/50



立面図 (改修後) 1/50

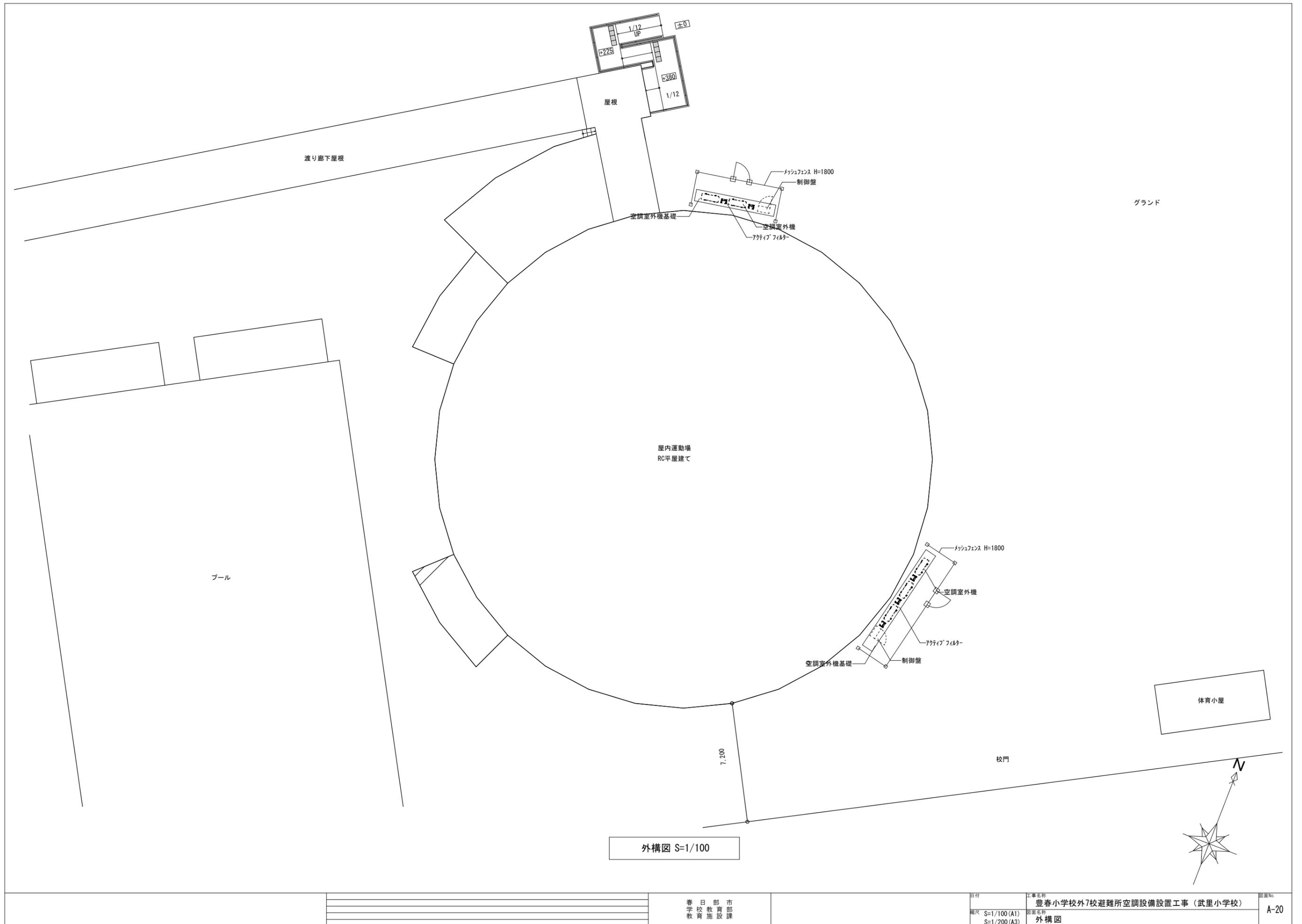


立面図 (改修前) 1/50



立面図 (改修後) 1/50

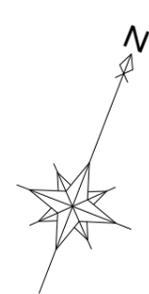
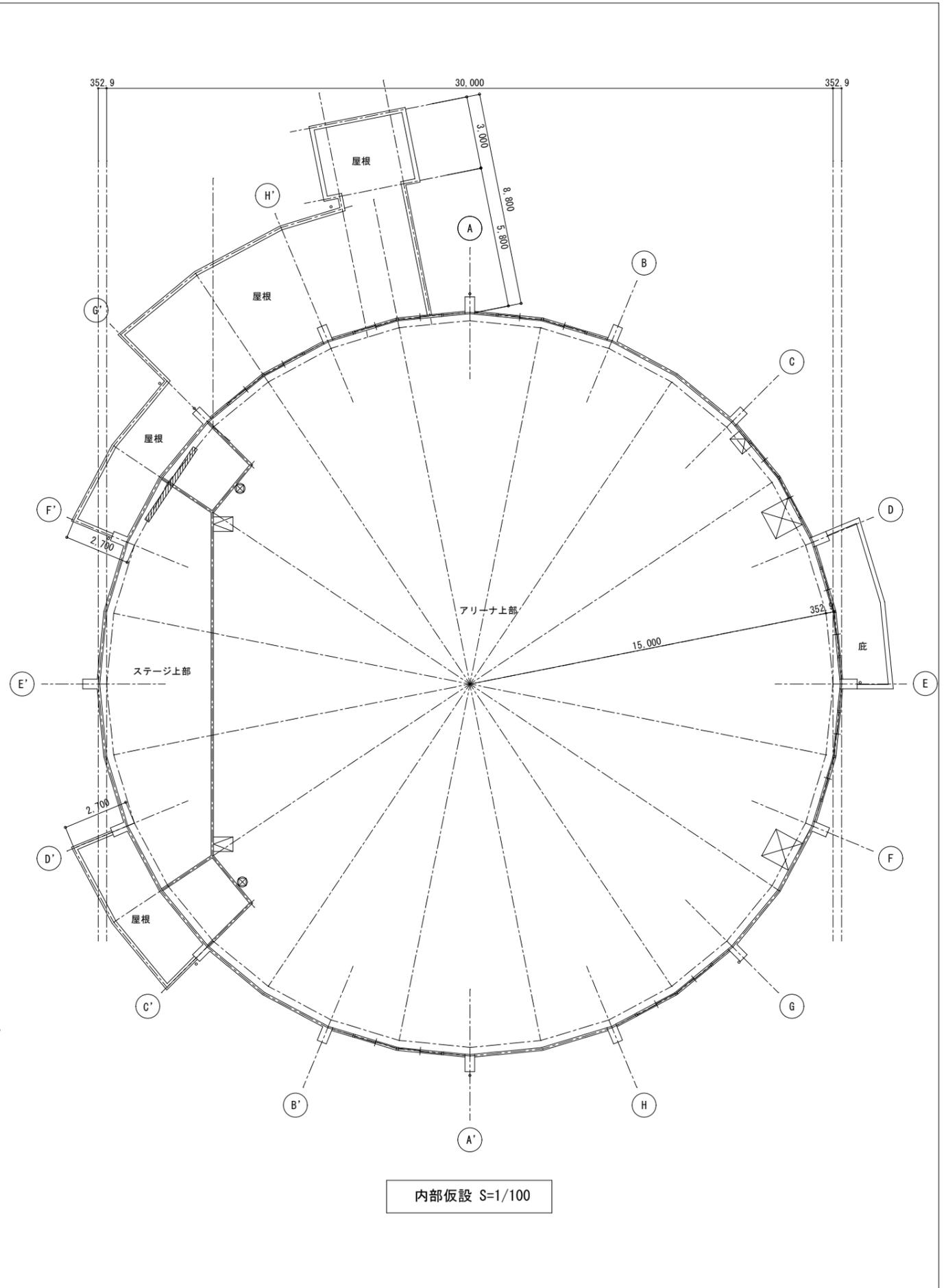
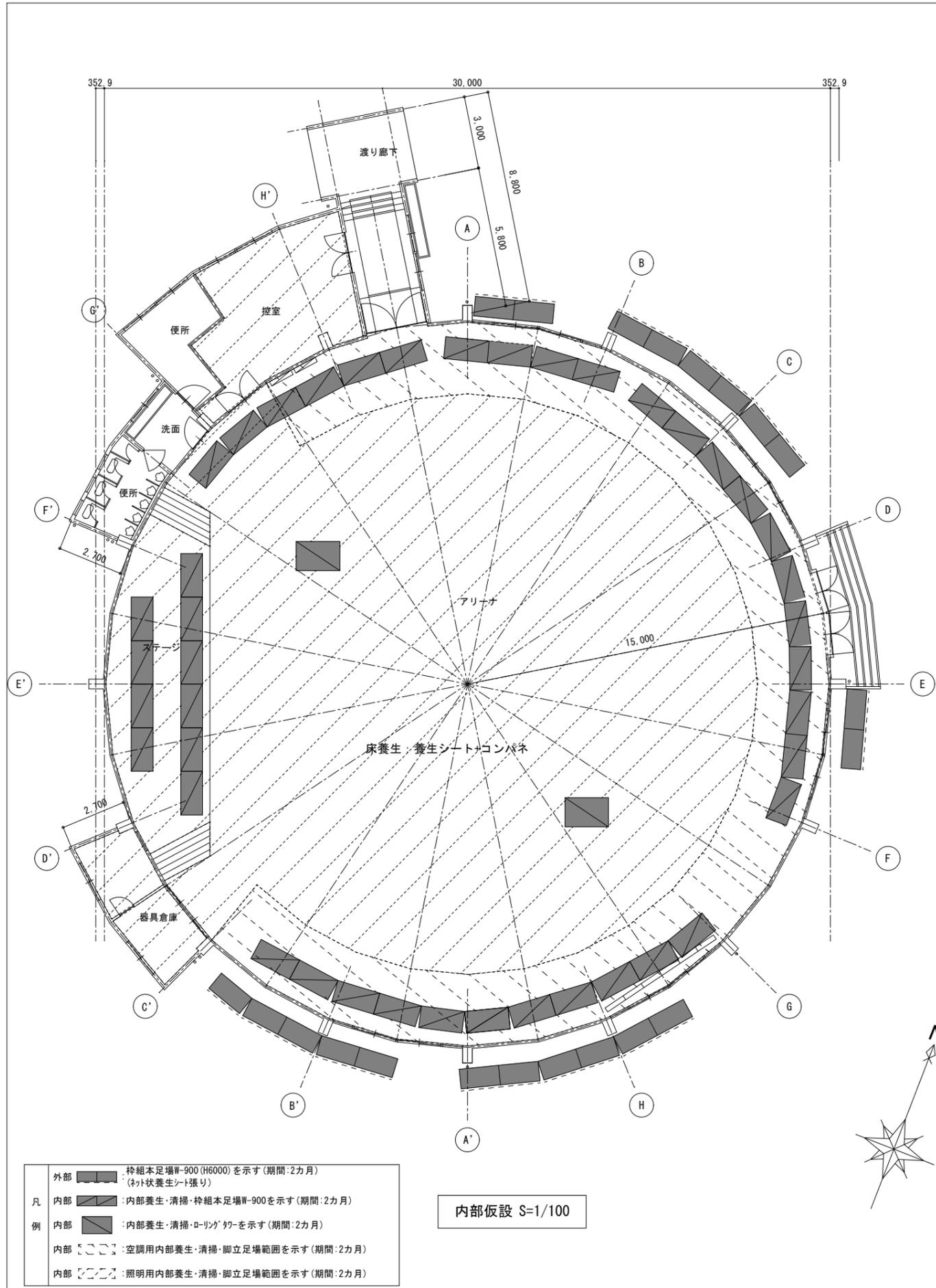
枠なし	既存のまま
	既存撤去項目
	新規設置項目
	撤去新設範囲を示す



春日部市
学校教育課
教育施設課

目付
工事名称
豊春小学校外7校避難所空調設備設置工事(武里小学校)
縮尺 S=1/100(A1)
S=1/200(A3)
図面名称
外構図

図面No.
A-20



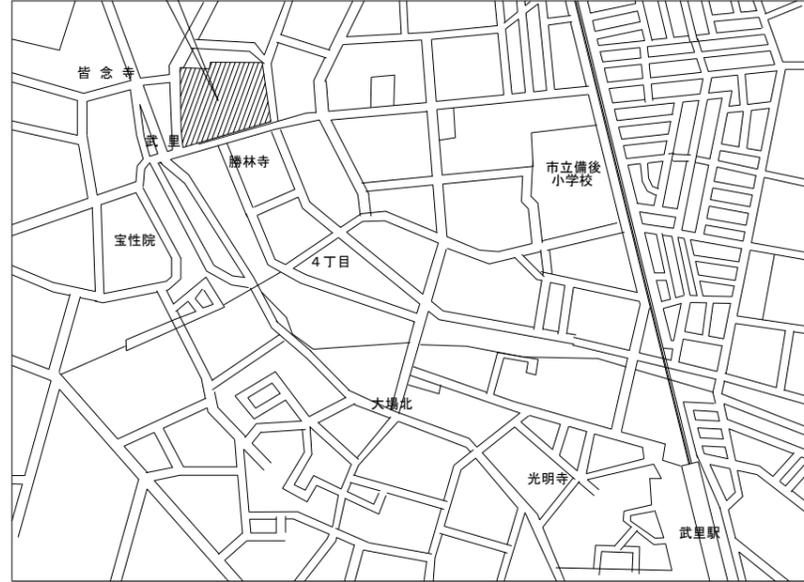
- 外部 [Hatched Pattern] 枠組本足場W-900 (H6000) を示す (期間: 2カ月)
(ネット状養生シート張り)
- 凡 内部 [Hatched Pattern] 内部養生・清掃・枠組本足場W-900を示す (期間: 2カ月)
- 例 内部 [Hatched Pattern] 内部養生・清掃・ローリングタワーを示す (期間: 2カ月)
- 内部 [Dashed Line] 空調用内部養生・清掃・脚立足場範囲を示す (期間: 2カ月)
- 内部 [Dotted Line] 照明用内部養生・清掃・脚立足場範囲を示す (期間: 2カ月)

内部仮設 S=1/100

内部仮設 S=1/100

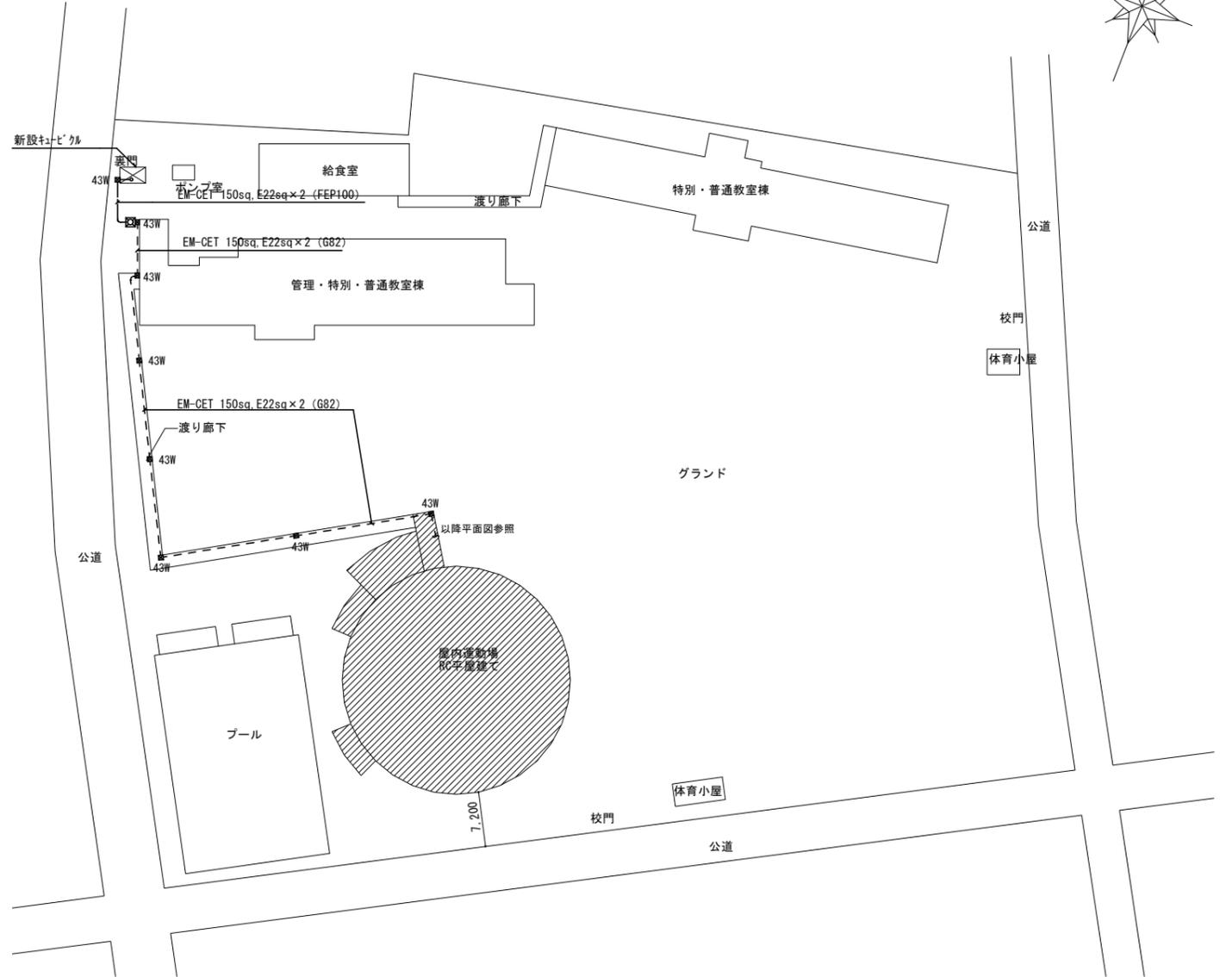


工事場所 埼玉県春日部市備後西5丁目5番2号



案内図

設計概要	
工事名称	武里小学校体育館 耐震補強工事
工事場所	春日部市備後西5丁目5番2号
主要用途	屋内運動場(体育館)
構造	RC造 (S置き屋根)
工事種目	体育館耐震補強工事

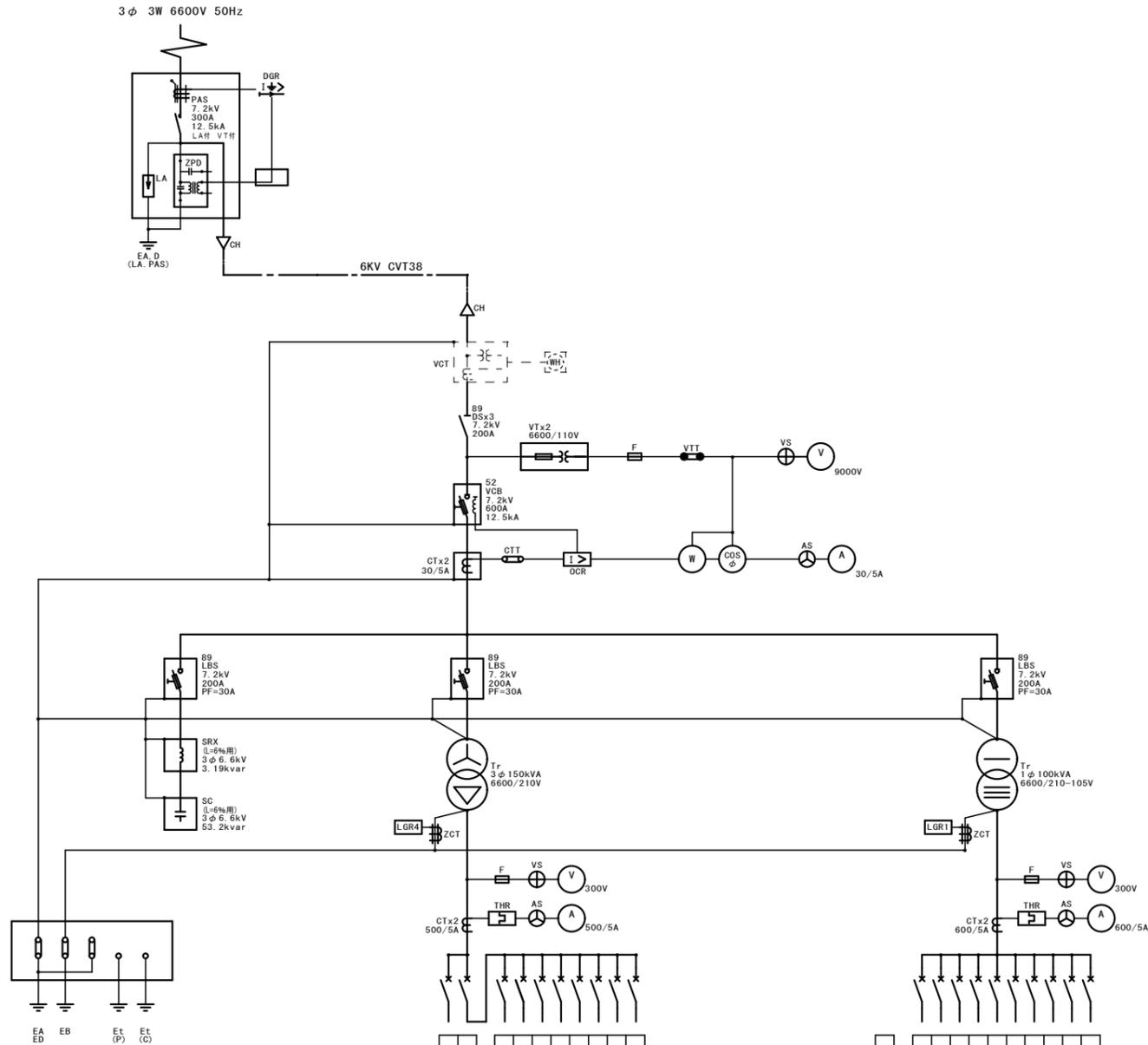


▨ 工事対象建物

配置図 S=1/400

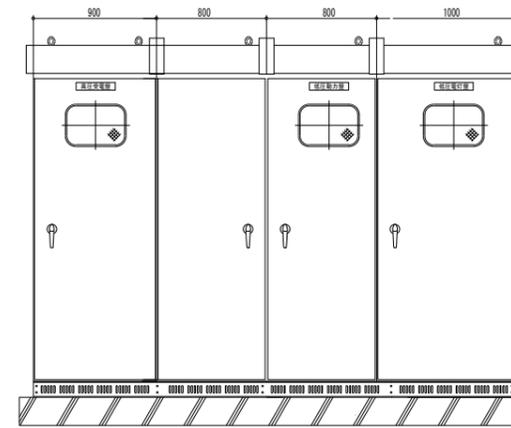
特記なき記号は下記による。	
■ 21	ブレース 200×200×100 鋼板製
■ 32W	ブレース 300×300×200 SUS製
■ 43W	ブレース 400×400×300 SUS製
■	ハンドヘル 600×600×900 (中耐蓋)

既存撤去



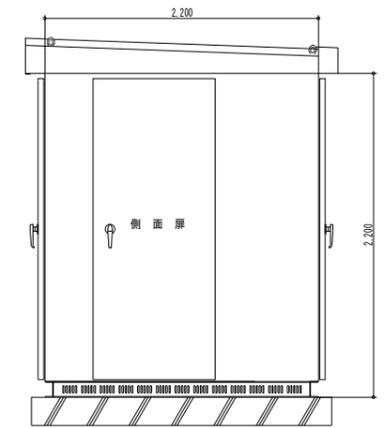
幹線サイズ	開閉器容量	負荷容量	負荷名称
1	MOCB 3P 100AF / 75AT		消火栓ポンプユニット
2	MOCB 3P 600AF / 600AT		主幹1
3	MOCB 3P 225AF / 175AT		3LP-B・AC-B・7.471-9-
4	MOCB 3P 100AF / 75AT		1P用1
5	MOCB 3P 225AF / 200AT		1LP-B・2LP-B
6	MOCB 3P 225AF / 200AT		給食室
7	MOCB 3P 100AF / 100AT		プール
8	MOCB 3P 100AF / 100AT		給食室消費電管庫
9	MOCB 3P 50AF / 40AT		空調機主電源
10	MOCB 3P 225AF / 175AT		P-1

幹線サイズ	開閉器容量	負荷容量	負荷名称
11	MOCB 3P 300AF / 300AT		1L-A・2L-A・3LP-A
12	MOCB 3P 125AF / 125AT		1LP-B
13	MOCB 3P 225AF / 200AT		2LP-B・3L-B・4L-B
14	MOCB 3P 50AF / 50AT		給食室
15	MOCB 3P 100AF / 100AT		体育館
16	MOCB 3P 100AF / 100AT		予備
17	MOCB 3P 100AF / 100AT		予備
18	MOCB 2P 50AF / 20AT		PAS電源
19	MOCB 2P 50AF / 20AT		警報電源
20	MOCB 2P 50AF / 20AT		盤内電源



正面図

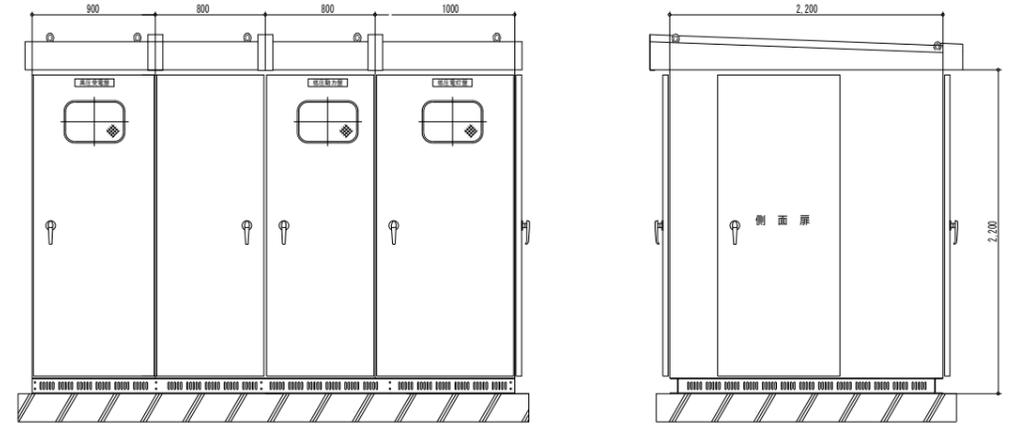
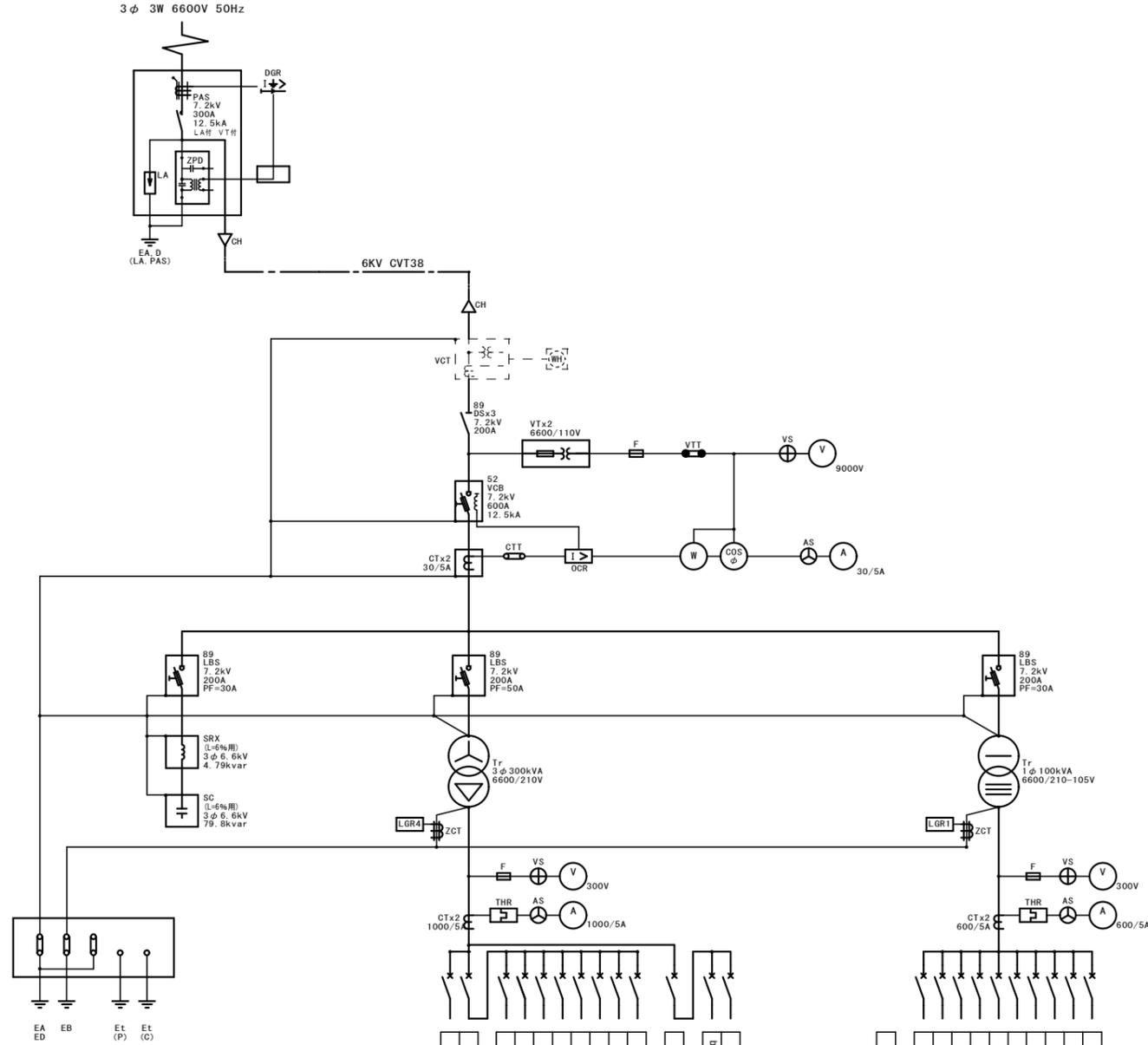
キュービクル姿図



側面図

凡例	-特記なき記号は下記による-		
記号	名称	記号	名称
CH	ケーブルヘッド	27	交流不足電圧継電器
PAS	高圧系中負荷開閉器	51 (OCR)	過電流継電器
LA	避雷器	67 (DGR)	地絡方向継電器
VCT	電力需給用計器用変成器	55 (APFC)	自動力率制御装置
Wh	電力需給用計量器	51 G	漏電リレー
DS	断路器	ZCT	零相変流器
VCB	真空遮断器	MCCB	配線用遮断器
VT	計器用変圧器	ELCB	漏電遮断器
CT	変流器	V	電圧計 (最大値換針付)
LBS	高圧交流負荷開閉器	A	電流計 (最大値換針付)
PF	潮流ヒューズ	W	電力計 (最大値換針付)
VCS	高圧真空電磁接触器	cos φ	力率計
T	変圧器 (油入アモルフラス仕様)	F	低圧ヒューズ
SR	進列リアクトル (油入)	TC	引外しコイル
SC	高圧進相コンデンサ (油入)		

【特記事項】
 ・VCB操作 : 手動 電動
 ・付属品、予備品は下記のものを入れる事。
 電力ヒューズ : 実装数
 ディスコン棒 : 短1本
 高圧圧検電器 : 各1本
 回路ヒューズ : 実装数
 ・トランス付属品
 ダイヤル温度計 : 有 無
 転倒防止用ストッパー : 有 無
 防護ゴム : 有 無
 混触防止板 : 有 無



正面図

側面図

キュービクル姿図

幹線番号	負荷名称	負荷容量 [kVA]	開閉器容量	幹線サイズ
1	消火栓ポンプユニット		MCB 3P 100AF / 75AT	
2	主幹1		MCB 3P 600AF / 600AT	
3	3LP-B・AC-B・チ40+チ-		MCB 3P 225AF / 175AT	
4	1PH-1		MCB 3P 100AF / 75AT	
5	1LP-B・2LP-B		MCB 3P 225AF / 200AT	
6	給気室		MCB 3P 225AF / 200AT	
7	プール		MCB 3P 100AF / 100AT	
8	給気室消番装置		MCB 3P 100AF / 100AT	
9	空調機主電源		MCB 3P 50AF / 40AT	
10	P-1		MCB 3P 225AF / 175AT	
21	主幹2		MCB 3P 300AF / 300AT	
22	体育館空調機P-M (新設)	41.2	MCB 3P 225AF / 200AT	EM-GET 150sq
23	予備		MCB 3P 100AF / 100AT	

幹線番号	負荷名称	負荷容量 [kVA]	開閉器容量	幹線サイズ
11	1L-A・2L-A・3LP-A		MCB 3P 300AF / 300AT	
12	1LP-B		MCB 3P 125AF / 125AT	
13	2LP-B・3L-B・4L-B		MCB 3P 225AF / 200AT	
14	給気室		MCB 3P 50AF / 50AT	
15	体育館		MCB 3P 100AF / 100AT	
16	予備		MCB 3P 100AF / 100AT	
17	予備		MCB 3P 100AF / 100AT	
18	PAS電源		MCB 2P 50AF / 20AT	
19	警報電源		MCB 2P 50AF / 20AT	
20	盤内電源		MCB 2P 50AF / 20AT	

凡例 一特記なき記号は下記による。

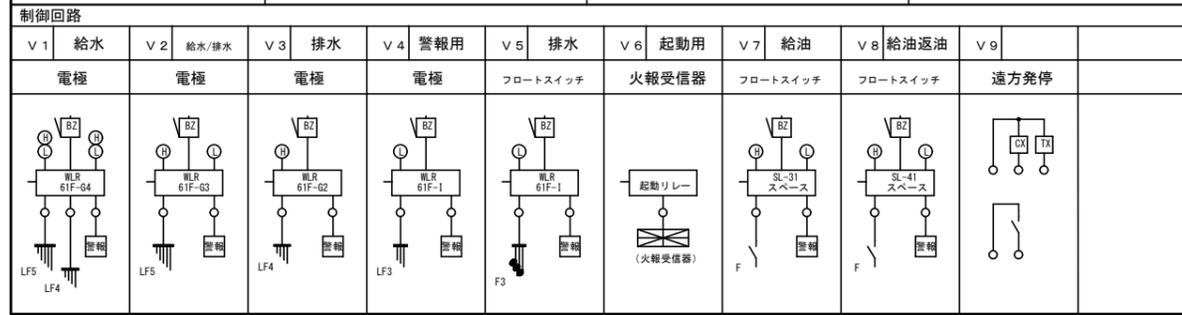
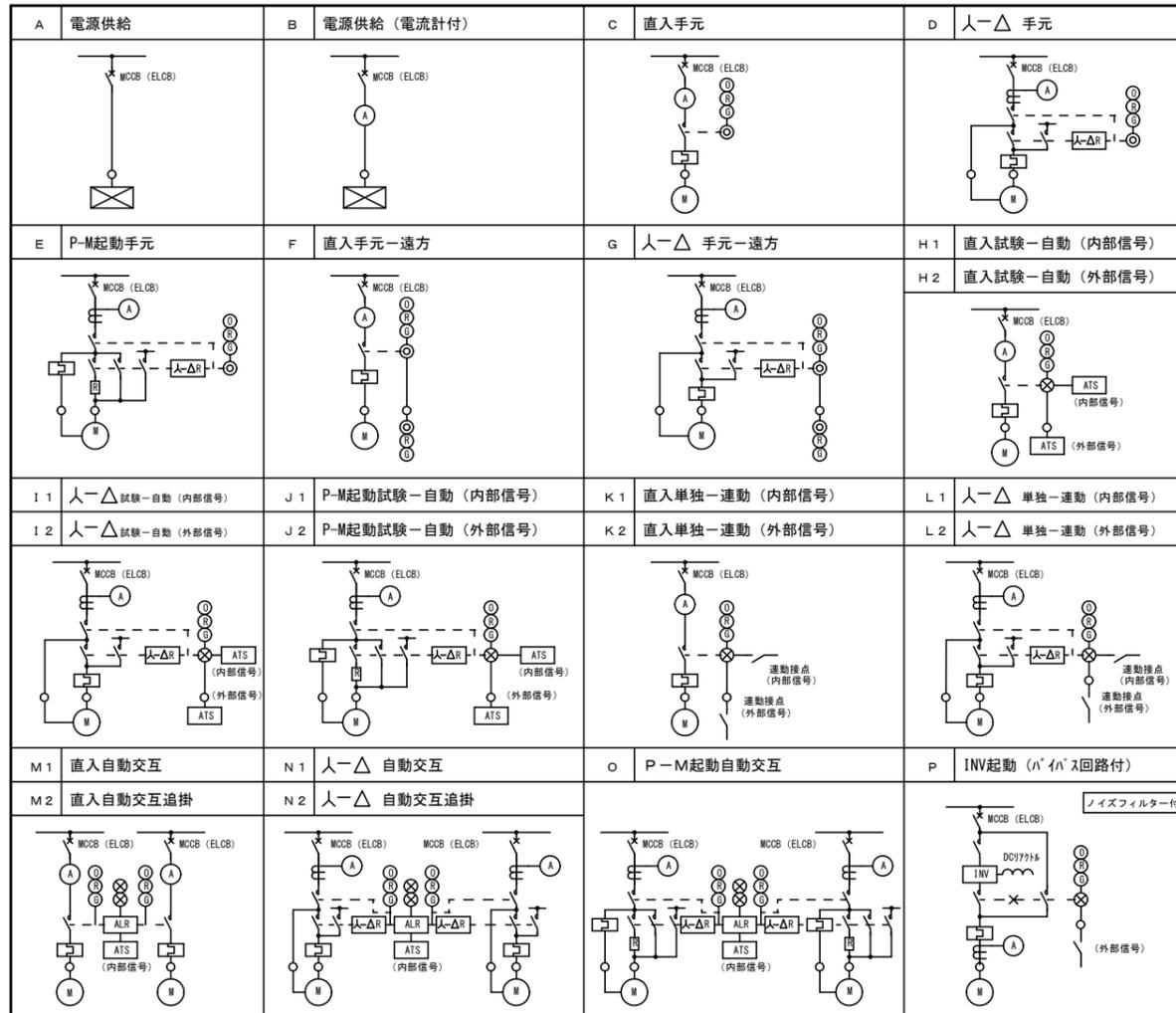
記号	名称	記号	名称
CH	ケーブルヘッド	27	交流不足電圧継電器
PAS	高圧突中負荷開閉器	51 (OCR)	過電流継電器
LA	避雷器	67 (DGR)	地絡方向継電器
VCT	電力供給用計器用変成器	55 (APFC)	自動力率制御装置
Wh	電力供給用計量器	51G	漏電リレー
DS	断路器	ZCT	零相変流器
VCB	真空遮断器	MCCB	配線用遮断器
V	計器用変圧器	ELCB	漏電遮断器
CT	変流器	V	電圧計 (最大値残計付)
LBS	高圧交流負荷開閉器	A	電流計 (最大値残計付)
PF	限流ヒューズ	W	電力計 (最大値残計付)
VCS	高圧真空電磁接触器	cos φ	力率計
T	変圧器 (油入アモルファス仕様)	F	低圧ヒューズ
SR	直列リアクトル (油入)	TC	引外レコイル
SC	高圧進相コンデンサ (油入)		

【特記事項】

- ・VCB操作 : 手動 電動
- ・付属品、予備品は下記のものを入れる事。
 電力ヒューズ : 実装数
 ディスコン棒 : 短1本
 高低圧接電器 : 各1本
 回路ヒューズ : 実装数
- ・トランス付属品
 ダイヤル温度計 : 有 無
 転倒防止用ストッパー : 有 無
 防振ゴム : 有 無
 混触防止板 : 有 無

【注記】

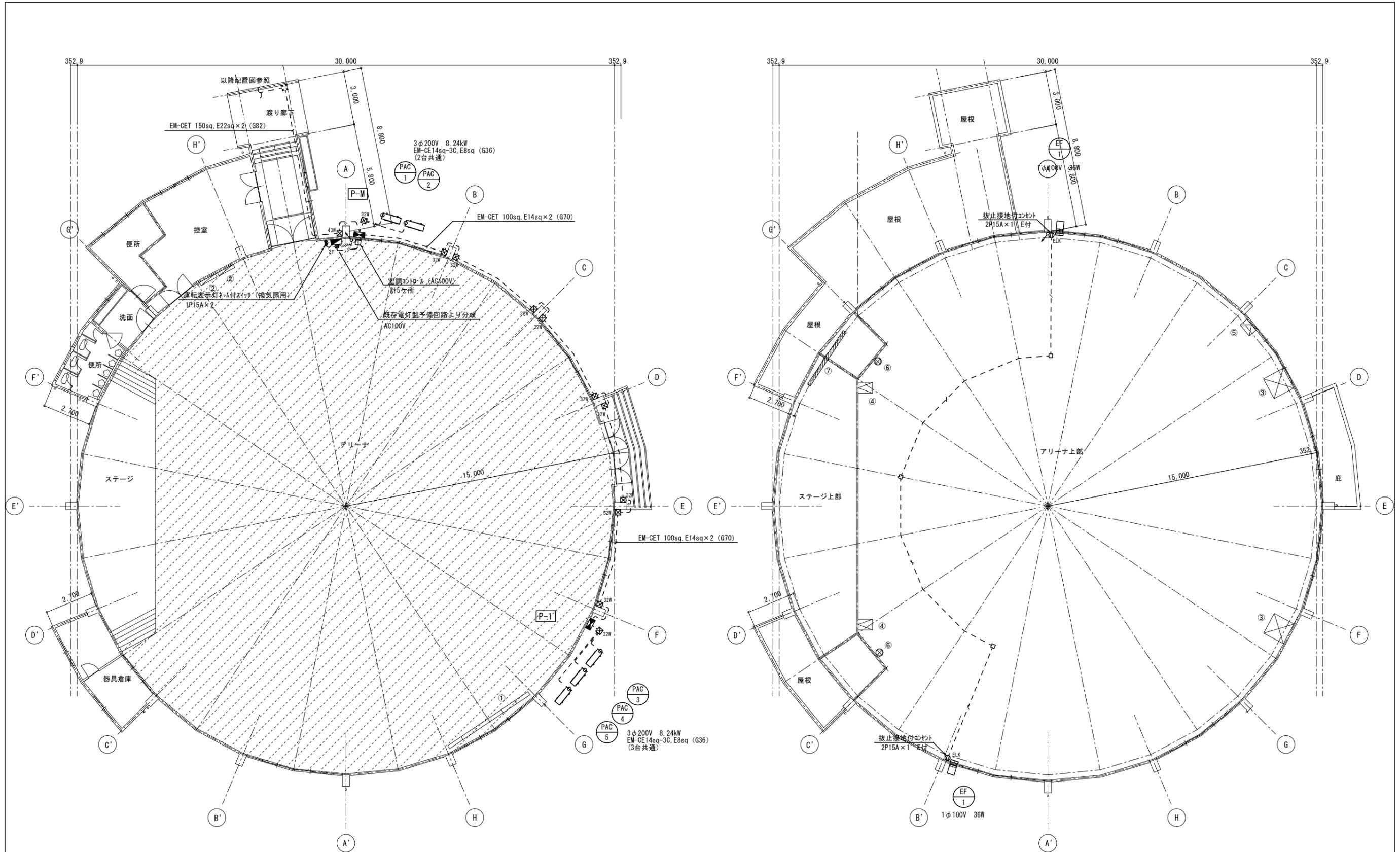
- キュービクル基礎は既存利用とする。
- キュービクルには蛍光灯 (解放数分) 換気扇 (サーモ発停) を設ける事とする。
- キュービクルチャンネルベースは溶融亜鉛メッキとする。
- 予備として電力ヒューズ類を100%納入とする。
- A B C 10型消火器用収納箱 (防水・SUS製) 及び同消火器を納入とする。
- トランスは油入トランス用収納箱 (防水・SUS製) 及び同消火器を納入とする。
- 上記図面は参考とする。
- 表示ランプは全てLEDを使用すること。
- JISC 4620準拠品とする。
- キュービクルは消防長が火災予防上支障がないと認める構造を有するものとする。
(消防庁告示第7号基準に則って設置する)



凡例		特記事項	
記号	名称	記号	名称
MCCB	配線用遮断器	F	フロートスイッチ
ELCB	配線用漏電遮断器	計器	計器用変流器
MNCCB	電動機保護用遮断器	Y-ΔR	Y-Δタイマー
MELB	電動機保護用漏電遮断器	ALR	自動交互リレー
電流計	電流計	液面リレー	液面リレー
電磁接触器	電磁接触器	水銀フロートスイッチ用リレー	水銀フロートスイッチ用リレー
表示灯緑(停止中)	表示灯緑(停止中)	インバーター制御装置	インバーター制御装置
表示灯赤(運転中)	表示灯赤(運転中)	自動スイッチ	自動スイッチ
表示灯黄(故障)	表示灯黄(故障)	満水・満油用表示灯	満水・満油用表示灯
押釦スイッチ	押釦スイッチ	減水・減油用表示灯	減水・減油用表示灯
切替スイッチ	切替スイッチ	マグネットスイッチ	マグネットスイッチ
LF	フロートスイッチ電極	サーマルリレー	サーマルリレー

品名 仕様 数量 単位	電圧方式 主計	機器記号	負荷名称	負荷容量 [kW]	断容量 [kVA]	断容量 [kVA]	現場盤		計測		インター ロック	配線仕様	備考		
							制御回路	表示	表示	表示					
P-M	AC-6C 3φ3W200V 発電機用TB×1 MOT 3P200A ×1	P-1	動力制御盤	24.72	MCCB 3P 150 / 150	A						EM-CET100sq, E14sq × 2	(G70)		
			PAC-1	空冷ヒートポンプ	8.24	ELCB 3P 50 / 50	A						EM-CE14sq-3C, E8sq	(G36)	
			PAC-2	空冷ヒートポンプ	8.24	ELCB 3P 50 / 50	A						EM-CE14sq-3C, E8sq	(G36)	
	合計容量 計 41.2 [kW]														
P-I	AC 3φ3W200V MCCB 3P 150/150A		PAC-3	空冷ヒートポンプ	8.24	ELCB 3P 50 / 50	A					EM-CE14sq-3C, E8sq	(G36)		
			PAC-4	空冷ヒートポンプ	8.24	ELCB 3P 50 / 50	A					EM-CE14sq-3C, E8sq	(G36)		
			PAC-5	空冷ヒートポンプ	8.24	ELCB 3P 50 / 50	A					EM-CE14sq-3C, E8sq	(G36)		
	合計容量 計 24.72 [kW]														

仕様		仕様		仕様		仕様		仕様	
記号	仕様	記号	仕様	記号	仕様	記号	仕様	記号	仕様
A 1	スチール	B 1	自立	C 1	標準	D 1	折曲	E 1	焼付(標準)
A 2	ステンレス	B 2	壁掛	C 2	防雨	D 2	ビス止め	E 2	焼付(指定)
A 3	樹脂	B 3	露出	C 3	防湿	D 3	外扉付・中扉付	E 3	耐塩
		B 4	埋込	C 4	耐熱(一種)	D 4	外扉付・中扉無	E 4	粉体
				C 5	耐熱(二種)	D 5	外扉無・中扉付		

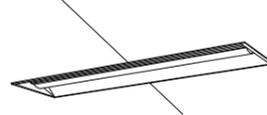
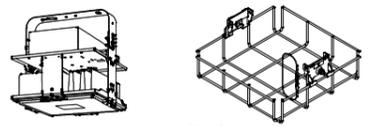


1階平面図 S=1/100

1階上部平面図 S=1/100

- 【凡例】
- 〃 - EM-EF 2.0-3C (E25) 新設
 - 〃 - EM-EF 2.0-2C×2 (E31) 新設

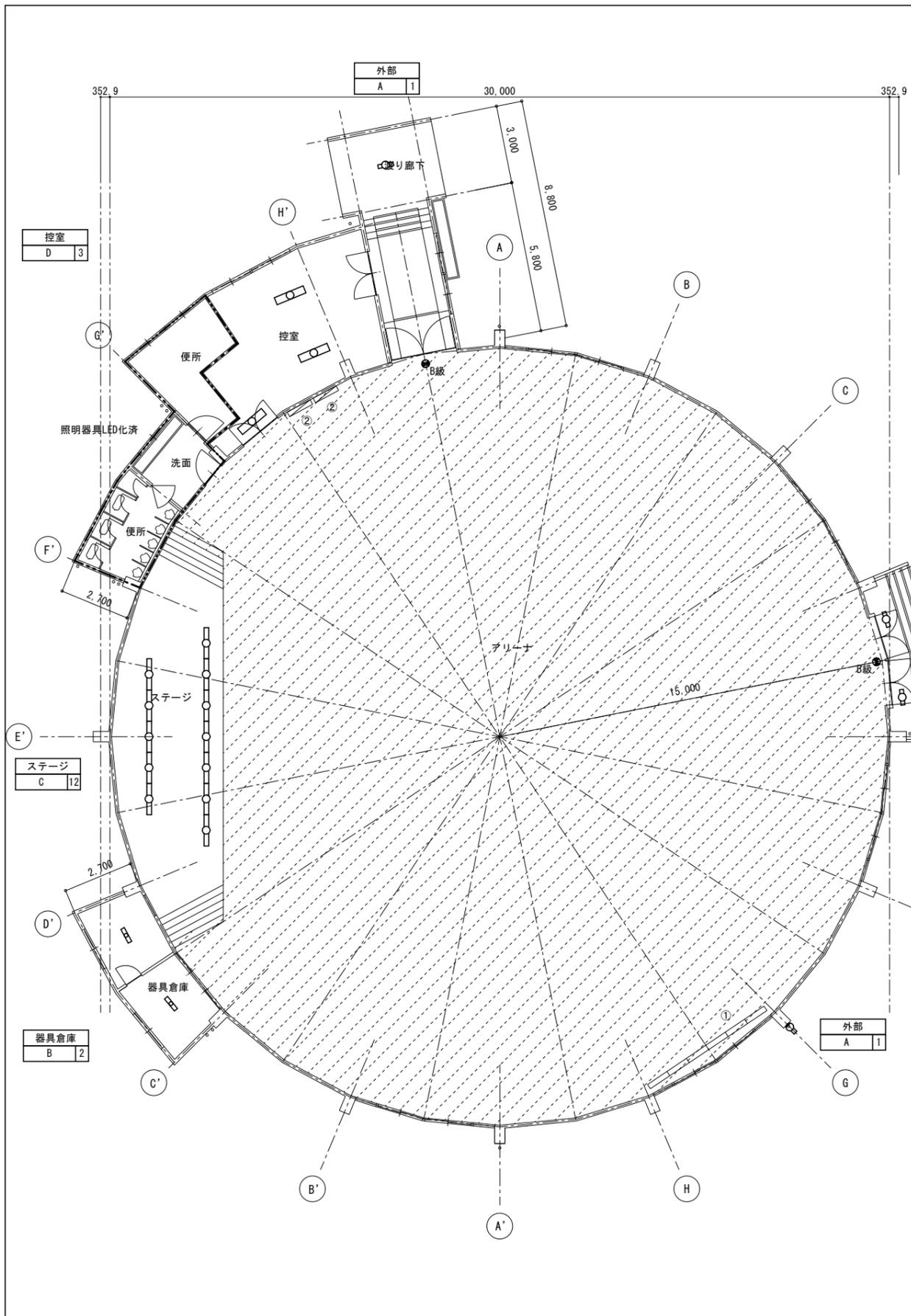
【新設 照明器具姿図】

<p>A LEDウォールライト 20形</p>  <p>LED内蔵、電源ユニット内蔵 防湿型・防雨型 5000K、Ra83、光源寿命40000時間（光束維持率85%） 器具光束990lm、消費電力10W、電圧100～242V 本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート（乳白） 天井直付型・壁直付型、保護等級：IP23</p> <p>公共施設型番 LBF3MP/RP-2-06LE9 (参考)パナソニック NNF21800LE9</p>	<p>B 直付型20形 Dスタイル W150</p>  <p>一般タイプ、1600lmタイプ 消費電力11.6W、定格出力型、電圧100～242V 本体：鋼板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵</p> <p>公共施設型番 LSS9-2-15 (参考)パナソニック XLX210AENCLE9</p>	<p>C 直付型40形 反射笠付型</p>  <p>一般タイプ、4000lmタイプ 消費電力25W、定格出力型、電圧100～242V 本体：鋼板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵</p> <p>(参考)パナソニック XLX440KENULE9</p>
<p>D 埋込型40形 下面開放型 W300</p>  <p>一般タイプ、4000lmタイプ 消費電力25W、定格出力型、電圧100～242V 本体：亜鉛鋼板 反射板：鋼板（高反射白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光源寿命40000時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83、電源装置はライトバー側に内蔵</p> <p>(参考)パナソニック XLX440VENPLE9</p>	<p>E 高天井用照明器具 水銀灯700形器具相当</p>  <p>下面ガード フレーム：鋼材（亜鉛メッキ仕上）</p> <p>光束25000lm、消費電力135W、電圧200～242V 昼白色、5000K、Ra70、広角タイプ、直付型 光源寿命60000時間（光束維持率85%）、電源内蔵型 本体：アルミ、パネル：ポリカーボネート（透明）、アーム：亜鉛鋼板 約5～100%連続調光、落下防止ワイヤー付 器具本体（2.5kg）</p> <p>(参考)パナソニック NYM20223LR2 NYK00116（ガード）</p>	
<p>B級 LED B級・BL形 避難口誘導灯片面型</p> <p>ガード付 FK02561Z</p>  <p>LED誘導灯コンパクトスクエア B級・BL形 片面型 壁・天井直付型 一般型（20分間） ニッケル水素蓄電池 リモコン自己点検機能付 型式認定番号：1AM111-3209</p> <p>公共施設型番 SH1-FBF20-BL (参考)パナソニック FA20312CLE1+FK20300</p>		

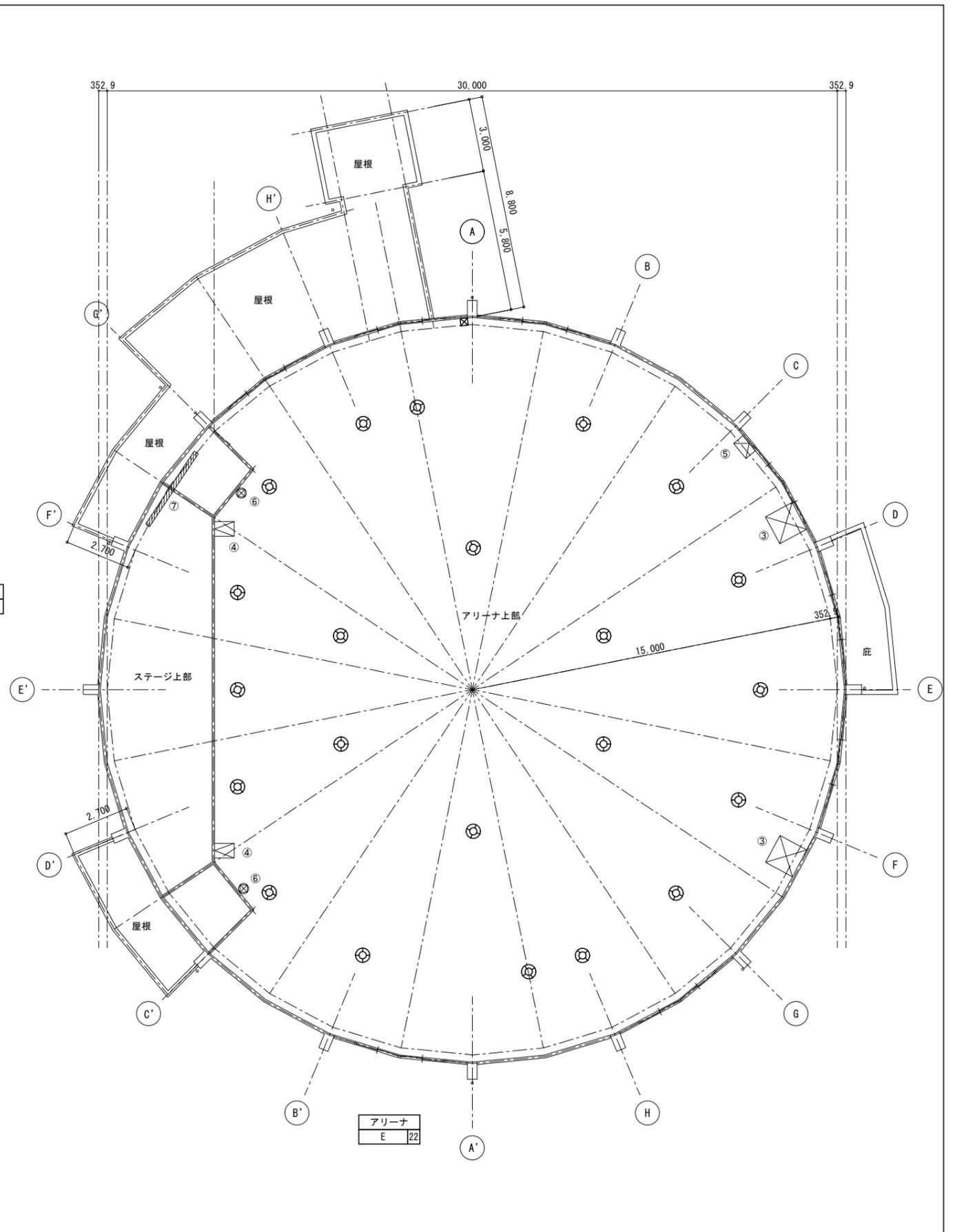
【撤去リスト】

記号	名 称		台数	備考
A	ウォールライト	FL20W×1	4	撤去
B	逆富士型	FL20W×2	2	撤去
C	反射笠付型	FL40W×2	12	撤去
D	埋込型	FL40W×2	3	撤去
E	水銀灯	HF400W	22	撤去
B級	避難口誘導灯（ガード付）		2	撤去
				撤去

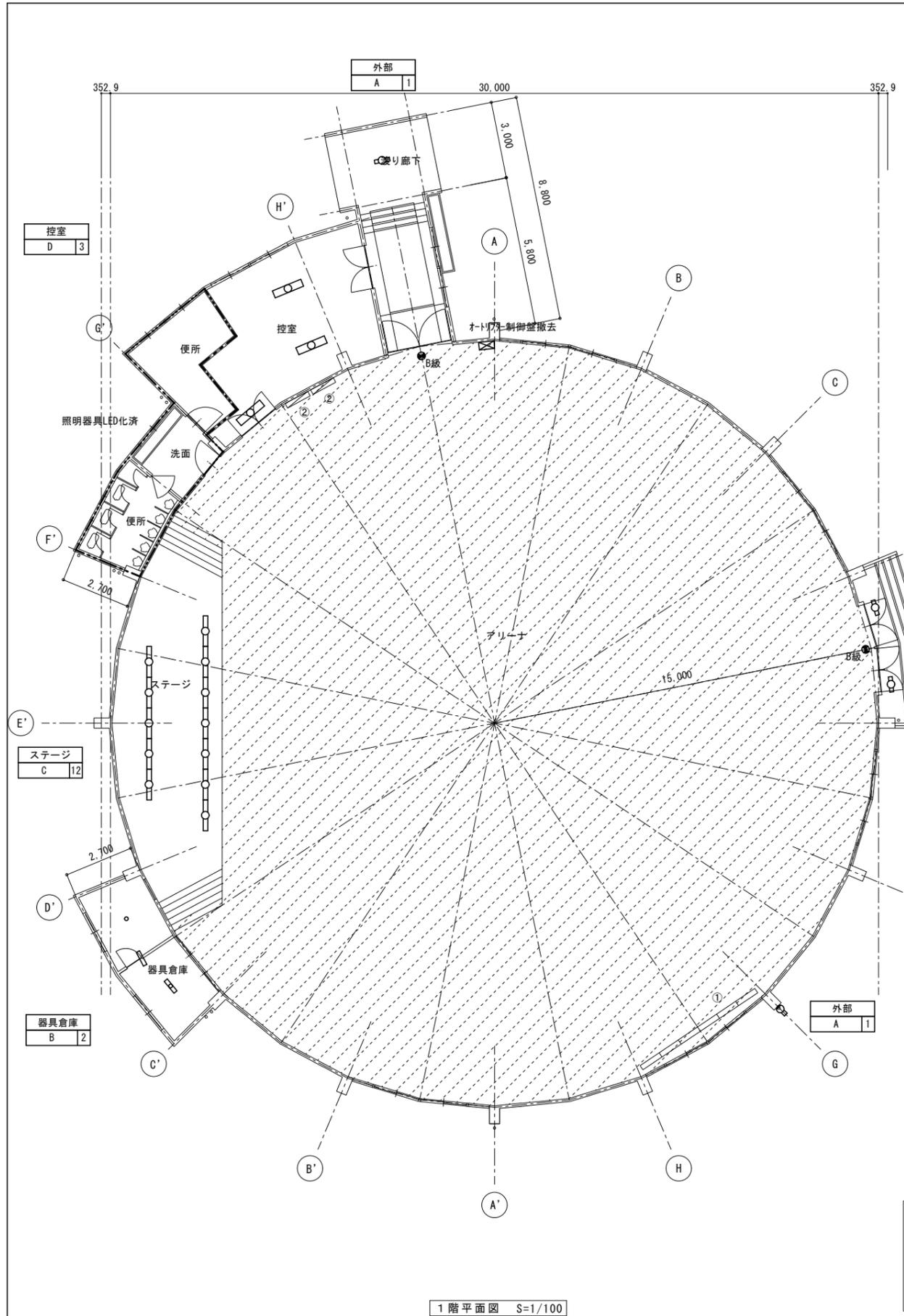
注：消費電力は JIS C 8105-3 による。



1階平面図 S=1/100



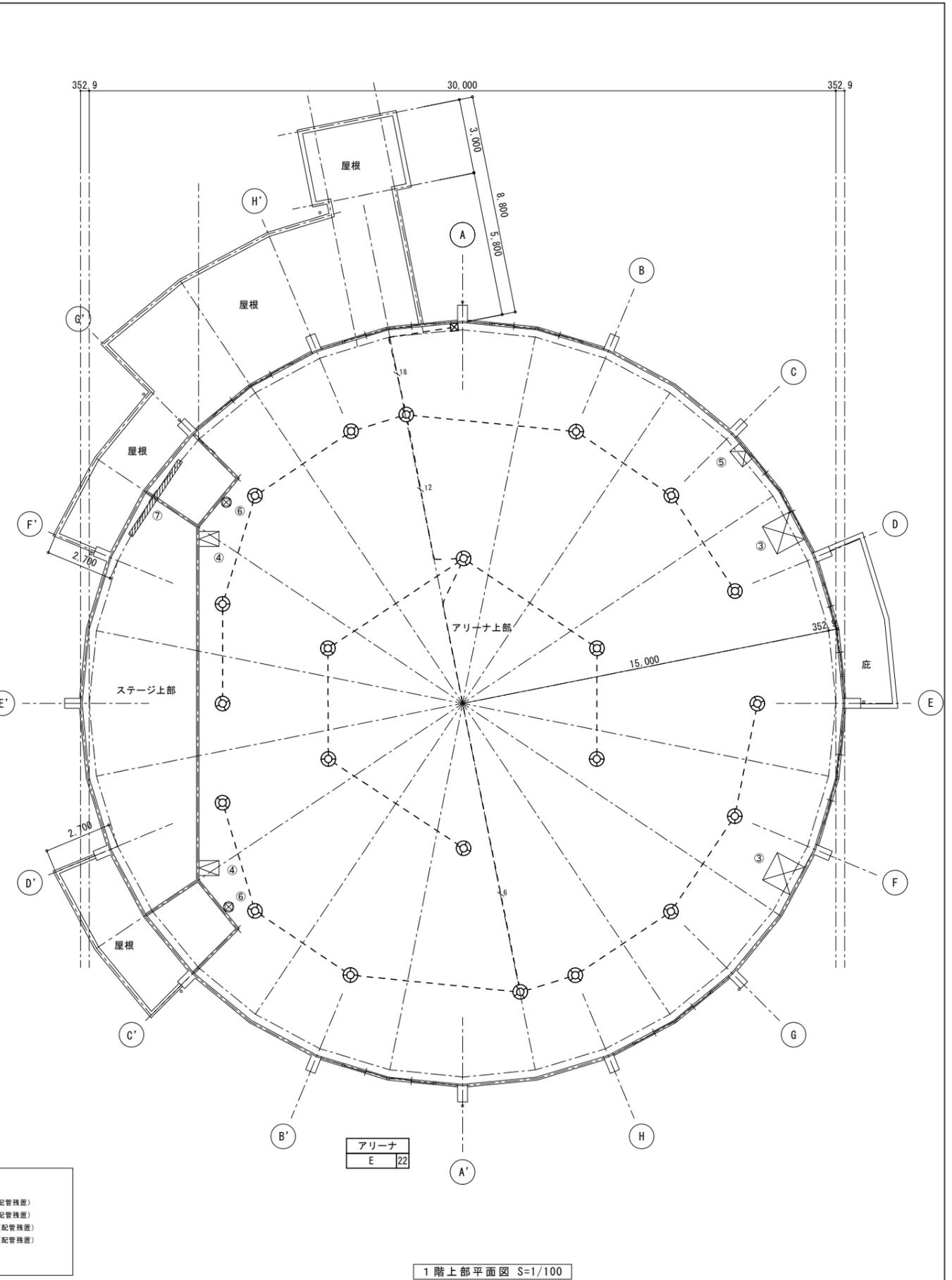
1階上部平面図 S=1/100



1階平面図 S=1/100

【凡例】

—	IV 2.0×3	(配管残置)
—	IV 2.0×6	(配管残置)
—	IV 2.0×12	(配管残置)
—	IV 2.0×18	(配管残置)



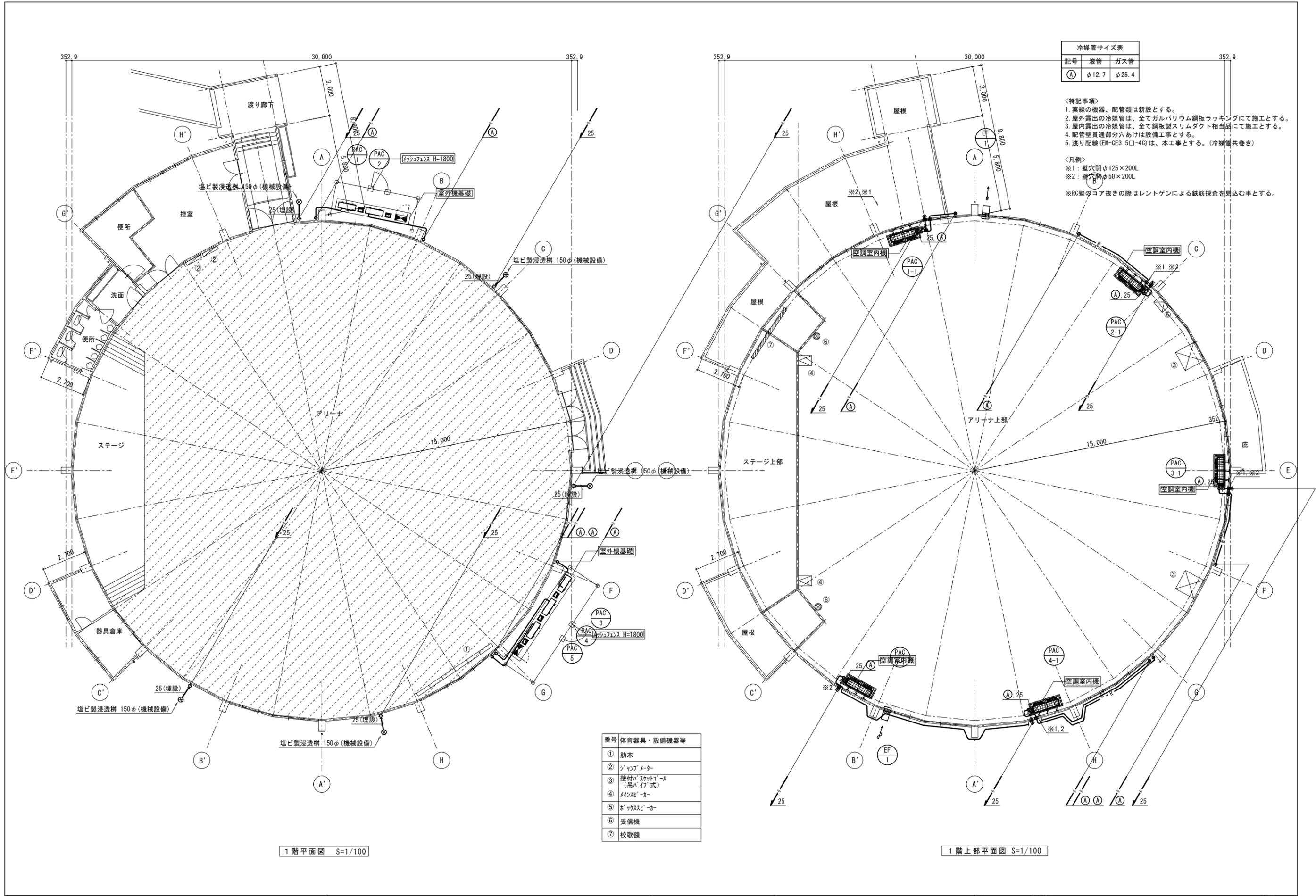
1階上部平面図 S=1/100

空調機器表

機器番号	名称	仕様	台数	電源				設置場所	備考
				φ	V	kW	起動		
PAC-1	空冷ヒートポンプエアコン	エリア空調機 壁掛け形	1	3	200	L-S	アリーナ	ZAHP-P280-S1 (参考型番：クボタ)	
		冷房能力：25.0 kW							8.24 (冷房定格)
		暖房能力：28.0 kW ※性能はJIS B 8616による							7.29 (暖房定格)
		冷媒管接続径：φ12.7×φ25.4							
		付属品：標準型ワイヤードリモコン、防振ゴムパット、 転倒防止金物、アクティブフィルター、 安全ネット(PAC-SH98-AN相当品)、 吹出ルーバー、他標準付属品一式共							
PAC-2	空冷ヒートポンプエアコン	エリア空調機 壁掛け形	1	3	200	L-S	アリーナ	ZAHP-P280-S1 (参考型番：クボタ)	
		冷房能力：25.0 kW							8.24 (冷房定格)
		暖房能力：28.0 kW ※性能はJIS B 8616による							7.29 (暖房定格)
		冷媒管接続径：φ12.7×φ25.4							
		付属品：標準型ワイヤードリモコン、防振ゴムパット、 転倒防止金物、アクティブフィルター、 安全ネット(PAC-SH98-AN相当品)、 吹出ルーバー、他標準付属品一式共							
PAC-3	空冷ヒートポンプエアコン	エリア空調機 壁掛け形	1	3	200	L-S	アリーナ	ZAHP-P280-S1 (参考型番：クボタ)	
		冷房能力：25.0 kW							8.24 (冷房定格)
		暖房能力：28.0 kW ※性能はJIS B 8616による							7.29 (暖房定格)
		冷媒管接続径：φ12.7×φ25.4							
		付属品：標準型ワイヤードリモコン、防振ゴムパット、 転倒防止金物、アクティブフィルター、 安全ネット(PAC-SH98-AN相当品)、 吹出ルーバー、他標準付属品一式共							
PAC-4	空冷ヒートポンプエアコン	エリア空調機 壁掛け形	1	3	200	L-S	アリーナ	ZAHP-P280-S1 (参考型番：クボタ)	
		冷房能力：25.0 kW							8.24 (冷房定格)
		暖房能力：28.0 kW ※性能はJIS B 8616による							7.29 (暖房定格)
		冷媒管接続径：φ12.7×φ25.4							
		付属品：標準型ワイヤードリモコン、防振ゴムパット、 転倒防止金物、アクティブフィルター、 安全ネット(PAC-SH98-AN相当品)、 吹出ルーバー、他標準付属品一式共							
PAC-5	空冷ヒートポンプエアコン	エリア空調機 壁掛け形	1	3	200	L-S	アリーナ	ZAHP-P280-S1 (参考型番：クボタ)	
		冷房能力：25.0 kW							8.24 (冷房定格)
		暖房能力：28.0 kW ※性能はJIS B 8616による							7.29 (暖房定格)
		冷媒管接続径：φ12.7×φ25.4							
		付属品：標準型ワイヤードリモコン、防振ゴムパット、 転倒防止金物、アクティブフィルター、 安全ネット(PAC-SH98-AN相当品)、 吹出ルーバー、他標準付属品一式共							

換気機器表

機器番号	名称	仕様	台数	電源				設置場所	備考
				φ	V	kW	起動		
EF-1	排気ファン	有圧扇 格子タイプ 300 φ × 640 m3/h × 15 Pa 付属品：ウエザーカバー(SUS製、防虫網付)、 他標準付属品一式共	2	1	100	47.0	L-S	アリーナ	EFG-30KSB2-P (参考型番：三菱電機)



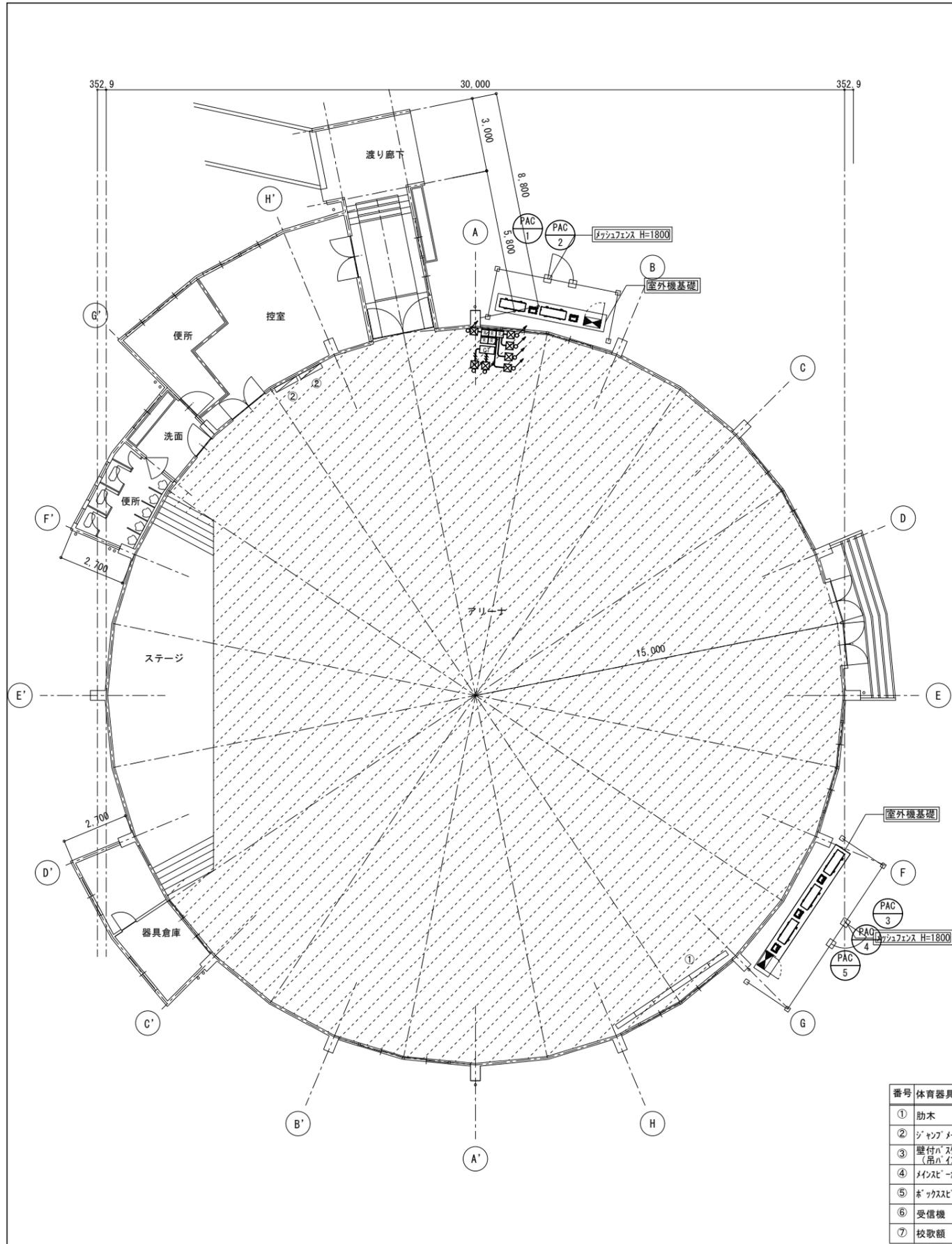
記号	液管	ガス管
(A)	φ12.7	φ25.4

- <特記事項>
1. 実線の機器、配管類は新設とする。
 2. 屋外露出の冷媒管は、全てガルバリウム鋼板ラッキングにて施工とする。
 3. 屋内露出の冷媒管は、全て銅板製スリムダクト相当品にて施工とする。
 4. 配管壁貫通部分穴あけは設備工事とする。
 5. 渡り配線 (EM-0E3.5口-4C) は、本工事とする。(冷媒管共巻き)
- <凡例>
- ※1: 壁穴開φ125×200L
 - ※2: 壁穴開φ50×200L
- ※RC壁のコア抜きの際はレントゲンによる鉄筋探査を見込む事とする。

番号	体育器具・設備機器等
①	助木
②	ジャンプメーター
③	壁付バスケゴール (吊付式)
④	マイクスタンド
⑤	ホックスタンド
⑥	受信機
⑦	校歌額

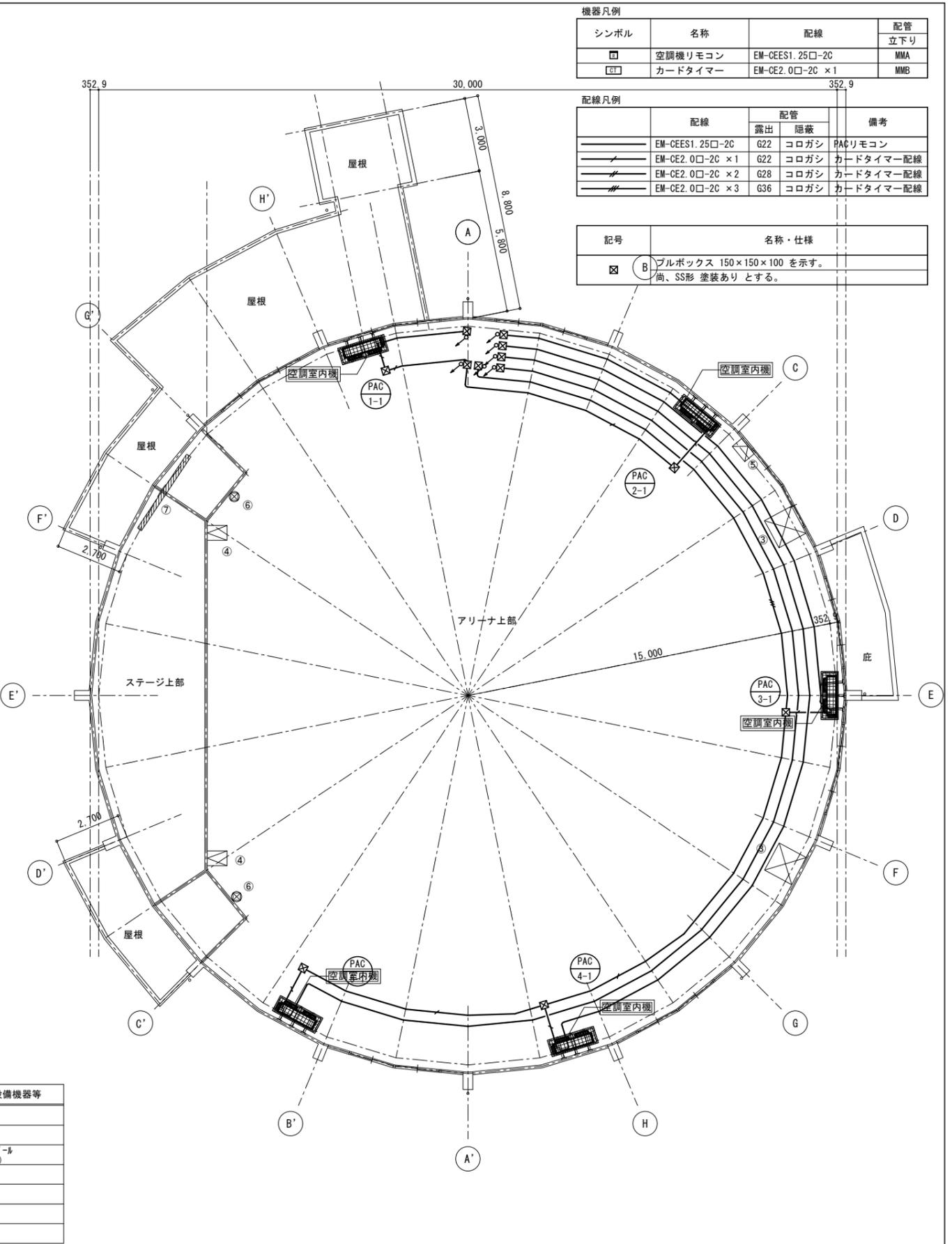
1階平面図 S=1/100

1階上部平面図 S=1/100



1階平面図 S=1/100

番号	体育器具・設備機器等
①	助木
②	ジャンプメーター
③	壁付ハスケットゴール (吊式)
④	メインスピーカー
⑤	サブスピーカー
⑥	受信機
⑦	校歌機

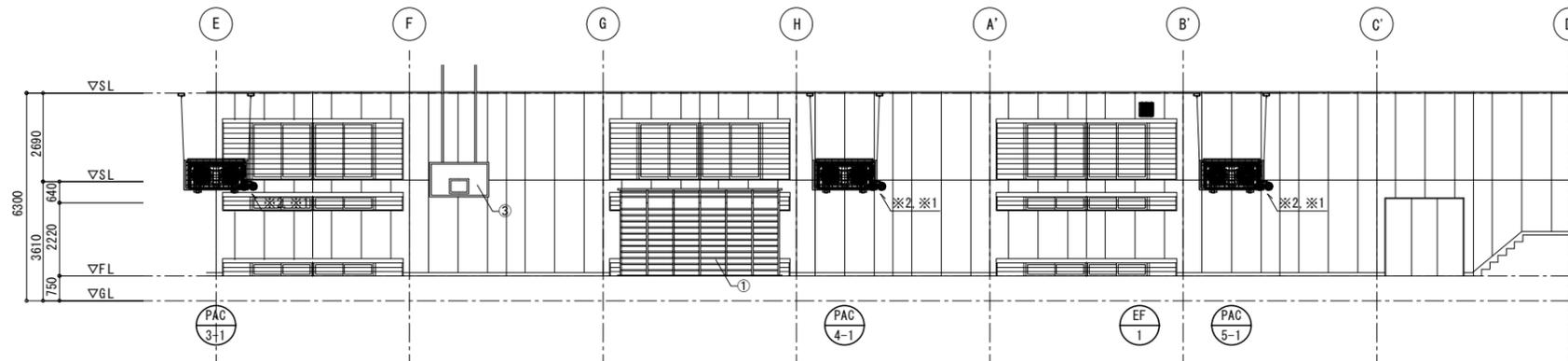
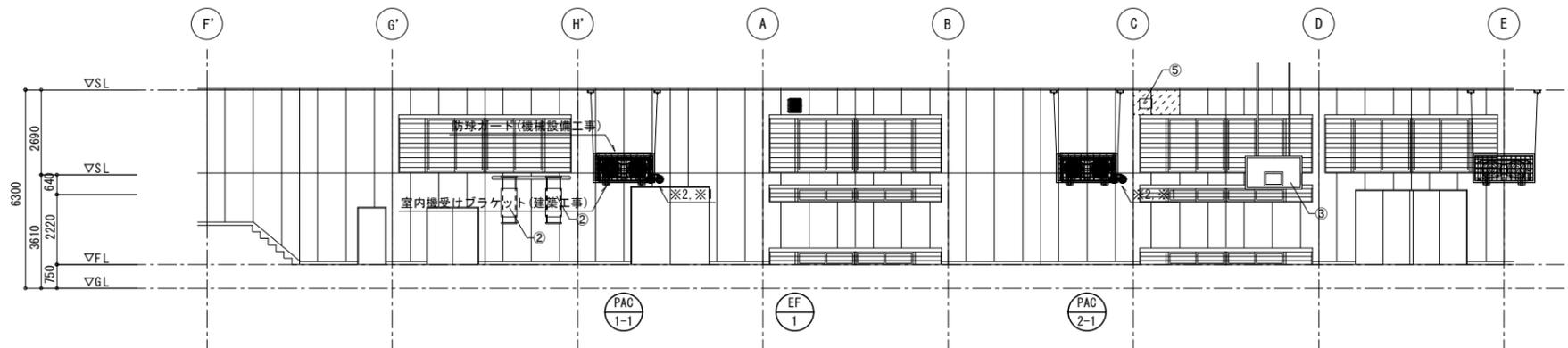
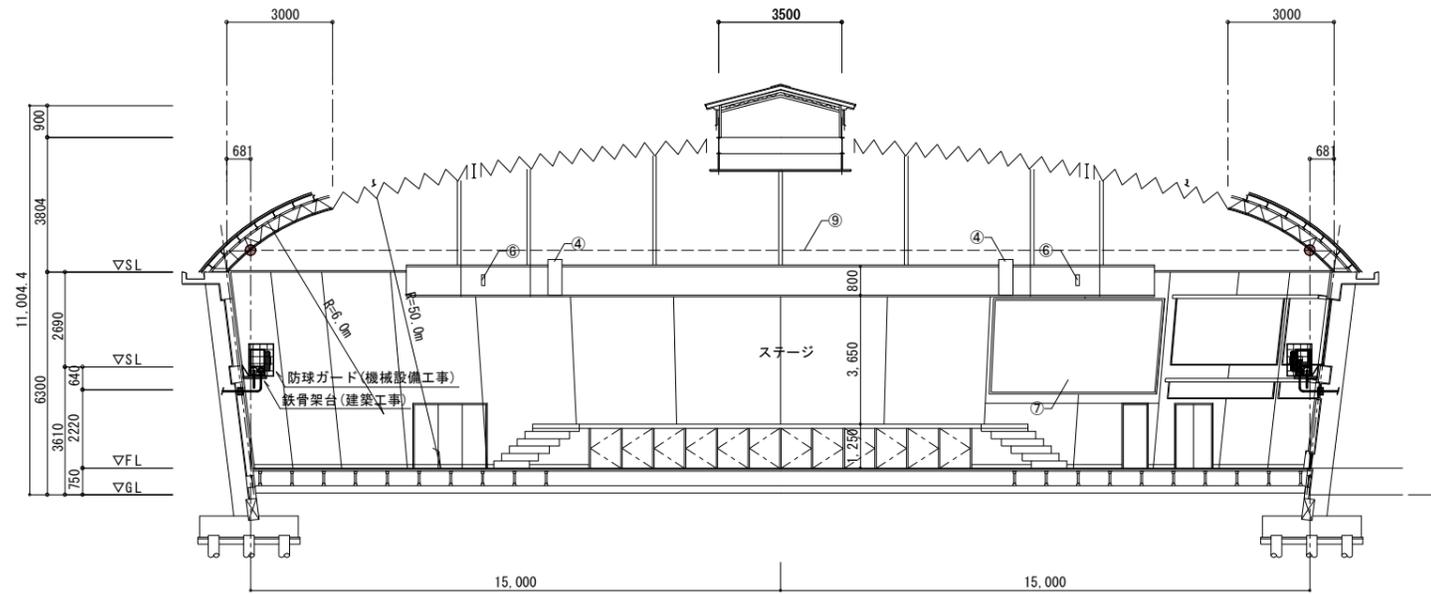


1階上部平面図 S=1/100

シンボル	名称	配線	配管
□	空調機リモコン	EM-CEES1.25□-2C	立下り
◻	カードタイマー	EM-CE2.0□-2C × 1	MMB

配線	配管		備考
	露出	隠蔽	
EM-CEES1.25□-2C	G22	コログシ	PACリモコン
EM-CE2.0□-2C × 1	G22	コログシ	カードタイマー配線
EM-CE2.0□-2C × 2	G28	コログシ	カードタイマー配線
EM-CE2.0□-2C × 3	G36	コログシ	カードタイマー配線

記号	名称・仕様
☒ B	プルボックス 150×150×100 を示す。尚、SS形 塗装あり とする。

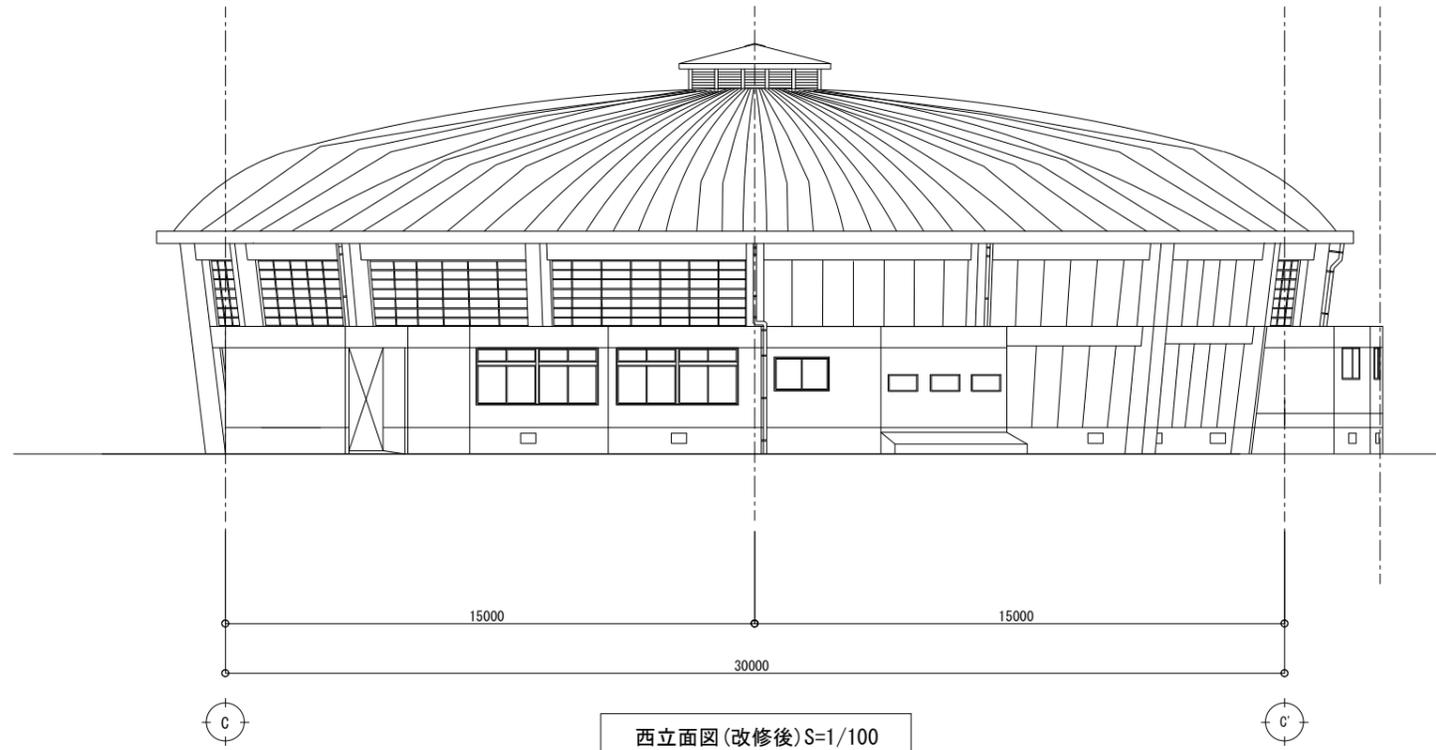


番号	体育器具・設備機器等
①	肋木
②	ジャンプメーター
③	壁付バスケットゴール (吊下げ式)
④	メインスピーカー
⑤	サブスピーカー
⑥	受信機
⑦	校歌額

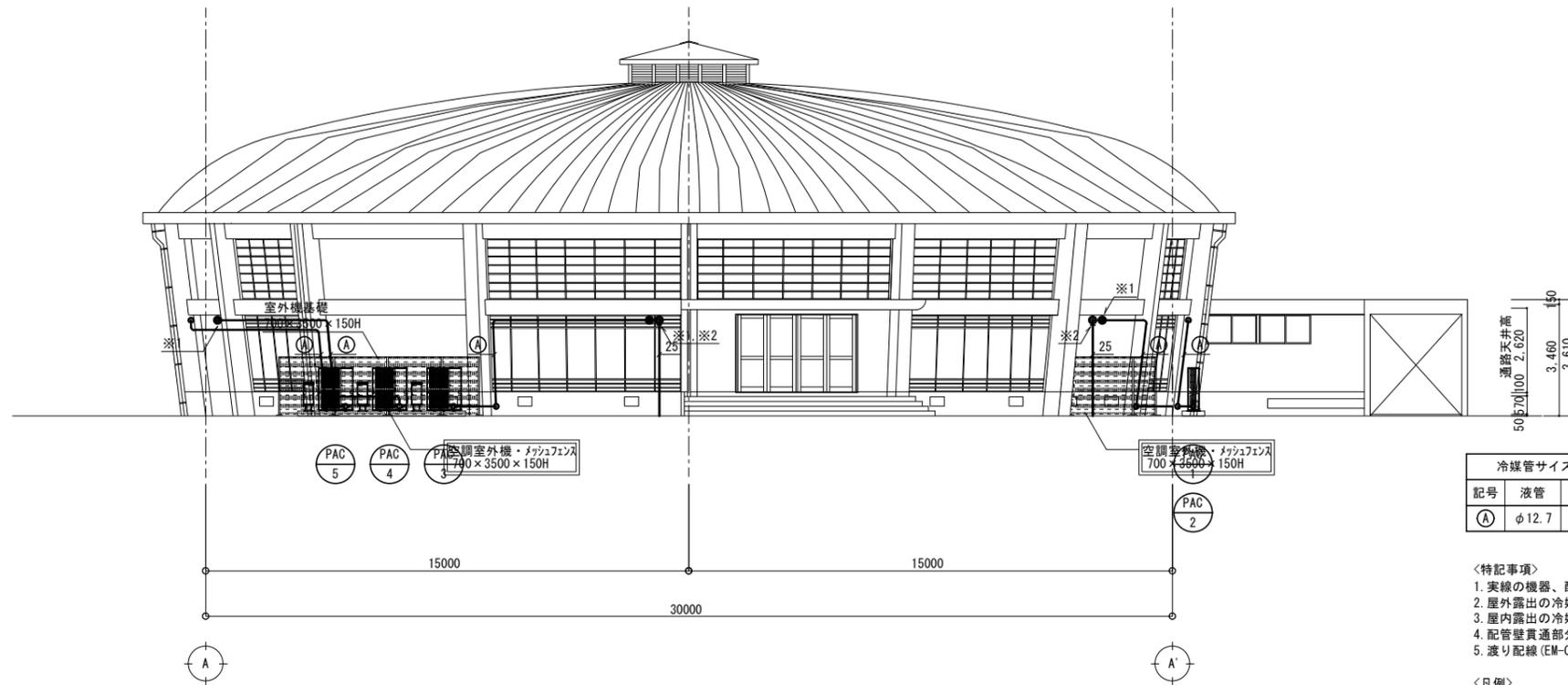
記号	液管	ガス管
Ⓐ	φ12.7	φ25.4

- <特記事項>
1. 実線の機器、配管類は新設とする。
 2. 屋外露出の冷媒管は、全てガルバリウム鋼板ラッキングにて施工とする。
 3. 屋内露出の冷媒管は、全て銅板製スリムダクト相当品にて施工とする。
 4. 配管壁貫通部分穴あけは設備工事とする。
 5. 渡り配線 (EM-CE3.5口-4C) は、本工事とする。(冷媒管共巻き)

- <凡例>
- ※1: 壁穴開φ125×200L
 - ※2: 壁穴開φ50×200L
- ※RC壁のコア抜きの際はレントゲンによる鉄筋探査を見込む事とする。



西立面図(改修後)S=1/100



北立面図(改修後)S=1/100

冷媒管サイズ表

記号	液管	ガス管
Ⓐ	φ12.7	φ25.4

- <特記事項>
1. 実線の機器、配管類は新設とする。
 2. 屋外露出の冷媒管は、全てガルバリウム鋼板ラッキングにて施工とする。
 3. 屋内露出の冷媒管は、全て鋼板製スリムダクト相当品にて施工とする。
 4. 配管壁貫通部分穴あけは設備工事とする。
 5. 渡り配線 (EM-OE3.5□-4C) は、本工事とする。(冷媒管共巻き)

- <凡例>
- ※1: 壁穴開φ125×200L
 - ※2: 壁穴開φ50×200L

※RC壁のコア抜きの際はレントゲンによる鉄筋探査を見込む事とする。